

平成 27・28 年度 教育課程研究指定校事業【特別活動】

公開研究会

研究主題

自分のよさを積極的に発揮しながら、協力してよりよい生活を
創っていかうとする子どもの育成

～思考力・判断力・実践力を育てる指導と評価の工夫～

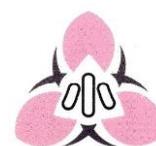


平成 28 年 11 月 11 日（金）

主 催：仙北市教育委員会



仙北市立角館小学校



目 次

ごあいさつ
仙北市教育委員会 教育長 熊谷 徹
角館小学校 校 長 田口 桂一郎

日程・全体会・・ 2

公開授業・分科会一覧・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3

<研究編>

I. 研究の概要・・ 5

1. 研究主題 設定の理由

2. 研究体制 2年間の主な取組

II. 研究の実際・・ 7

1. 研究内容

2. 具体的な研究活動

III. 特別活動各部会の取組・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 12

1. 学級活動部

2. 評価調査部

3. 環境整備部

<資料編>

○資料1 「特別活動全体計画」・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 21

○資料2 「学級活動年間指導計画」・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 22

○資料3 「学級活動（2）年間指導計画」・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 28

○資料4 「評価規準表」・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 36

○資料5 「学級活動ノート」・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 39

○資料6 「学級会の進め方」・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 45

○資料7 「アンケート」・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 47

○資料8 「提案カード」・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 51

○資料9 「委員会カード」・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 52

<実践編>

○研究授業指導案・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 53

○記録・・ 96

<指導案綴>

○指導案・・ 107

ご指導いただいた先生方・研究同人

I 研究の概要

1 学校の概要

本校は、平成20年度に3校が統合して開校し、児童・職員合わせて500人近くが在籍する大曲・仙北地区では、児童数が2番目に多い学校である。地域の祭りや伝統を大切に思っている児童が多様なことに興味や関心をもつことができるという長所が見られる半面、自分で考え判断して行動したり、目標を立て見通しをもって取り組んだりすることに、課題が見られる。また、自分を通そうとする思いが強く、好ましい人間関係を築けない児童、生活習慣の乱れから学校生活にしっかりと向かうことができない児童、規範意識や集団の一員としての役割や責任を果たそうとする意識が低い児童も少なくない。

そこで、児童が学級の友達と協力して活動したり、学年や学級を超えた様々な集団の中で、試行錯誤しながら進んで活動する経験を積んだりすることにより、集団の一員としての自覚や自己の生き方についてのよりよい認識を深め、諸問題を解決しながら協力して生活しようとする自主的、実践的な態度を身に付けることを目指している。

特別活動の充実により、学校が活性化するとともに、各教科等における学習意欲や学力の向上を期待し、昨年度より、平成27・28年度国立教育政策研究所教育課程研究センター関係指定事業（特別活動）の委嘱を受け、2年間の継続研究に取り組んできた。

2 特別活動研究主題

自分のよさを積極的に発揮しながら、協力してよりよい生活を創っていかうとする
子どもの育成 ～思考力・判断力・実践力を育てる指導と評価の工夫～

3 研究の内容や方法等

(1) 研究の重点

- ① 望ましい人間関係を形成し、集団の一員としてよりよい学校生活づくりに主体的に参画させるために必要な思考力・判断力・実践力を育てる指導と評価の工夫
- ② 話し合い活動を活性化させ、諸問題を解決しようとする自主的、実践的な態度と自己指導能力を育てる指導の工夫

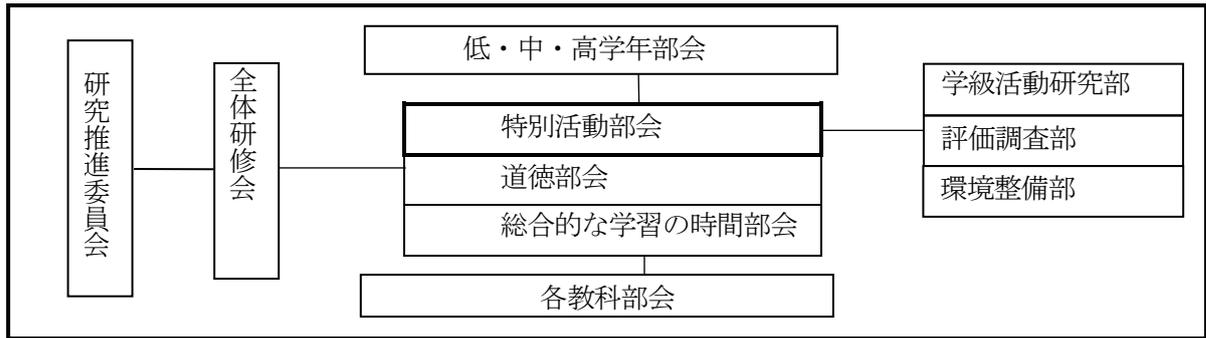
(2) 研究の実際

- ① 学級目標の設定の仕方の工夫と話し合い活動の充実
- ② 年間指導計画の見直しと適切な活用
- ③ 低・中・高学年の話し合い活動における、合意形成に必要な思考力・判断力・実践力を育てる指導と評価の在り方
- ④ 特別活動における自己指導能力としての思考力・判断力・実践力を育てる指導の工夫
- ⑤ 児童会の一員としての役割や諸問題を解決する方法などについて考え、判断し、協働して実践できる力を付ける児童会活動（委員会活動）の改善

(3) 成果の検証方法等

- 自己評価を基にした検証
 - ・学級活動カード
 - ・委員会活動カード
- 活動状況の記録を活用した検証
- 児童向け、教師向けアンケートでの検証
- 他教科等における効果の検証

4 研究体制等



5 研究計画

	実施時期	研究内容, 研究方法, 成果の公開等	期待される成果等
一 年 次	前期	<ul style="list-style-type: none"> ○研究テーマ, 学級目標の設定 <ul style="list-style-type: none"> ・児童の実態を把握し, 学校教育目標および研究主題にそって目指す児童像と望ましい集団づくりに向けた取組の計画を立てる。 ・話し合い活動における, 低・中・高学年の指導計画(合意形成に必要な思考力・判断力・実践力を育てる指導)を作成する。 ○児童会活動の組織, 委員会活動の活動内容等の計画 ○学級活動年間指導計画の見直しと適切な活用および, 話し合い活動における合意形成に必要な思考力・判断力・実践力を育てる評価についての共通理解を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・研究の方向性を共通理解し指導することで, 児童は共に支え合い向上し合える集団を形成しようとする意欲を高めることができる。 ・話し合い活動におけるめあてを意識するとともに, 児童一人一人が自分らしさを発揮しようとする。
	後期	<ul style="list-style-type: none"> ○研究の中間発表(公開研究会)の実施 <ul style="list-style-type: none"> ・他校からの参加を呼びかけ, 授業研究会を通して研究の課題について研修を深める。 ○研究の成果を検証し, 課題に基づいて次年度の方向性を明確にする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・話し合いを通して, 解決のための方策を考え, 話し合いを通して取り組んでいく力が育っていく。 ・自ら問題に気付き, 見通しをもって, 主体的に解決していこうとする態度が身に付いていく。
二 年 次	前期	<ul style="list-style-type: none"> ○前年度の成果と課題を生かした取り組みを継続し学級活動の充実を図る。 ○特別活動による各教科等への効果を具体化する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・話し合い活動の充実により, 学び合いが充実し, 考えを広めたり深めたりすることができる。
	後期	<ul style="list-style-type: none"> ○思考力・判断力・実践力を育てる指導と評価の工夫 <ul style="list-style-type: none"> ・公開研究会を開催し, 2年間の研究の成果と課題を明確にして検証する。 ○今年度の研修のまとめと来年度の方向性の立案, 検討 <ul style="list-style-type: none"> ・研究の成果と課題を明確にし, 次年度の研究の方向を探る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・課題解決力の向上によって主体的な学びが期待される。

6 研究のまとめや成果の普及方法等の見通し

研究のまとめの方向性

○人間関係力の向上

- ・自分とみんなを大切にし、共に支え合い向上し合える集団を形成することができる。
- ・認め合う集団の中で、児童一人一人が自分らしさを発揮できるようになる。

○自己指導能力の向上

- ・話し合いを通して、解決のための方策を主体的に考え取り組んでいく力が育っていく。
- ・自ら問題に気づき、見通しをもって主体的に解決していこうとする態度が身に付いていく。

○各教科等における学力の向上

- ・話し合い活動の充実により、学び合いが充実し、考えを広めたり深めたりすることができる。

本研究の成果を他校等に発信する具体的な方法等

- ・公開研究会を実施し、研究の成果のまとめと普及、今後の課題を明確にする。
- ・校内授業研究会の内容・日程を近隣の学校や大曲仙北特別活動研究会に連絡し、普及と同時に指導を得られるようにする。
- ・ホームページを通じて指導案や実践の内容を随時掲載していく。

II 研究の実際

1 研究内容

(1) 学級目標設定の仕方の工夫

学級活動（2）の内容で、教師が1年間を見通した目指す学級像を明確にし、児童の願いを生かしながら学級目標を設定する。

(2) 教室環境の整備

(3) 話し合い活動の充実

国立教育政策研究所発行の指導資料を活用し、理論を学び、全教職員で共通理解を図る。

(4) 年間指導計画の見直しと適切な活用

学級ごとに、年間指導計画を作成し、運用しながらよりよいものを目指す。

(5) 低・中・高学年の話し合い活動における、合意形成に必要な思考力・判断力・実践力を育てる指導と評価の在り方について

「評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料」【小学校 特別活動】（国立教育政策研究所）を参照しながら、低・中・高の「話し合い活動」指導のねらい・評価規準を作成する。

(6) 自己指導能力としての思考力・判断力・実践力を育てる指導の工夫

学級活動（2）の授業を展開の基本形にそって進め、解決方法を話し合っ考える活動や板書を工夫して、具体的に個人目標を自己決定できるようにする。

(7) 児童会の一員としての役割や諸問題を解決する方法などについて考え、判断し、協同して実践できる力を付ける児童会活動（委員会活動）の改善

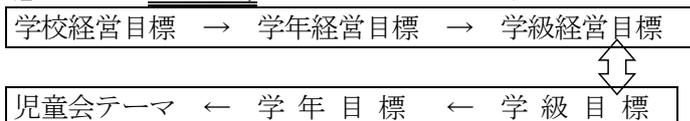
委員会活動で活用する評価カードを工夫する。

2 具体的な研究活動

(1) 学級目標設定の仕方の工夫

研究部より学級目標づくりの基本姿勢と手立てを提示し、学級作りの指標となる学級目標を児童とともに作成した。教師の明確な学級経営の方針を示した上で、教師の適切な指導の下に、グループ、係、当番等、学級組織づくりを行い、仲よく協力していこうとする自発的自治的な態度を啓発するようにした。

○学年で目標の意味づけを共通理解して進めることが大事



○学級目標は(2)の内容で扱う

学級目標は、あくまでも教師の指導のもとであるが、子どもたちの思いや願いが前面に出るようにして学級全体で作り上げる。

○決定のプロセスを大事に

○教師の学級に対する思いを発信

(2) 教室環境の整備（環境整備部の提案で全学級統一）

教室に、「学級会コーナー」や「学級の歩み」（学級会の記録や活動のふりかえり）を掲示することで、児童がよりよい学級作りや学級にしようとする意欲の向上を図るようにした。

(3) 話し合い活動の充実

計画委員が効率よく話し合いを進められるように、角館小学校「学級会の進め方」を作成し、研修会で模擬授業を行い、共通理解を図った。児童の自尊感情や自己有用感を高めるための指導・支援についても協議を行った。

学級会の前に児童が自分の意見を書いておくところから、集会等実践の場面で活動のふりかえりを書くまで一連の活動について記録できる「学級活動ノート」を作成した。児童一人一人がクリアケースやファイルに保管しておき、活動のポートフォリオ評価としても活用している。

また、「出し合う→比べ合う→まとめる（決める）」の話し合いの流れがわかり、児童の思考の可視化・操作化・構造化につながるような板書を計画するようにした。教師による模擬授業で話し合いの流れを確認し、国立教育政策研究所発行の指導資料にある板書の例を参考に、児童が見通しをもって話し合いを進め、時間内に決めることができるようにした。

(4) 年間指導計画の見直しと適切な活用

学級ごとに学級活動の年間指導計画を作成し、学級目標と学級経営目標、(1)の予想される議題例、(2)のねらい＜学年統一＞を明記した。(2)のア～キを発達の段階を考慮し、配当時間の見直しを行った。

(5) 低・中・高学年の話し合い活動における、合意形成に必要な思考力・判断力・実践力を育てる指導と評価の在り方

指導については、学級活動ノートへの意見の事前記入、話し合いの視点の明確化、学級目標を意識しての話し合い、視点を明確にした板書の工夫、低・中・高学年ごとの話型にそった発言（中・高学年は自分の言葉で）、ペア・グループでの話し合いを取り入れることを共通理解のもと、実践してきた。

評価に関わっては、低・中・高学年ごとに、「話し合い活動」指導のねらい・評価規準を作成し、これを基に、授業では、目指す児童の姿を具体的にイメージして指導できるようにしたいと考えている。また、これに基づき、評価調査部で質問紙とチェックシートを作成した。

(6) 自己指導能力としての思考力・判断力・実践力を育てる指導の工夫

学級活動(2)の授業は、児童が自ら努力目標を自己決定し、その実現に取り組めるよう展開の基本形にそって進め、展開を工夫するようにした。板書計画を立てたり、教師がチームティーチングで情報を提供したり、みんなで解決に向けて話し合う場を設けたりした。

1 梅 はやねで パワーゼンかい



(7) 児童会の一員としての役割や諸題を解決する方法などについて考え、判断し、協同して実践できる力を付ける児童会活動（委員会活動）の改善

委員会活動で活用する評価カードを見直し、ふり返りがしっかり行えるようなカードを作成した。前期のふり返りを生かし、代表委員会での話合いの提案としてつなげることができた。

3 28年度の新たな取組

思考力・判断力・実践力を育てる指導と評価の取組として

- 「違いや多様性を生かす」「建設的に考える」「折り合いを付ける」などの思考力を育てるためにも、思考ツールを活用する
- 実践力を育てるため、話合いや実践後に振り返る活動を位置付けるとともに、「学級の歩み」に掲示することで評価に生かす。

(1) 思考力・判断力・実践力を育てるための学級活動のさらなる充実

① 話合い活動のステップアップ

ア 学級活動（1）において「話し合うこと」の設定

⇒ 45分かけて話し合う価値のある内容に絞る。

※「話し合うこと」の設定

「何をするか」「どのようにするか」「係分担はどうするか」

- ・「何をするか」については、学級活動コーナーに掲示するなど、事前に考えを出し合っておき、本時は賛成・反対の「くらべ合う」からにする。

- ・高学年以上は、「どのようにするか」に重点を置く。

イ 計画委員の準備の指導

朝の活動時間の活用

ウ 児童の発言

しっかり挙手して、同じ考えでも自分の言葉で言えるようにする。

根拠（理由）を明確にして発言させる。反対の時は代案を示す。

エ 振り返りの工夫

実践における振り返りでは、「楽しかった」「なかよくできた」ではなく、何のためにやったのか・やるのか、学級会での話合いを生かした取組や工夫ができたかを子どもたち自身にしっかり意識させ、そのために自分はどういうことに取り組むのか、それでどうだったかと振り返りの視点を与え学級活動ノートに書かせるようにする。この積み重ねにより、子どもたちの自己指導能力を高めることができると考える。

② 板書の工夫

児童が思考を整理できる板書を構成する。思考ツールや短冊、磁石を活用し、話合いの視点を明確にし、思考を分類・整理して決めやすくするように工夫する。

・思考ツールの活用

ツールを用いる目的を明確にして、その内容に合わせてツールを選択する。

- 話し合う際の「考える視点」を明確にすることができる。
- 意見を比べる際に、意見を分類・整理して決めやすくすることができる。
- 話し合いの過程や思考を可視化し、板書を構造化することでよりよいものを考え出すことができる。
- それぞれの考えの違いやよさを比べるなど、考えが交流でき、折り合いを付けて話し合うことができる。

指導の目安として

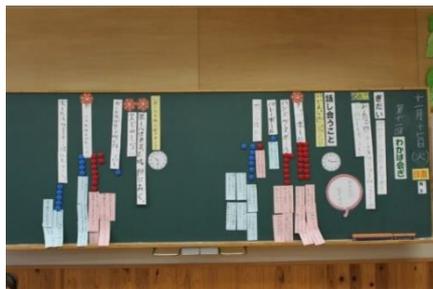
1・2・3年 短冊・磁石・思考ツール（一方向矢印） 4年 短冊・磁石・思考ツール（座標軸）

5・6年 短冊・思考ツール（座標軸・ピラミッド）

※1～3年では話し合いの基本型を、4年以上は「よりよい考えを見付ける」ことを意識させる。

短冊や思考ツールの活用

4竹 4竹ボールでなかよくなるう （短冊）



- ・意見を書いた短冊
賛成・反対の理由（根拠）
を書いた短冊
- ・視点（めあて）に沿って色
を変えた短冊等の活用
- ・賛成・反対マーク（赤青マ
グネット）の活用

4梅 とどけよう熊本へ！4梅ビデオレター
～思いやりプロジェクトPART 2～
（座標軸）



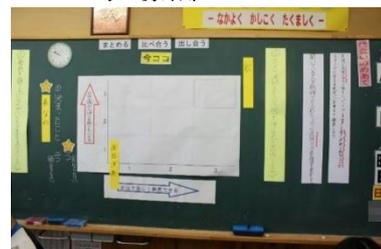
2松 がんばったね集会の「おにごっこ」
を決めよう
（矢印）



6松 さくら満開ステージにクラス全員で出場しよう
（ベン図）



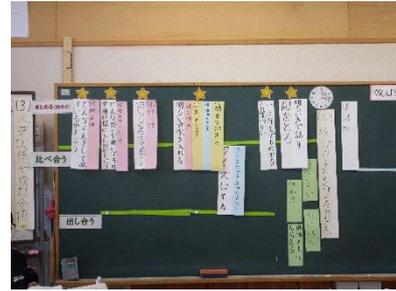
（座標軸）



4松 給食の準備の工夫を考えよう (ピラミッド)



6竹 6竹学級紹介をしよう (ステップアップ)



③ 教室掲示

実践したことが見えるよう、教室環境を整える。話し合い、集会の積み重ねが見える学級づくりを目指す。

④ 年間指導計画

学級活動(2)の指導を系統図に示す。実践しながら、年間指導計画に書き足していく。

⑤ 学級活動(2)の指導

学級活動(1)との指導の違いを明確にし、即実践につながる解決方法を自己決定できるようにさせる。

⑥ 係活動の指導

係の種類、創意ある活動内容の工夫、活動の活性化

⑦ 評価の工夫

- ・評価規準見直し ⇒ 「話し合い活動」指導のねらい・評価規準参照
- ・児童質問紙と同じ項目で教師も一人一人をチェックして集計

(2) 児童会(委員会)活動の活性化

① 委員会活動の見直し

- ・仕事の内容の検討 「自分たちの力でよりよい学校生活を創りあげる」という視点で
「どのような仕事を児童に任せられるのか」も検討
学校生活を維持するための活動と児童の願いや発想が活かされる活動
のバランス
- ・環境整備 児童会室の設置
上級生が下級生に教えながら自分たちで活動できるように

② 代表委員会の役割の明確化

- ・代表委員会の年間計画
- ・時間設定(週時程の工夫)

Ⅲ 特別活動各部会の取組

1 学級活動部

(1) 学級活動年間指導計画

- ① 学級目標と学級活動（１）の予想される議題名は、学級ごとに作成。
- ② 各学級で話し合った議題と設定した「話し合うこと」を集約する。
- ③ 学級活動（２）は、学年共通で。学年を追って系統的に指導できるように考えた。

学級活動年間指導計画【6年松組】

学級目標 (子どもたちの願い)	ねばり強く考え 協力して友情を深め 最上級生としてやりとげる 6松	学級経営目標 (教師の願い)	○「がまん」を合言葉に、責任を持って当番活動、委員会活動に取り組み、学級の一員としての意識を深める。 ○「向上心」を合言葉に家庭学習を習慣化し、基礎学力の定着を図る。 ○「協力」を合言葉に係活動などに友達と力を合わせて取り組み自分の得意なことに気づくことで自尊感情を育成する。	
学期 月 (週)	(1) の内容 <学級や学校の生活づくり> ア 学級や学校における生活上の諸問題の解決 イ 学級内の組織づくりや仕事の分担処理 ウ 学校における多様な集団の生活の向上	(2) の内容 <日常生活や学習への適応及び健康や安全> ア 希望や目標を持って生きる態度の育成 2 イ 基本的な生活習慣の形成 1 ウ 望ましい人間関係の形成 2 エ 清掃などの当番活動の役割と働くことの意義の理解 2 オ 学校図書館の利用 1 カ 心身ともに健康で安全な生活態度の育成 1 キ 食育の観点を踏まえた学校給食と望ましい食習慣の形成 1	(2) 指導のねらい	
前期	4 (3)	(予想される議題例) <話し合い①②③～話し合うこと> ・前期の係を整えよう <①係の種類はどうするか ②係活動が活発になる工夫> ・運動会を成功させよう <①運動会のテーマはどうするか ②役わり分たんはどうするか> ・学校生活を見直そう <①廊下の歩き方でどんなところを見直すか ②歩き方を良くする方法> ・五年生に思いを伝えよう <①宿泊学習が成功するためのプレゼントを何にするか ②思いを伝えるための工夫> ・一年生と交流しよう <①何をするか ②どんな工夫をするか> ・さくら満開ステージに全員で出場しよう <①何を発表するか(5分以内で1つか2つ) ②どんな工夫をするか> ・たっちヒーローをたくさん見つけよう <①たっちヒーローの見つけ方を考えよう ②紹介の仕方を考えよう> ・あいさつ運動を成功させよう <①あいさつをよくするための方法を考よう ②返事を良くするための工夫> ・スポーツ大会を開こう <どんなスポーツをするか(1つか2つ) ②友情を深めるための工夫> ・休み時間の過ごし方を考えよう <①室内でできる遊びを考えよう ②時間のルールを考えよう>	□最高学年としての自覚をもとう(ア) [2年生になって、こんな3年生に、こんな4年組に、高学年のスタート(5年)] □最上級生としての役割(エ) □バランスのとれた食事を(キ) <家庭科「くふうしよう朝の生活」> ◆男女の協力(ウ)	・進級を喜び、最高学年としての自覚と責任をもたせるとともに、よりよい学級や学校にしていこうとする意欲を高める。 ・当番活動や委員会活動などへの取組を通して、働くことの意義を考えるとともに、学校全体のことを考えて活動しようとする意識を高める。 ・日常の食生活を振り返り、5大栄養素とその役割に気を配りながら、自分の食生活の何を改善したらよいかを考えさせる。 ・異性の友達のよさを認め合い、特性を生かしながら、互いに協力してよりよい学級を築き上げていこうとする気持ちを高める。
	5 (3)			
	6 (4)			
	7 (3)			
	8 (1)			
	9 (3)			
	10 (1)			

学級ごとに作成

学年で共通 学級活動（２）の指導内容を学年の発達の段階や実態を考慮し、系統的に配列した

(2) 学級活動ノート作成

「話し合いの振り返り」と集会等実践の「振り返り」までが一緒になった学級活動ノートを作成した。

- ① 話し合いの振り返りには記述する欄を設け、話し合いのめあてに対する振り返りや友だちから学んだことを記入するようにした。
- ② 実践後の振り返りには、学級会での話し合いを生かした取組が記載されることを目指し、指導した。

(3) 学級活動の積み重ね

- ① 視点を明確にして授業を参観し、授業研究会では、グループに分かれて付箋を用いて協議し成果と課題を明らかにしていくようにした。
- ② 同学年で児童も一緒に学級会を参観した。

児童の感想より



下学年の感想

- ・副司会の方は、時間をみんなに教えたり、理由の助けを言ってくれたりした。
- ・意見を言う人は、理由を必ず言っていた。
- ・当てられたときはきはき話して、姿勢もシャキーンとなっていた。
- ・副司会の方がまんべんなく当てていた。
- ・意見をはっきりすらすら言えていてまねしたい。
- ・提案理由にあった理由を言っていた。

上学年の感想

- ・「決まっていること」や条件に合わせて意見を言っていた。
- ・時間内に終わらせるために色々な準備を工夫していた。・反対意見の人を納得させることができてすごい。反対の人にもきちんと聞くことが大切だと思った。
- ・「出し合う」の時間を少し短くして、「くらべ合う」の賛成意見などの時間をもう少し長く取るといいと思う。
- ・理由に説得力があったり（圧倒された），司会者と参加者が協力し合ったり，反対意見を有効に使ったりしていた。
- ・いいところをもらって、自分たちの話合いに生かしたい。

(4) 板書計画を立てる。

① 指導案とともに、板書計画を立てるようにした。それをもとに事前に計画委員の児童と打ち合わせをすることで、話合いの見通しをもつことができた。

② 学級活動（２）の取組

自己指導能力を育てることができるよう、授業展開の基本形にそって進めるようにした。

また、児童の問題意識を高めるため、事前にアンケートを実施したり、役割演技を取り入れたりみんなで解決に向けて話し合う場面では、グループごとに付箋や思考ツールを活用するなどして、児童一人一人が自分に合った具体的なめあてや方法を自己決定できるようにした。

3松 「言葉づかいを振り返ろう」



役割演技



付箋を使つての話合い

(5) 学級活動を活性化するために

- ① 望ましい聞き手、安心して話し合える集団の育成と言語活動の充実
- ② 計画委員との打ち合わせ時間や話合いの準備の時間の確保
「朝の活動」 木・金 8:20～8:35



③ 係活動の充実

当番活動との違いをはっきりさせる。係の種類や活動内容については、「創意工夫すること」と「協力して学級生活を楽しくする活動を行うこと」を指導する。

④ 実践後の振り返りを次の話合いに生かせるようにする。

《集会やみんなで取り組んだことを振り返りましょう》

☆話し合ったことを生かして、取り組みましたか。	よくできた できた もう少し
☆自分や友だちの役わりを考え、工夫しながら取り組むことができましたか。	よくできた できた もう少し
☆信頼し支え合って、楽しく活動することができましたか。	よくできた できた もう少し
<p>今までやったことのない、バレーをやっている人な人にバレーがまわったのでとても楽しかったです。</p> <p>話し合いでは、もっと細かいいところまで決めてあげればもっと楽しめたと思います。</p>	

《集会やみんなで取り組んだことを振り返りましょう。》

☆学級目標や自分のめあてにそって取り組みましたか。	よくできた できた もう少し
☆自分の役割を進んでできましたか。	よくできた できた もう少し
☆友達と協力し合って、楽しく活動することができましたか。	よくできた できた もう少し
<p>夏休み前最後の楽しみ会で、とっても心に残る思い出ができました。他の仕事も進んでできたし、ほかの係も、進んで準備をかんはっていたので、最高のお楽しみ会ができたと思います。夏休み明けの学級会でも意見の理由を明確にして発表していきたいです。</p>	

さんならできます。がんばってね。期待しています。

2 評価調査部

○概要

平成27年7月と12月、平成28年5月と9月に、全児童と学級担任を対象に特別活動についてのアンケート「学級活動についての質問」を実施した（平成28年5月は1年生を除いた児童を対象に実施）。平成27年と28年アンケートの質問表現は若干異なるものの、いずれのアンケートも、「聴く力」「話す力」「話し合う力」「実践する力」「協力性・協調性」の5項目について、それぞれ4段階で回答するようにした。（資料7）

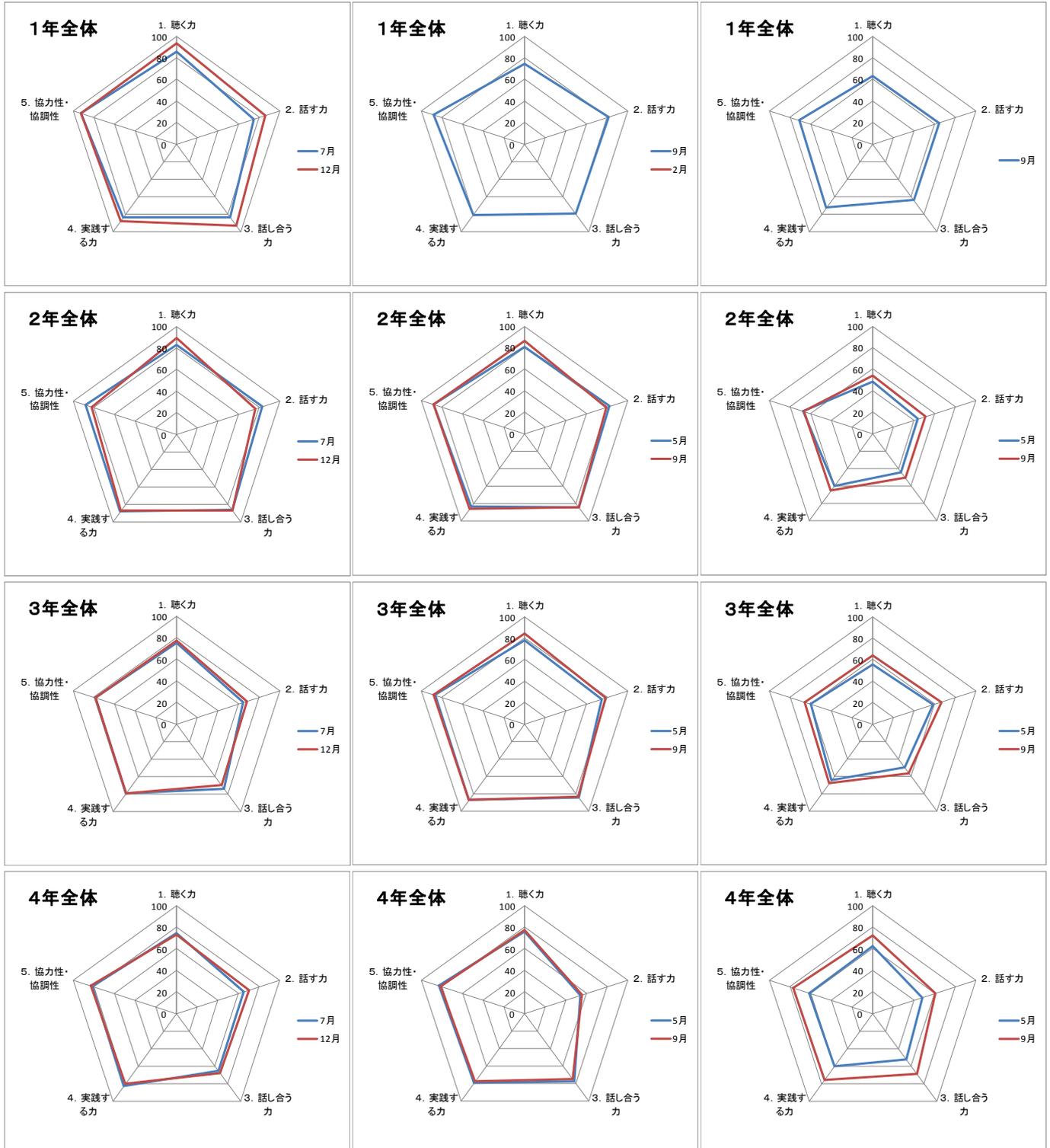
平成27年度と28年度とではアンケートの調査方法を変更した。平成27年度は「教師の評価」を、担任が学級全体を総合的に判断して評価したが、平成28年度は、担任する児童一人一人について評価するようにし、一人一人の児童の姿から学級の傾向を捉えるようにした。

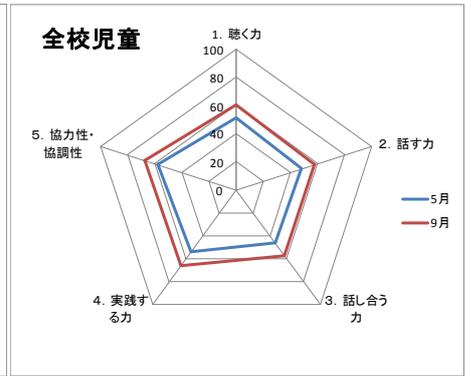
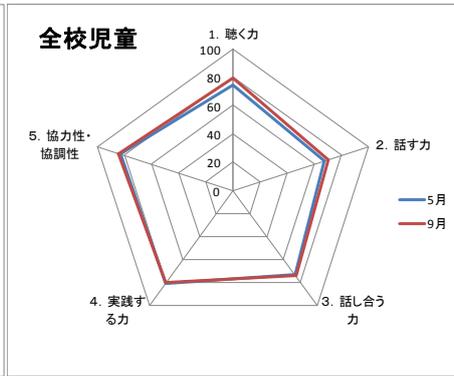
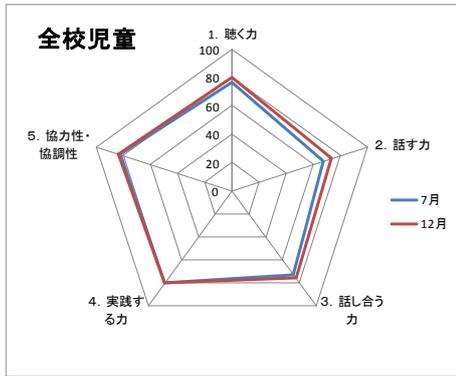
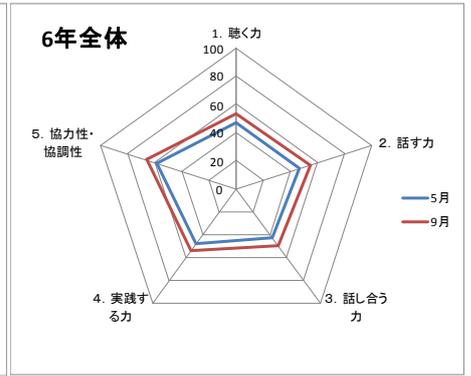
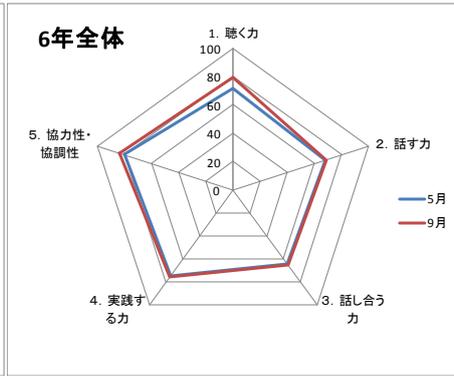
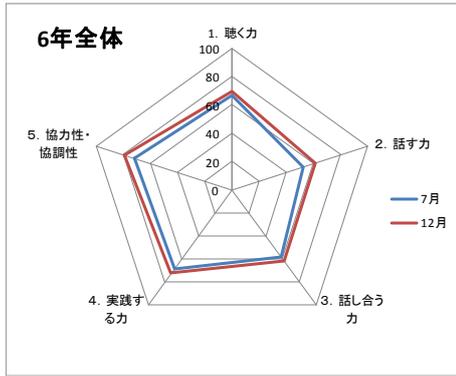
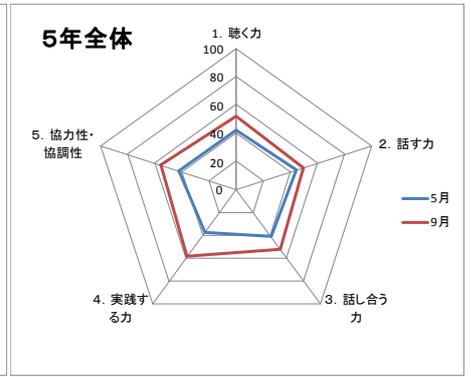
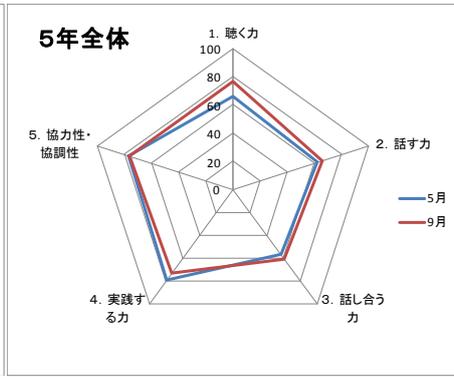
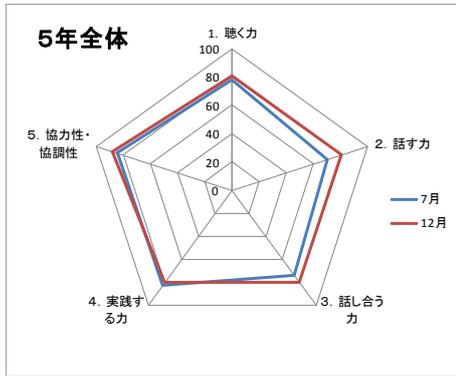
以下のレーダーチャートは、それぞれの質問項目に対し、「強くそう思う」を3点、「そう思う」を2点、「あまり思わない」を1点、「そう思わない」を0点と点数化して平均し、百分率で表したものである。

平成27年度 児童自己評価

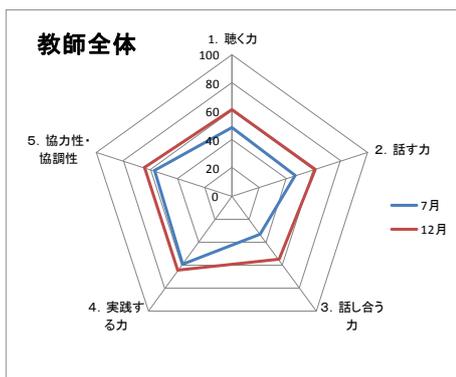
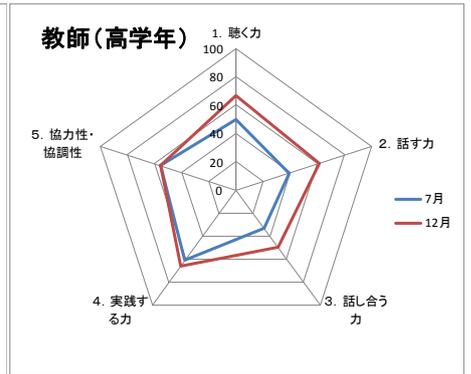
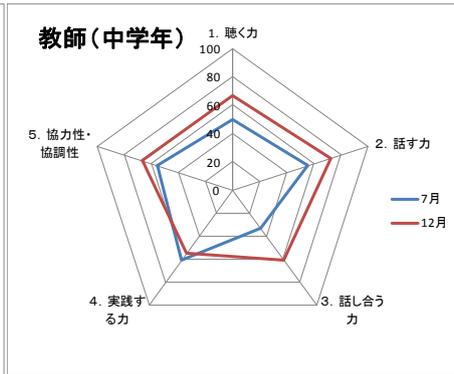
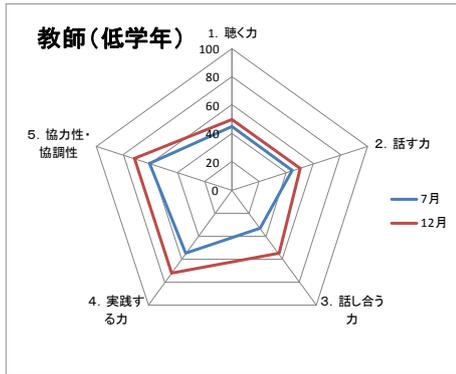
平成28年度 児童自己評価

平成28年度 教師の評価





平成27年度 教師の評価

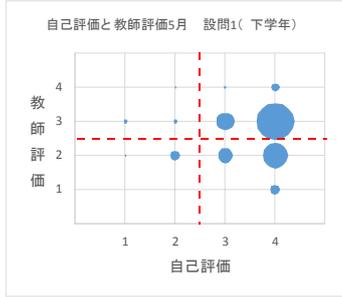


平成28年度5月と9月 児童自己評価と教師の評価の相関

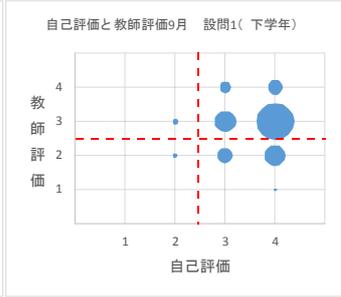
以下のバブルチャートは、児童の自己評価を x 軸、教師の評価を y 軸、人数をバブルの大きさとして表したものである。

○下学年

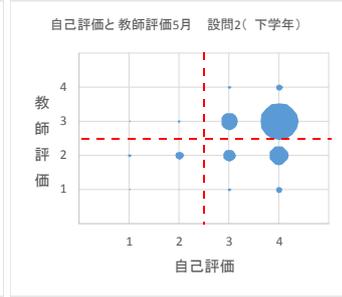
【質問1】 5月



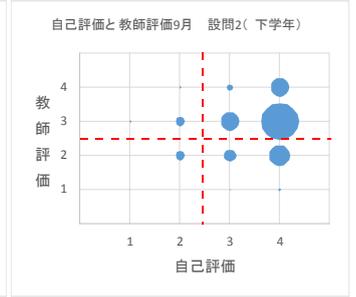
9月



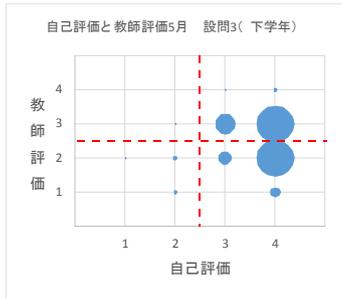
【質問2】 5月



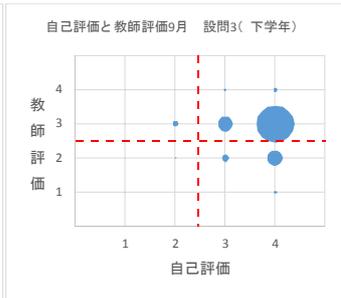
9月



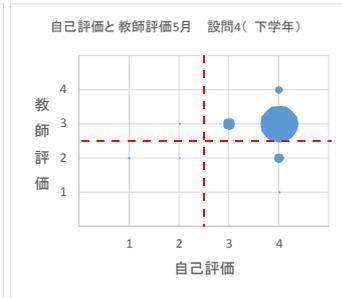
【質問3】 5月



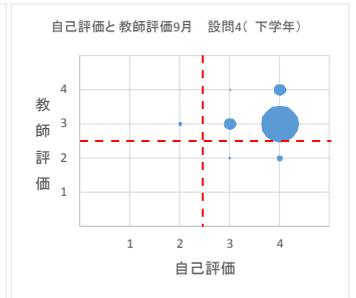
9月



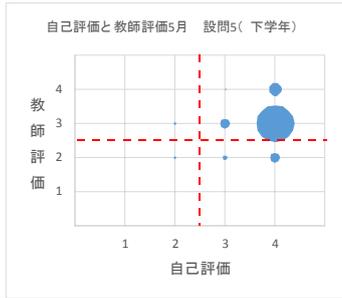
【質問4】 5月



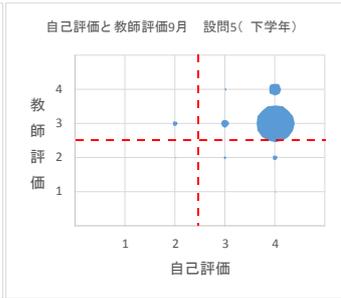
9月



【質問5】 5月



9月



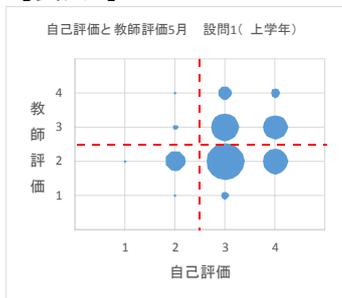
評価
4:強くそう思う
3:そう思う
2:あまりそう思わない
1:そう思わない

低・中・高学年それぞれの質問

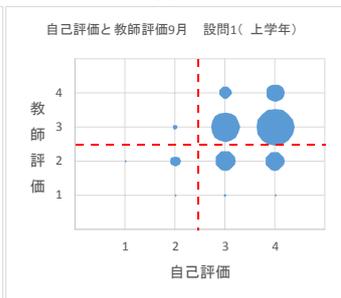
	低学年	中学年	高学年
質問1	ともだちのはなしをさいごまで聞いていますか。	じぶんの考えと比べながら、友だちの話や意見を聞いていますか。	友だちの話や意見のよさを見つけながら聞いていますか。
質問2	「はなしかたのれい」をもとに、はっぴょうしていますか。	りゆうをはっきりさせて、わかりやすく発表していますか。	自分の言葉で話したり、よくしているとする積極的な態度で意見を発表したりしていますか。
質問3	ともだちのいけんをよくきいて、なかよくたすけあって、話合いをしていますか。	自分とちがう意見もしっかり聞き、自分もよくみんなもよいことを考え、話し合っていますか。	少数意見の生かし方や反対意見の改ぜん策も考えながら、話し合っていますか。
質問4	学きゅう会でできたことや、じぶんのやくわりにとりくみましたか。	学級会で決まったこと、自分や友だちのやくわりを考えて、取り組んでいますか。	自分や友だちの役割を考え、工夫しながら取り組んでいますか。
質問5	なかよくたすけあい学きゅうせいかつをたのしくしていますか。	友だちときょうりよくし合い、楽しい学級生活にしていますか。	信頼し支え合って楽しく豊かな学級生活にしていますか。

○上学年 (第4学年～第6学年)

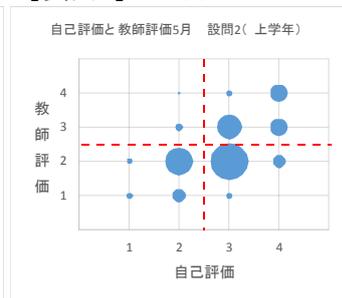
【質問1】 5月



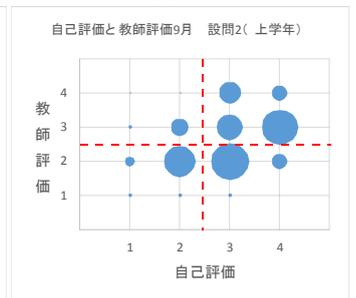
9月



【質問2】 5月



9月

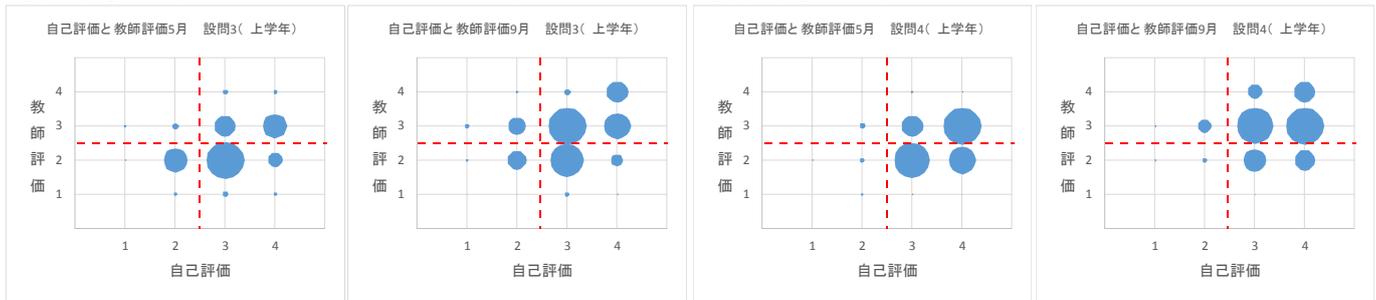


【質問3】 5月

9月

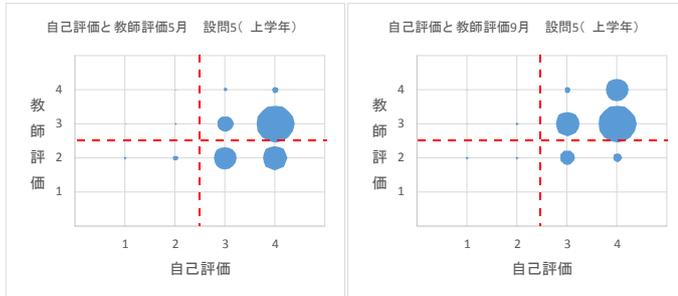
【質問4】 5月

9月



【質問5】 5月

9月



○アンケート結果分析

【傾向】

- ・児童全体で見ると、平成27年度、28年度ともに他の質問項目と比べて、「話す力」、「話し合う力」のポイントが若干低い。
- ・児童の自己評価と教師の評価では、ほとんどの学年、ほとんどの質問項目で、5から20ポイント程度の差が生じており、双方の評価が異なる。児童と教師の評価規準のずれが大きいことがうかがわれる。
- ・同一年度で見ると、ほとんどの質問項目で1回目より2回目のポイントが上回っている。特に、教師の評価のポイントの上昇が大きい。
- ・平成28年度で見ると、ほとんどの質問項目で、上学年ほど児童の自己評価と教師の評価との間に正の相関関係が見られる。上学年ほど自己評価能力が高いといえる。一方、下学年は、教師の評価と比べて児童の自己評価が高い傾向にある。
- ・平成28年度の5月と9月を比較すると、9月の方が、どの質問項目も、児童の自己評価が「3. そう思う」「4. 強くそう思う」、且つ、教師の評価が「3. そう思う」「4. 強くそう思う」に含まれる比率(バブルチャートの赤い破線で仕切られた右上の比率)が高くなっている。

【成果】

- ・教師の評価については、学年内のクラスによって若干の違いはあるものの、大きなずれは見られなかった。学年部で評価規準を確認して共通理解を図ることができた成果であると考えられる。
- ・平成28年のアンケート調査では、ほとんどの質問項目で、児童と教師が共通して肯定的に回答した割合(「そう思う」、「強くそう思う」を選択した割合)が高くなった。児童の自己評価能力の高まりと特別活動に重点を置いた研究の積み重ねによる成果と考える。
- ・「話し合うこと」が昨年度より上昇している学年が多く、学級活動ノートの活用、話し合い活動の活性化の成果であると考えられる。

【課題】

- ・児童に評価規準を説明しながらアンケートを実施したが、教師が求める姿を児童が理解していないのではないかとと思われる。本時の話し合いの内容と関連付けながら、話し合いの際に目指す姿の具体を児童に分かりやすく提示する必要がある。
- ・話し合い活動の「型」ができており、理由を付けて話したり、聴いたりしようとする意欲も高まってきているので、友達の意見をしっかり受けとめてから、自分の意見に根拠をもって話すことや、内容面での話し合いの深まりについても意識付けていく必要がある。
- ・評価が低い項目を学年の重点項目として、共通理解を図っていく。
- ・学級活動ノートに「振り返り」をしっかり記述するよう指導する。話し合いの振り返りだけではなく、実践した後の振り返りには、話し合いを生かしたことについても記入させ、「学級のあゆみ」に掲示し、よかったことやがんばりを意識付けて、次の話し合いに生かせるようにする。

3 環境整備部

(1) 学級会グッズの作成

- ・学級活動コーナーや板書に使用する表示カード
- ・話し合いの流れ ⇒ 見通しをもって時間内に話し合いをするための目安に
- ・時計表示

(2) 学級活動コーナー

教室環境の整備（環境整備部の提案で全学級統一）

教室に、「学級会コーナー」や「学級の歩み」（学級会の記録や活動のふりかえり）を掲示することで、児童がよりよい学級作りや学級会にしようとする意欲の向上を図るようにした。

- ・「学級会コーナー」の掲示

教室前の柱 → 話し合う日 議題 提案理由 決まっていること 話し合いのめあて
話し合うこと

柱横の掲示版 → 計画委員のメンバー 学級会の記録

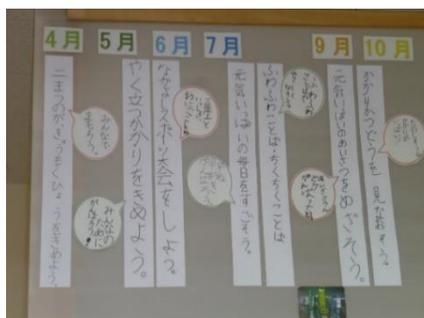
学級会の予定を書き込み。活動の見通しや意欲を高める。



(3) 学級の歩み

「学級の歩み」の掲示 → 学級会や学級集会の記録等

「振り返り」も掲示し、感動したことや学んだことを学級全体で共有化。



活動の積み重ねを掲示することで、学級としての意識が高まり、活動の活性化につながる。

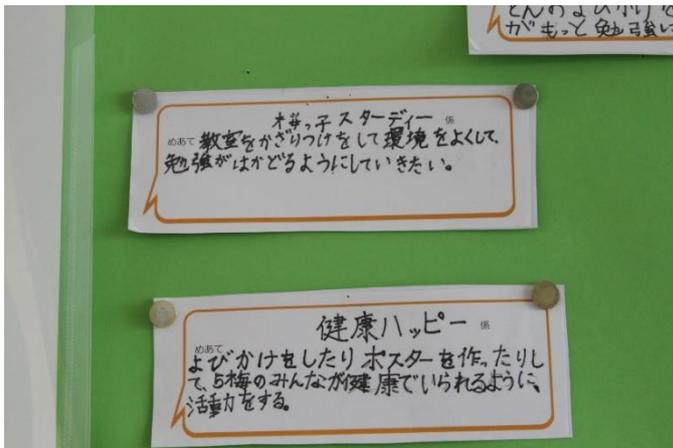
(4) 係活動コーナー

「係活動コーナー」の掲示

学年色のラシヤ紙の上に係の計画や係からのお願いなどを貼る。全学級が同じ場所に掲示することで、児童の情報交換も可能に。

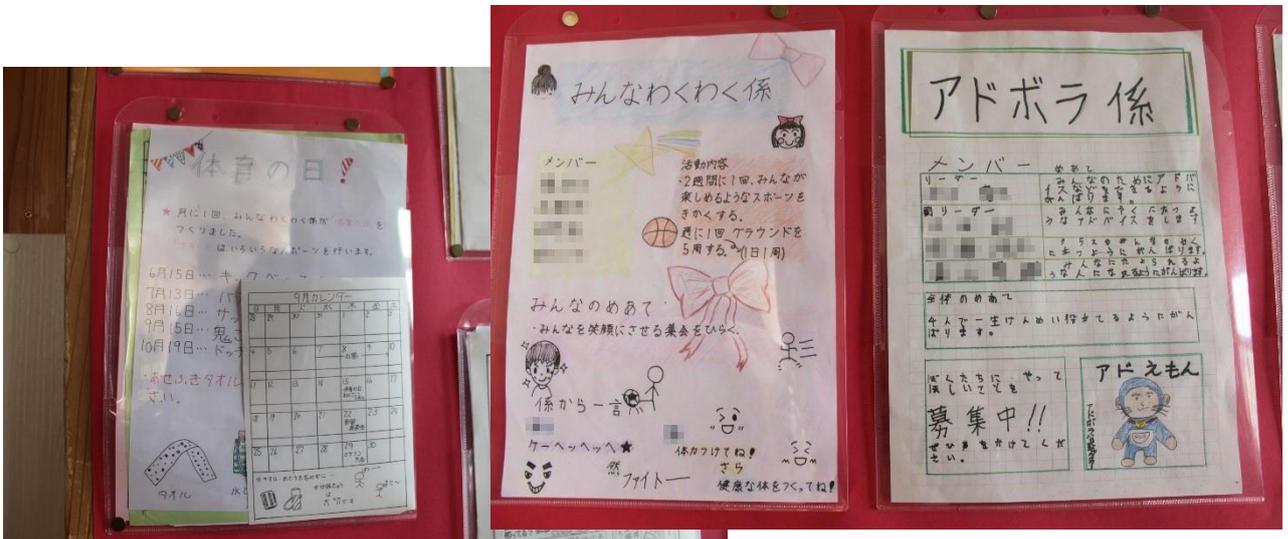
係活動

児童が仕事を見いだして創意工夫し、学級の生活をより主体的、自主的で豊かなものしていく活動で、学級生活の向上につながるようにする。



係の種類・活動内容

係ごとに考えたり、学級会等で話し合ったりして創意工夫して取り組めるようにする。



特別活動

特別活動全体計画



学級活動年間指導計画【1年松組】

学級目標 (子どもたちの願い)	はなしをよくきき なかよくがんばる げんきいっぱい おひさままつきみ	学級経営目標 (教師の願い)	○自分や友達のよさを見つけ、認め合いながら協力し合える学級 ○よく聴き、よく考えながら集中して取り組むことができる学級 ○自分がやるべきことを最後までがんばりとおせる学級
--------------------	---	-------------------	---

学期	月 (週)	(1)の内容 ＜学級や学校の生活づくり＞ ア 学級や学校における生活上の諸問題の解決 イ 学級内の組織づくりや仕事の分担処理 ウ 学校における多様な集団の生活の向上	(2)の内容 ＜日常生活や学習への適応及び健康や安全＞ ア 希望や目標を持って生きる態度の育成 3 イ 基本的な生活習慣の形成 4 ウ 望ましい人間関係の形成 3 エ 清掃などの当番活動の役割と働くことの意義の理解 3 オ 学校図書館の利用 1 カ 心身ともに健康で安全な生活態度の育成 3 キ 食育の観点を踏まえた学校給食と望ましい食習慣の形成 3	(2)指導のねらい
前期	4 (3)	(予想される議題例) ＜話し合い①②③～話し合うこと＞ ・やくだつしごと(かかり)をみつけよう ＜①どんなかかりがあるとよいか ②どんなしごとをするとよいか＞ ・6ねんせいとなかよしになろう	<input type="checkbox"/> がっこうのやくそく(イ) <input type="checkbox"/> がっこうのいきかえりをあんぜんに(カ) <input type="checkbox"/> たのしいきゅうしょくにしよう(キ)	・道具の出し入れや廊下の正しい歩行の仕方など学校の基本的な約束事を身に付けさせる。 ・登下校の危険について考え、安全を心がける態度を身に付けさせる。 ・学校給食のきまりを知り協力して準備や後片付けをしようとする気持ちをもたせる。
	5 (3)	＜①なにをするか ②どことなくふうをするか＞ ・かかりのみなおしをしよう ＜①かかりのしごとをふりかえろう ②すすんでしごとができるくふうをかんがえよう＞ ・なかよししゅうかいパート1をしよう ＜①なにをするか ②どことなくふうをするか＞	<input type="checkbox"/> なかよしいっぱい(ウ) ◆がっきゅうのめあてをきめよう(ア) <input type="checkbox"/> おそうじがんばるぞ(エ)	・友だちのよいところを見つけ、みんなとなかよく過ごしていこうとする気持ちをもたせる。 ・どんな学級にしたいか話し合うことで、学級の一員であるという気持ちを高める。 ・掃除の手順や正しい道具の使い方を知り、きれいに掃除しようとする気持ちをもたせる。
	6 (4)		<input type="checkbox"/> ほんともだちになろう(オ) ＜国語「ほんはともだち」＞	・学校図書館の基本的な利用の仕方について理解させる。
	7 (3)		<input type="checkbox"/> たのしいなつやすみにしよう(イ)	・夏休みのきまりを覚えたり、夏休みにチャレンジしたいことを決めたりして、初めての長期休みに対する意欲を高める。
	8 (1)		◆はやねですっきりパワーぜんかい(イ) ※養護教諭とのTT	・早寝早起きが元気に過ごすために大切であることや睡眠の大切さを理解させる。
9 (3)		<input type="checkbox"/> なんでもたべよう(キ) <input type="checkbox"/> きゅうしょくじゅんぴ・あとかたづけをがんばろう(エ)	・食べ物にはいろいろな栄養があることが分かり、自分が苦手なものでも食べようとする意欲を高める。 ・給食の準備や後片付けの仕方を振り返り、進んでがんばろうとする気持ちをもたせる。	
後期	10 (3)	・こうきのかかりをきめよう ＜①がっきゅうがたのしくなるかかりをかんがえよう ②どんなかつどうをするか＞ ・なかよししゅうかいパート2をしよう ＜①なにをするか ②どことなくふうをするか＞	◆こうきにがんばること(ア) <input type="checkbox"/> おうちでのべんきょうのしかた(イ) <input type="checkbox"/> ふわふわことば・ちくちくことば(ウ) <input type="checkbox"/> おしごとしっかりできているかな(エ) <input type="checkbox"/> すききらいなくたべよう(キ) <input type="checkbox"/> あんぜんでたのしいふゆ休み(カ)	・後期にがんばりたいことを決め、めあてに向けて頑張ろうとする意欲をもたせる。 ・家庭学習の仕方を知り、進んで取り組むことができるようにする。
	11 (4)			・友達が不快に思う言葉を知り、お互いに気持ちのよい丁寧な言葉遣いをしようとする気持ちをもたせる。 ・当番の仕事を振り返ることで、これからの仕事をがんばろうとする意欲をもたせる。
	12 (3)			・健康な毎日を過ごすためには、バランスよく食べることが大切であるという気持ちをもたせる。 ・冬休みを健康で安全に過ごし、楽しく充実した日々になるよう、めあてをもつことができるようにする。
	1 (2)		<input type="checkbox"/> かぜにまけない ～手あらい、うがいのしかた～(カ)	・上手な手洗い、うがいの仕方を知り、風邪の予防に気を付けようとする気持ちをもたせる。
	2 (3)		<input type="checkbox"/> 6年生ありがとう(ウ)	・お世話になった6年生に感謝の気持ちを含めて、送る会や卒業式に参加しようとする気持ちをもたせる。
	3 (2)		<input type="checkbox"/> もうすぐ2年生(ア) [もうすぐ○年生(2～4年), 最高学年に向けて(5年), 中学生になるために(6年)]	・1年間を振り返り、がんばったことやできるようになったことを確かめ、進級への意欲をもたせる。
時数合計		14	20	

◆ 学年の重点内容

学級活動年間指導計画【2年松組】

学級目標 (子どもたちの願い)	やさしくえがおで はなしをよくきき げん気いっぱい いきいき2まつ	学級経営目標 (教師の願い)	○お互いの良さを認め合い、友だちにやさしく接し、笑顔があふれる学級 ○話を最後までしっかり聞き、自分の考えをはっきり伝え合うことができる学級 ○元気で安全に過ごし、何事も最後まで頑張りぬく学級
--------------------	--------------------------------------	-------------------	--

学期	月 (週)	(1)の内容 <学級や学校の生活づくり> ア 学級や学校における生活上の諸問題の解決 イ 学級内の組織づくりや仕事の分担処理 ウ 学校における多様な集団の生活の向上	(2)の内容 <日常生活や学習への適応及び健康や安全> ア 希望や目標を持って生きる態度の育成 2 イ 基本的な生活習慣の形成 3 ウ 望ましい人間関係の形成 3 エ 清掃などの当番活動の役割と働くことの意義の理解 3 オ 学校図書館の利用 1 カ 心身ともに健康で安全な生活態度の育成 2 キ 食育の観点を踏まえた学校給食と望ましい食習慣の形成 3	(2)指導のねらい
----	----------	--	---	-----------

前期	4 (3)	(予想される議題例) <話し合い①②③~話し合うこと> ・学びゆうにやく立つかかりをきめよう <①どんなかかりがあればいいか>	<input type="checkbox"/> 2年生になって(学級目標)(ア) [こんな3年生に, こんな4年〇組に, 高学年のスタート(5年), 最高学年としての自覚をもとう(6年)]	・2年生になった喜びを味わい, 進んで自分の目標を実践しようとする。
	5 (3)	・1年生に学校のことをおしえよう <①どんなことをおしえたいか> ・あいさつうんどうにむけてできることをかんがえよう <①どんなあいさつがいいか>	<input type="checkbox"/> こうつうルールを守ろう(カ) <input type="checkbox"/> そうじ・給食当番のしごと(エ)	・登下校の危険について考え, 安全を心がける態度を身に付け, 登下校できるようにする。 ・そうじや給食当番など, 自分の役割を, 責任を持って果たそうとする意欲を高める。
	6 (4)	・雨の日を楽しくすごそう <①どんなことができるか ②なかよくあそぶくふう> ・きゅうしよくのきまりをきめよう <①どうすればはやくできるか ②きょうりよくするためのくふう>	<input type="checkbox"/> ふわふわことば・ちくちくことば(ウ) ◆正しいはみがき(カ) ※養護教諭とのTT	・相手の気持ちになって考えることの大切さに気付き, 思いやりの気持ちをもって友達と仲良くできるようにする。 ・正しい歯磨きやうがいの仕方を進んで実践しようとする。
	7 (3)	・2松まんかいステージをひらこう <①どんなことができるか ②みんながたのしめるためのくふう> ・〇〇さんようこそをしよう <①どんなことをするか ②なかよくなるためのくふう>	<input type="checkbox"/> めざせ すききらいゼロ(キ) <input type="checkbox"/> 楽しい夏休み(イ) <生活 夏のずかん>	・健康で丈夫な体を作るためには, 好き嫌いをせずバランスよく食べるとよいことが分かり, 何でも食べようとする気持ちをもつ。 ・夏休みの規則正しい生活について考え, 夏休みにチャレンジしたいことを決めることができる。
	8 (1)	・学しゅうはっぴょう会にむけてできることをかんがえよう <①どんなことができるか>	◆元気な毎日(イ)	・早寝・早起きや姿勢の良さが体の成長に必要なことを知り, 規則正しい生活をして, 元気いっぱいの毎日を過ごそうとする意欲を高める。
	9 (3)	・1年生となかよくなるためのなべっこ会のあそびを考えよう <①どんなあそびがいいか ②1年生がたのしめるためのくふう>	<input type="checkbox"/> しごとの大切さ(エ)	・係やそうじ, 給食当番の仕事の大切さに気付き, 良いところや足りないところを考えて進んで取り組もうとする意欲を高める。
10 (1)	・ぜんきががんばったねしゅうかいをしよう <①どんなことをするか ②みんながたのしめるためのくふう>	<input type="checkbox"/> しっかり食べよう朝ごはん(キ)	・朝ごはんの大切さを知り, 毎朝しっかり朝ごはんを食べる習慣をつけようとする。	

後期	10 (3)	・こうきのかかりかつどうをきめ, ますますパワーアップさせよう <①どんなかかりがあればいいか ②パワーアップするためのくふう>	<input type="checkbox"/> 当番のしごとパワーアップ(エ)	・これまでの当番活動を振り返って, 学級全体の生活がよりよくなるよう考え, 実践しようとする意欲を高める。
	11 (4)	・なかよしボールしゅうかいをしよう <①どんなボールあそびをするか ②チームのみんなでのしむためのくふう>	◆友達のよいところ探しをしよう(ウ) <input type="checkbox"/> 本ともっとなかよくなる(オ)	・友達の言動に目を向け, 互いのよさを認め合うとともに, 自分自身のよさに気付き, 自らのよさを伸ばそうとする気持ちをもたせる。 ・読んでおもしろかった本を紹介し合い, 進んで本を読もうとする意欲をもつ。
	12 (3)		<input type="checkbox"/> 楽しい冬休み(イ) <生活 冬の図かん>	・冬休みの規則正しい生活について考え, 冬休みにチャレンジしたいことを決める。
	1 (2)		<input type="checkbox"/> バランスよい食べ方(キ)	・病気に負けない体を作るために, 必要な栄養について学び, バランスよく食べることができるようになる。
	2 (3)		<input type="checkbox"/> 6年生ありがとう(ウ)	・お世話になった6年生に感謝の気持ちを込めて, 送る会や卒業式に参加しようとする意欲を高める。
3 (2)		<input type="checkbox"/> もうすぐ3年生(ア) [もうすぐ〇年生(1, 3, 4年), 最高学年に向けて(5年), 中学生になるために(6年)] <生活 あしたへのジャンプ>	・1年間を振り返り, がんばったことや反省をすることを考え, 進級への意欲をもつ。	

時数合計	18	17
------	----	----

◆ 学年の重点内容

学級活動年間指導計画【3年松組】

学級目標 (子どもたちの願い)	元気いっぱい えがおいっぱい みんななかよし かがやく3松	学級経営目標 (教師の願い)	○相手の気持ちを思いやり、仲良く協力しあえる学級 ○人の話をしっかり聞き、進んで学習に取り組める学級 ○何事にもあきらめず、進んでチャレンジできる学級
--------------------	----------------------------------	-------------------	---

学期	月 (週)	(1)の内容 ＜学級や学校の生活づくり＞ ア 学級や学校における生活上の諸問題の解決 イ 学級内の組織づくりや仕事の分担処理 ウ 学校における多様な集団の生活の向上	(2)の内容 ＜日常生活や学習への適応及び健康や安全＞ ア 希望や目標を持って生きる態度の育成 2 イ 基本的な生活習慣の形成 2 ウ 望ましい人間関係の形成 2 エ 清掃などの当番活動の役割と働くことの 意義の理解 2 オ 学校図書館の利用 1 カ 心身ともに健康で安全な生活態度の育成 2 キ 食育の観点を踏まえた学校給食と望まし い食習慣の形成 2	(2)指導のねらい
前期	4 (3)	(予想される議題例) ＜話し合い①②③～話し合うこと＞ ・係を決めよう ＜①どんな係にするか ②みんなを笑顔にする工夫＞	<input type="checkbox"/> こんな3年生に(ア) [2年生になって、こんな4年〇組に、高学年のスタート(5年)、最高学年としての自覚をもとう(6年)] <input type="checkbox"/> きまりを守る(イ)	・3年生に進級したことを喜び、中学年としての自覚をもって生活しようとする意欲をもたせる。 ・学校のきまりを確認し、仲良く安全に生活しようとする気持ちを高める。
	5 (3)	・よろしくの会を開こう ＜①どんなことをやるか ②もっとなかよくするための工夫＞	◆自転車ののり方をかくにんしよう(カ)	・交通安全教室で学んだことを思い出し、安全な自転車の乗り方が分かり、約束を守って自転車に乗ろうとする気持ちを高める。
	6 (4)	・さわやかなあいさつをしよう ＜①どんなあいさつをするとよいか ②どんなことに気を付けるとよいか＞ ・係の仕事をパワーアップさせよう ＜①パワーアップさせるために何をやるか	<input type="checkbox"/> 言葉づかいを振り返ろう(ウ)	・自分たちの普段の言葉遣いを振り返り、温かい言葉遣いでお互いを大切にしていこうとする気持ちを高める。
	7 (3)	②どんな工夫をするとよいか＞ ・休み時間の過ごし方を考えよう ＜①どんなことができるか ②どんな工夫があるか＞	<input type="checkbox"/> 規則正しい食生活(キ)	・暑さに負けない元気な体を作るために、規則正しい食生活について考え、自分にあった計画とめあてをもたせる。
	8 (1)	・お楽しみ会をしよう ＜①どんな内容にするか ②みんなが楽しめるためにどんな工夫ができるか＞	<input type="checkbox"/> 上手なそうじの仕方を考えよう(エ)	・上手な掃除の仕方を考え、自問掃除の約束を確認し、学校をきれいにしようとする意欲を高める。
	9 (3)	・学習発表会を成功させよう ＜①どんなことをがんばるとよいか ②どんな工夫をするとよいか＞	<input type="checkbox"/> 家庭学習について考えよう(イ)	・友達のやり方を聞いて情報交換し、自分の家庭学習のやり方を振り返り、これからのめあてを考えることができるようにする。
	10 (1)	・当番の仕事を見直そう ＜①これまでの当番の仕事はどうだったか ②よりよくするためにがんばることは＞		

後期	10 (3)	・後期の係を決めよう ＜①どんな係にするか②どんな工夫ができるか＞ ・学校生活を見直そう ＜①これまでの生活はどうだったか ②よりよくするための工夫＞	<input type="checkbox"/> しっかりやろう当番の仕事(エ)	・給食当番や日直などの仕事の内容を確認し自分の役割を責任をもって果たそうとする気持ちを高める。
	11 (4)		◆自分と友達のよいところ(ウ) ◆バランスよく食べよう(キ) ※栄養教諭とのTT	・自分のよさに目を向け伸ばしていこうとする気持ちをもつと共に、お互いのよさを見つめる目を育て、よりよい友達関係を作ろうとする気持ちを高める。 ・食品は大きく3群に分かれることや、それぞれの食品をバランスよく食べることの大切さが理解できるようにする。
	12 (3)			
	1 (2)		<input type="checkbox"/> 使ってみよう！学校図書館(オ) ＜国語 「本の分類表」＞	・分からないことや調べたいことを、学校図書館を利用して調べる方法を知り、いろいろな分野に興味をもたせる。
	2 (3)		<input type="checkbox"/> かぜの予防(カ)	・上手な手洗い、うがいの仕方、せきエチケットについて知り、風邪の予防に気をつけようとする気持ちをもたせる。
3 (2)		<input type="checkbox"/> もうすぐ4年生(ア) [もうすぐ〇年生(1, 2, 4年)、最高学年に向けて(5年)、中学生になるために(6年)]	・1年間を振り返り、自分や友達の成長に気付かせ、4年生になったらやってみようことなどを出し合いながら進級への期待感をもたせる。	
時数合計		22		13

◆ 学年の重点内容

学級活動年間指導計画【4年梅組】

学級目標 (子どもたちの願い)	みんなの心を大切に チームワークで集中・協力 広がれ笑顔と思ひやり	学級経営目標 (教師の願い)	○互いの頑張りやよさを認め合い、仲良く協力し合える学級 ○互いの考えを聞き合い、何事にも集中して取り組む学級 ○めあてに向かって、最後まであきらめずに頑張る学級
--------------------	---	-------------------	--

学期	月 (週)	(1)の内容 ＜学級や学校の生活づくり＞ ア 学級や学校における生活上の諸問題の解決 イ 学級内の組織づくりや仕事の分担処理 ウ 学校における多様な集団の生活の向上	(2)の内容 ＜日常生活や学習への適応及び健康や安全＞ ア 希望や目標を持って生きる態度の育成 2 イ 基本的な生活習慣の形成 2 ウ 望ましい人間関係の形成 2 エ 清掃などの当番活動の役割と働くことの意義の理解 2 オ 学校図書館の利用 1 カ 心身ともに健康で安全な生活態度の育成 2 キ 食育の観点を踏まえた学校給食と望ましい食習慣の形成 2	(2)指導のねらい
前期	4 (3)	(予想される議題例) ＜話し合い①②③～話し合うこと＞ ・学級の係を決めよう ＜①どんな係があるとよいか ②係活動がもりあがる工夫＞ ・1年生となかよくなるよう ～思いやりプロジェクトパート1～	□こんな4年〇組に(ア) [2年生になって、こんな3年生に、高学年のスタート(5年)、最高学年としての自覚をもとう(6年)] ◆自分の役割(エ)	・4年生に進級したことを喜び、学級のことを考えながら進んで生活しようとする意欲をもたせる。 ・当番活動や日直などでの自分の役割や活動の意義を理解させ、進んで取り組もうとする意欲をもたせる。
	5 (3)	～思いやりプロジェクトパート1～ ＜①1年生となかよくなる遊び ②なかよくなるための工夫＞ ・とどけよう熊本へ！4梅ビデオレター	□言葉づかいを振り返ろう(ウ)	・みんなが楽しい学校生活を送るために、相手の気持ちや立場を考えながら、温かい言葉遣いを意識して過ごそうとする気持ちを高める。
	6 (4)	～思いやりプロジェクトパート2～ ＜①どんな内容にするか(南阿蘇西小学校の4年生に元気を届けるビデオレター) ②どんな工夫ができるか。(元気を届けるための工夫)＞ ・楽しく使おう4梅ボール	◆目指せ！読書名人(オ) ＜国語「聞いて楽しもう」「この本、読もう」＞	・図書室にはいろいろな分野の本があることに気付かせ、興味をもってたくさんの本を読もうとする態度を育てる。
	7 (3)	＜①どんな遊びにするか ②遊ぶときの工夫(みんなが仲良く遊ぶための工夫)＞ ・給食のじゅんぴの工夫を考えよう	□夏を健康に(カ)	・暑い夏を健康に過ごすために気をつけることを考え、自分に合っためあてをもって生活しようとする気持ちを高める。
	8 (1)	＜①心をつつにして速くじゅんぴをする工夫 ②係分たんはどうするのか＞ ・ボールの使い方を見直そう	□早寝・早起き・朝ご飯(キ)	・規則正しい生活リズムで学校生活を再開し元気に一日を過ごすために朝ご飯をしっかり食べようとする意欲を高める。
	9 (3)	＜①みんなが楽しめる遊び ②ルールの工夫＞ ・後期もよろしくね！集会をしよう	□目指せ！一人勉強名人(イ)	・自分の家庭学習のやり方を振り返り、力のつく効果的な勉強の仕方について考えることができるようにする。
	10 (1)	＜①どんなことをするか②どんな工夫をするか＞		
後期	10 (3)	・後期の係を決めよう ＜①どんな係があるとよいか ②係活動がもりあがる工夫＞ ・4梅かるたを作ろう	◆仕事の責任(エ) ※清掃担当教諭とのTT	・自問清掃がしっかりできているか振り返りよりよい清掃活動になるように工夫改善して取り組もうとする意欲を高める。
	11 (4)	＜①かるたの内容はどうするか ②4梅や4梅の友達のよさがよりあらわれる工夫 ③係はどうするか(グループで分かれて作る)＞	□男女仲良く(ウ)	・楽しい学級になるためのアイデアを出し合い、男女で仲良く協力できる学級をめざしていこうとする気持ちをもたせる。
	12 (3)		□よりよい生活時間(イ)	・規則正しい生活を送っているかを見直しながら、より有効的な時間のつかい方について考えることができるようにする。
	1 (2)		□かぜの予防(カ)	・うがいや手洗い、換気等の大切さを理解させ、風邪をひかないようにしようとする気持ちを高める。
	2 (3)		□バランスのよい食事(キ)	・自分たちの身体の成長に必要な栄養について確かめさせ、好き嫌いをしないで3群のバランスのよい食事をしようとする意識を高める。
	3 (2)		□もうすぐ5年生(ア) [もうすぐ〇年生(1, 2, 3年), 最高学年に向けて(5年), 中学生になるために(6年)]	・高学年として果たさなければならない役割について考えさせ、進級への意欲や期待をもたせる。
時数合計		22	13	

◆ 学年の重点内容

学級活動年間指導計画【5年竹組】

学級目標 (子どもたちの願い)	やさしさ広がれ アイデア生かせ あきらめないで ゴールをめざせ ～みんなで進め チーム5竹～	学級経営目標 (教師の願い)	○自分の役割や仕事に責任をもち、協力して委員会や係、当番などの仕事に取り組む学級 ○自分や友達のよさを見付け、互いに認め合いながら関わって活動する学級 ○目標向かって最後まで粘り強く取り組む学級
--------------------	---	-------------------	---

学期	月(週)	(1)の内容 ＜学級や学校の生活づくり＞ ア 学級や学校における生活上の諸問題の解決 イ 学級内の組織づくりや仕事の分担処理 ウ 学校における多様な集団の生活の向上	(2)の内容 ＜日常生活や学習への適応及び健康や安全＞ ア 希望や目標を持って生きる態度の育成 2 イ 基本的な生活習慣の形成 1 ウ 望ましい人間関係の形成 2 エ 清掃などの当番活動の役割と働くことの意義の理解 2 オ 学校図書館の利用 1 カ 心身ともに健康で安全な生活態度の育成 1 キ 食育の観点を踏まえた学校給食と望ましい食習慣の形成 1	(2)指導のねらい
前期	4(3)	(予想される議題例) ＜話し合い①②③～話し合うこと＞ ・5竹前期の係を決めよう	◆高学年のスタート(ア) [2年生になって、こんな3年生に、こんな4年 ○組に、最高学年としての自覚をもとう(6年)]	・進級を喜び、高学年としての自覚とめあてをもたせるとともに、学級や学校全体のことを考えながら進んで生活しようとする意欲をもたせる。
	5(3)	＜①どんな係がほしいか ②生き生き活動できるための工夫＞ ・みんながもっと信頼し支え合えるようなクラス会を開こう ＜①どんな遊びをするか ②もっと信頼し合えるようにどんな工夫をするか＞ ・友達のいいところ発見会を開こう	□学校のきまりを守ろう(イ) □高学年としての役割(エ)	・日常の生活を振り返り、学校生活のきまりを守る大切さを理解し、高学年として進んできまりを守っていこうとする意識を高める。 ・当番活動や自問清掃などへの取組を通して、働くことの意義を考えるとともに、進んで活動しようとする意識を高める。
	6(4)	＜①どんな内容にするか ②上手く会話を取り入れるための工夫＞ ・雨の日の遊び方を考えよう ＜①どんな遊びをするか②どんな工夫をするか＞ ・クラスのパワーアップ計画	□気持ちのよい食事をしよう(キ)	・一緒に食事をする人に不快な思いをさせないために、いろいろなマナーを守って食事をする大切さを知り、実行していこうとする意欲を高める。
	7(3)	＜①特に力を入れて取り組む活動は何にするか ②どんな工夫ができるか＞ ・みんなで畑の世話をしよう ＜①夏休み前の仕事を決めよう ②収穫のルールを考えよう＞ ・スポーツ集会を開こう	□学校図書館の利用(オ)	・学校図書館を定期的に利用し、読書に進んで取り組む意識を高める。
	8(1)	＜①どんなスポーツをやるか ②みんながもっと信頼し合える工夫＞ ・給食のルールを見直そう ＜①みんなが協力できる準備と片付けのルール ②準備と片付けを速くする工夫＞ ・学習発表会を成功させよう		
	9(3)	＜①本番まで全員でがんばること ②チームワークを高めるための工夫＞		
	10(1)			
後期	10(3)	・後期の係を決めよう ＜①どんな係がほしいか ②活動をパワーアップさせるための工夫＞	◆協力し合おう、女の子、男の子(ウ) ※理科専科とのTT ＜理科「生命のつながりを考えよう」＞	・異性の友達のよさを認め合い、互いに協力して楽しい学級を築いていこうとする気持ちをもたせる。
	11(4)	・最高学年に向けて全校の手本になろう 5竹プロジェクト ＜①何に取り組むか ②どんな工夫をするか ③係分たんをどうするか＞	□気持ちのよい言葉づかい(ウ) □当番活動を見直そう(エ)	・相手の立場や気持ちを考えた言葉遣いの大切さを再確認し、実践しようとする態度を育てる。 ・日頃の当番活動や委員会活動を振り返り、協力して学級や学校のために働こうとする態度を育てる。
	12(3)		□心も体も元気に(カ) ＜保健体育「心の健康」＞	・心と体が互いに影響し合っていることを理解し、心の健康を保つためにどうしたらよいか考え、元気に生活しようとする気持ちをもつことができるようにする。
	1(2)			
	2(3)			
	3(2)		□最高学年に向けて(ア) [もうすぐ○年生(1～4年)、中学生になるために(6年)]	・最高学年としての自分の役割やできることを考え、進んで取り組んでいこうとする気持ちをもたせる。
時数合計		25		10

◆ 学年の重点内容

学級活動年間指導計画【6年松組】

学級目標 (子どもたちの願い)	ねばり強く考え 協力して友情を深め 最上級生としてやりとげる 6松	学級経営目標 (教師の願い)	○「がまん」を合言葉に、責任を持って当番活動、委員会活動に取り組み、学級の一員としての意識を深める。 ○「向上心」を合言葉に家庭学習を習慣化し、基礎学力の定着を図る。 ○「協力」を合言葉に係活動などに友達と力を合わせて取り組み自分の得意なことに気づくことで自尊感情を育成する。
--------------------	---	-------------------	--

学期	月 (週)	(1)の内容 ＜学級や学校の生活づくり＞ ア 学級や学校における生活上の諸問題の解決 イ 学級内の組織づくりや仕事の分担処理 ウ 学校における多様な集団の生活の向上	(2)の内容 ＜日常生活や学習への適応及び健康や安全＞ ア 希望や目標を持って生きる態度の育成 2 イ 基本的な生活習慣の形成 1 ウ 望ましい人間関係の形成 2 エ 清掃などの当番活動の役割と働くことの意義の理解 2 オ 学校図書館の利用 1 カ 心身ともに健康で安全な生活態度の育成 1 キ 食育の観点を踏まえた学校給食と望ましい食習慣の形成 1	(2)指導のねらい
----	----------	--	---	-----------

前期	4 (3)	(予想される議題例) ＜話し合い①②③～話し合うこと＞ ・前期の係を整えよう	<input type="checkbox"/> 最高学年としての自覚をもとう (ア) [2年生になって、こんな3年生に、こんな4年 ○組に、高学年のスタート(5年)]	・進級を喜び、最高学年としての自覚と責任をもたせるとともに、よりよい学級や学校にしていこうとする意欲を高める。
	5 (3)	＜①係の種類はどうするか ②係活動が活発になる工夫＞ ・運動会を成功させよう	<input type="checkbox"/> 最上級生としての役割 (エ)	・当番活動や委員会活動などへの取組を通して、働くことの意義を考えるとともに、学校全体のことを考えて活動しようとする意識を高める。
	6 (4)	＜①運動会のテーマはどうするか ②役わり分たんはどうするか＞ ・学校生活を見直そう		
	7 (3)	＜①廊下の歩き方でどんなところを見直すか ②歩き方を良くする方法＞ ・五年生に思いを伝えよう	<input type="checkbox"/> バランスのとれた食事を(キ) ＜家庭科「くふうしよう朝の生活」＞	・日常の食生活を振り返り、5大栄養素とその役割に気を配りながら、自分の食生活の何を改善したらよいかを考えさせる。
	8 (1)	＜①何を発表するか(5分以内で1つか2つ) ②どんな工夫をするか＞ ・たちヒーローをたくさん見つけよう		
	9 (3)	＜①たちヒーローの見つけ方を考えよう ②紹介の仕方を考えよう＞ ・あいさつ運動を成功させよう	◆男女の協力(ウ)	・異性の友達のよさを認め合い、特性を生かしながら、互いに協力してよりよい学級を築き上げていこうとする気持ちを高める。
	10 (1)	＜①あいさつをよくするための方法を考よう ②返事を良くするための工夫＞ ・スポーツ大会を開こう ＜どんなスポーツをするか(1つか2つ) ②友情を深めるための工夫＞ ・休み時間の過ごし方を考えよう ＜①室内でできる遊びを考えよう ②時間のルールを考えよう＞		

後期	10 (3)	・後期の係を決めよう ＜①係の種類はどうするか ②係活動を活発にする工夫＞ ・6松思い出のページを作ろう	<input type="checkbox"/> 学校図書館の利用(オ)	・学校図書館を定期的に利用し、読書に進んで取り組む意識を高める。また、自分の読書傾向を知り自分を高める手段としての読書のあり方を考える。
	11 (4)	＜①オリジナルページの内容 ②内容をよりよくするための工夫 ③係分たんはどうするか＞	<input type="checkbox"/> 気持ちのよい言葉づかい(ウ) <input type="checkbox"/> 当番活動を見直そう(エ)	・相手の立場や気持ちを考えた言葉遣いの大切さを再確認し、よりよい関係を築くために自ら実践しようとする態度を育てる。 ・日頃の当番活動や委員会活動を振り返り、最上級生として自分の役割に責任をもって学校全体のために寄与しようとする態度を育てる。
	12 (3)		<input type="checkbox"/> 健康な生活を送るために(カ) ＜保健体育「病気の予防」＞ ※養護教諭とのTT	・病気の起こり方や予防について学んだを生かし、健康な体を保つためにどのような生活を送るべきか考えることができるようにする。
	1 (2)		<input type="checkbox"/> 生活時間を見直そう(イ)	・中学進学を前に、規則正しく生活することの意義を再確認し有効的な時間の使い方について考えることができるようにする。
	2 (3)			
	3 (2)		◆中学生になるために(ア) ※中学校の先生とのTT【もうすぐ○年生(1～4年)、最高学年に向けて(5年)】	・中学校生活について知り、進学に向けて自分は何をすべきか考え、中学校生活への期待と意欲をもたせる。
時数合計		25	10	

◆ 学年の重点内容

学級活動（2）題材一覧

◆は学年の重点内容

< >は教科との関連

[]は他学年との同様題材

月	1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年
4	<input type="checkbox"/> がっこうのやくそく（イ） <input type="checkbox"/> がっこうのいきかえりをあんぜんに（カ） <input type="checkbox"/> たのしいきゅうしょくにしよう（キ）	<input type="checkbox"/> 2年生になって（ア） 【こんな〇年生に（3～5年），最高学年としての自覚（6年）】	<input type="checkbox"/> こんな3年生に（ア） 【こんな〇年生に（2，4年），高学年のスタート（5年），最高学年としての自覚（6年）】 <input type="checkbox"/> きまりを守る（イ）	<input type="checkbox"/> こんな4年〇組に（ア） 【こんな〇年生に（2，3年），高学年のスタート（5年），最高学年としての自覚（6年）】 ◆自分の役割（エ）	◆高学年のスタート（ア） 【こんな〇年生に（2，3，4年），最高学年としての自覚（6年）】	<input type="checkbox"/> 最高学年としての自覚をもとう（ア） 【こんな〇年生に（2，3，4年），高学年のスタート（5年）】
5	<input type="checkbox"/> なかよしいっぱい（ウ） ◆がっきゅうのめあてをきめよう（ア） <input type="checkbox"/> おそうじがんばるぞ（エ）	<input type="checkbox"/> こうつうルールをまもろう（カ） <input type="checkbox"/> そうじ・きゅう食当番のしごと（エ）	◆自転車ののり方をかくにんしよう（カ）	<input type="checkbox"/> 言葉づかいを振り返ろう（ウ）	<input type="checkbox"/> 学校のきまりを守ろう（イ） <input type="checkbox"/> 高学年としての役割（エ）	<input type="checkbox"/> 最上級生としての役割（エ）
6	<input type="checkbox"/> ほんとともだちになろう（オ） <国語「ほんはともだち」>	<input type="checkbox"/> ふわふわことば・ちくちくことば（ウ） ◆正しいはみがき（カ） ※養護教諭とのTT	<input type="checkbox"/> 言葉づかいを振り返ろう（ウ）	◆目指せ！読書名人（オ） <国語「聞いて楽しもう」「この本，読もう」>		
7	<input type="checkbox"/> たのしいなつやすみにしよう（イ）	<input type="checkbox"/> めざせ すききらいゼロ（キ） <input type="checkbox"/> 楽しい夏休み（イ） <生活「夏の図かん」>	<input type="checkbox"/> 規則正しい食生活（キ）	<input type="checkbox"/> 夏を健康に（カ）	<input type="checkbox"/> 気持ちのよい食事をしよう（キ）	<input type="checkbox"/> バランスのとれた食事を（キ） <家庭科「くふうしよう 朝の生活」>
8	◆はやねですっきりパワーぜんかい（イ）	◆元気なまい日（イ）	<input type="checkbox"/> 上手なそうじの仕方を考えよう（エ）	<input type="checkbox"/> 早寝・早起き・朝ご飯（キ）		
9	<input type="checkbox"/> なんでもたべよう（キ） <input type="checkbox"/> きゅうしょくじゅんぴ・あとかたづけをがんばろう（エ）	<input type="checkbox"/> しごとの大切さ（エ）	<input type="checkbox"/> 家庭学習について考えよう（イ）	<input type="checkbox"/> 目指せ！一人勉強名人（イ）	<input type="checkbox"/> 学校図書館の利用（オ）	◆男女の協力（ウ）
10	◆こうきにがんばること（ア） <input type="checkbox"/> おうちでのべんきょうのしかた（イ）	<input type="checkbox"/> 当番のしごとパワーアップ（エ） <input type="checkbox"/> しっかり食べよう朝ごはん（キ）	<input type="checkbox"/> しっかりやろう当番の仕事（エ）	◆仕事の責任（エ） ※清掃担当教諭とのTT	◆協力し合おう，女の子，男の子（ウ） ※理科専科とのTT <理科「生命のつながりを考えよう」>	
11	<input type="checkbox"/> ふわふわことば・ちくちくことば（ウ） <input type="checkbox"/> おしごとしっかりできているかな（エ）	◆友だちのよいところさがしをしよう（ウ） <input type="checkbox"/> 本ともっとなかよくなるろう（オ）	◆自分と友達のよいところ（ウ） ◆バランスよく食べよう（キ） ※栄養教諭とのTT	<input type="checkbox"/> 男女仲良く（ウ）	<input type="checkbox"/> 気持ちのよい言葉づかい（ウ） <input type="checkbox"/> 当番活動を見直そう（エ）	<input type="checkbox"/> 学校図書館の利用（オ）
12	<input type="checkbox"/> すききらいなくたべよう（キ） <input type="checkbox"/> あんぜんでたのしいふゆ休み（カ）	<input type="checkbox"/> 楽しい冬休み（イ） <生活「冬の図かん」>		<input type="checkbox"/> よりよい生活時間（イ）	<input type="checkbox"/> 心も体も元気に（カ） <保健体育「心の健康」>	<input type="checkbox"/> 気持ちのよい言葉づかい（ウ） <input type="checkbox"/> 当番活動を見直そう（エ）
1	<input type="checkbox"/> かぜにまけない～手あらい，うがいのしかた～（カ）	<input type="checkbox"/> バランスのよい食べ方（キ）	<input type="checkbox"/> 使ってみよう！学校図書館（オ） <国語「本の分類表」>	<input type="checkbox"/> かぜの予防（カ）		<input type="checkbox"/> 健康な生活を送るために（カ） <保健体育「病気の予防」> ※養護教諭とのTT
2	<input type="checkbox"/> 6年生ありがとう（ウ）	<input type="checkbox"/> 6年生ありがとう（ウ）	<input type="checkbox"/> かぜの予防（カ）	<input type="checkbox"/> バランスのよい食事（キ）		<input type="checkbox"/> 生活時間を見直そう（イ）
3	<input type="checkbox"/> もうすぐ2年生（ア） 【もうすぐ〇年生（2～4年），最高学年に向けて（5年），中学生になるために（6年）】	<input type="checkbox"/> もうすぐ3年生（ア） 【もうすぐ〇年生（1，3，4年），最高学年に向けて（5年），中学生になるために（6年）】 <生活 あしたへジャンプ>	<input type="checkbox"/> もうすぐ4年生（ア） 【もうすぐ〇年生（1，2，4年），最高学年に向けて（5年），中学生になるために（6年）】	<input type="checkbox"/> もうすぐ5年生（ア） 【もうすぐ〇年生（1～3年），最高学年に向けて（5年），中学生になるために（6年）】	<input type="checkbox"/> 最高学年に向けて（ア） 【もうすぐ〇年生（1～4年），中学生になるために（6年）】	◆中学生になるために（ア） ※中学校の先生とのTT 【もうすぐ〇年生（1～4年），最高学年に向けて（5年）】
	20	17	13		10	

学級活動（２）の（ア）題材一覧

◆は学年の重点内容

< >は教科との関連

[] は他学年との同様題材

月	1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年
4		<input type="checkbox"/> 2年生になって（ア） ・ 2年生になった喜びを味わい、進んで自分の目標を实践しようとする意欲をもたせる。	<input type="checkbox"/> こんな3年生に（ア） ・ 3年生に進級したことを喜び、中学年としての自覚をもって生活しようとする意欲をもたせる。	<input type="checkbox"/> こんな4年〇組に（ア） ・ 4年生に進級したことを喜び、学級のことを考えながら進んで生活しようとする意欲をもたせる。	◆ 高学年のスタート（ア） ・ 進級を喜び、高学年としての自覚とめあてをもたせるとともに、学級や学校全体のことを考えながら進んで生活しようとする意欲をもたせる。	<input type="checkbox"/> 最高学年としての自覚をもとう（ア） ・ 進級を喜び、最高学年としての自覚と責任をもたせるとともに、よりよい学級や学校にしていこうとする意欲を高める。
5	◆ がっきゅうのめあてをきめよう（ア） ・ どんな学級にしたいか話し合うことで、学級の一員であるという気持ちを高める。					
6						
7						
8						
9						
10	◆ こうきにがんばること（ア） ・ 後期にがんばりたいことを決め、めあてに向けて頑張ろうとする意欲をもたせる。					
11						
12						
1						
2						
3	<input type="checkbox"/> もうすぐ2年生（ア） ・ 1年間をふり返り、がんばったことやできるようになったことを確かめ、進級への意欲をもたせる。	<input type="checkbox"/> もうすぐ3年生（ア） ・ 1年間をふり返り、がんばったことや反省をすることを考え、進級への意欲をもたせる。	<input type="checkbox"/> もうすぐ4年生（ア） ・ 1年間を振り返り、自分や友達の成長に気づかせ、4年生になったらやってみたいことなどを出し合いながら進級への期待感をもたせる。	<input type="checkbox"/> もうすぐ5年生（ア） ・ 高学年として果たさなければならぬ役割について考え、進級への意欲や期待をもたせる。	<input type="checkbox"/> 最高学年に向けて（ア） ・ 最高学年としての自分の役割やできることを考え、進んで取り組んでいこうとする気持ちをもたせる。	◆ 中学生になるために（ア） ※中学校の先生とのTT ・ 中学校生活について知り、進学に向けて自分は何をすべきか考え、中学校生活への期待と意欲を持たせる。
	20	17	13		10	

学級活動（２）の（イ）題材一覧

◆は学年の重点内容

< >は教科との関連

[] は他学年との同様題材

月	1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年
4	<input type="checkbox"/> 学校のやくそく ・道具の出し入れや廊下の正しい歩行の仕方を身につけさせる。		<input type="checkbox"/> きまりを守る ・学校のきまりを確認し、仲良く安全に生活しようとする気持ちを高める。			
5					<input type="checkbox"/> 学校のきまりを守ろう ・日常の生活を振り返り、学校生活のきまりを守る大切さを理解し、高学年として進んできまりを守っていこうとする意識を高める。	
6						
7	<input type="checkbox"/> たのしいなつやすみにしよう ・夏休みのきまりを覚えたり、夏休みにチャレンジしたいことを決めたりして、初めての長期休みに対する意欲を高める。	<input type="checkbox"/> 楽しい夏休み ・夏休みの規則正しい生活について考え、チャレンジしてみたいことを決め、めあてを持って有意義に過ごすことができるように計画を立てさせる。				
8	◆はやねですっきりパワーぜんかい ・早寝早起きが元気に過ごすために大切であることや睡眠の大切さを理解させる。	◆元気なまい日 ・早寝早起きや姿勢の良さが体の成長に必要なことを知り、規則正しい生活をして、元気いっぱいの毎日を過ごそうとする意欲を高める。	<input type="checkbox"/> 家庭学習について考えよう ・友達のやり方を聞いて情報交換し、自分の家庭学習のやり方を振り返り、これからのめあてを考えることができるようにする。	<input type="checkbox"/> 目指せ！一人勉強名人 ・自分の家庭学習のやり方を振り返り、力のつく効果的な勉強の仕方について考えることができるようにする。		
9						
10	<input type="checkbox"/> おうちでのべんきょうのしかた ・家庭学習の仕方を知り、進んで取り組むことができるようにする。					
11						
12		<input type="checkbox"/> 楽しい冬休み ・冬休みにしかできないことを考え、寒さに負けずに活動したり、規則正しく生活したりする意欲を高める。		<input type="checkbox"/> よりよい生活時間 ・規則正しい生活を送っているかを見直しながら、より有効的な時間のつかい方について考えることができるようにする。		
1						<input type="checkbox"/> 生活時間を見直そう ・中学進学を前に、規則正しく生活することの意義を再確認し有効的な時間の使い方について考えることができるようにする。
2						
3						
	2 0	1 7	1 3			1 0

学級活動(2)の(ウ)題材一覧

◆は学年の重点内容

< >は教科との関連

[]は他学年との同様題材

月	1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年
4						
5	□なかよしいっぱい ・友だちのよいところを見つけ、みんなとなかよく過ごしていこうとする気持ちをもたせる。			□言葉づかいを振り返ろう ・みんなが楽しい学校生活を送るために、相手の気持ちや立場を考えながら、温かい言葉づかいを意識して過ごそうとする気持ちを高める。		
6		□ふわふわ言葉・ちくちく言葉 ・相手の気持ちになって考えることの大切さに気付き、思いやりの気持ちをもって友達と仲良くできるようにする。	□言葉づかいを振り返ろう ・自分たちの普段の言葉遣いを振り返り、温かい言葉遣いでお互いを大切にしていこうとする気持ちを高める。			
7						
8						
9						◆男女の協力 ・異性の友達のよさを認めあい、特性を生かしながら、互いに協力してよりよい学級を築き上げていこうとする気持ちを高める。
10					◆協力し合おう、女の子、男の子 ※理科専科とのIT <理科「生命のつながりを考えよう」> ・異性の友達のよさを認め合い、互いに協力して楽しい学級を築いていこうとする気持ちをもたせる。	
11	□ふわふわことば・ちくちくことば ・友達が不快に思う言葉を知り、お互いに気持ちのよい丁寧な言葉遣いをしようとする気持ちをもたせる。	◆友だちのよいところさがしをしよう ・友達の言動に目を向け、互いのよさを認め合うとともに、自分自身のよさに気付き、自らのよさを伸ばそうとする気持ちをもたせる。	◆自分と友達のよいところ ・自分のよさに目を向け伸ばしていこうとする気持ちをもつと共に、お互いのよさを見つめる目を育てよりよい友達関係を作ろうとする気持ちを高める。	□男女仲良く ・楽しい学級になるためのアイデアを出し合い、男女で仲良く協力できる学級をめざしていこうとする気持ちをもたせる。	□気持ちのよい言葉づかい ・相手の立場や気持ちを考えた言葉遣いの大切さを再確認し、実践しようとする態度を育てる。	□気持ちのよい言葉づかい ・相手の立場や気持ちを考えた言葉遣いの大切さを再確認し、よりよい関係を築くために自ら実践しようとする態度を育てる。
12						
1						
2	□6年生ありがとう ・お世話になった6年生に感謝の気持ちを込めて、送る会や卒業式に参加しようとする気持ちをもたせる。	□6年生ありがとう ・お世話になった6年生に感謝の気持ちを込めて、送る会や卒業式に参加しようとする意識を高める。				
3						
	20	17	13		10	

学級活動（２）の（工）題材一覧

◆は学年の重点内容

< >は教科との関連

[] は他学年との同様題材

月	1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年
4				◆自分の役割 ・当番活動や日直などでの自分の役割や活動の意義を理解して進んで取り組もうとする意欲をもつ。		
5	<input type="checkbox"/> おそうじがんばるぞ ・掃除の手順や正しい道具の使い方を知り、きれいに掃除しようとする気持ちをもたせる。	<input type="checkbox"/> そうじ・きゅう食当番のしごと ・そうじや給食当番など、自分の役割を、責任をもって果たそうとする意欲を高める。			<input type="checkbox"/> 高学年としての役割 ・当番活動や自問清掃などへの取組を通して、働くことの意義を考えるとともに、進んで活動しようとする意識を高める。	<input type="checkbox"/> 最上級生としての役割 ・当番活動や委員会活動などへの取組を通して、働くことの意義を考えるとともに、学校全体のことを考えて活動しようとする意識を高める。
6						
7						
8			<input type="checkbox"/> 上手なそうじの仕方を考えよう ・上手な掃除の仕方を考え、自問掃除の約束を確認し、学校をきれいにしようとする意欲を高める。			
9	<input type="checkbox"/> きゅうしょくじゅんぴ・あとかたづけをがんばろう ・給食の準備や後片付けの仕方を振り返り、進んでがんばろうとする気持ちをもたせる。	<input type="checkbox"/> しごとの大切さ ・そうじや給食当番の仕事の大切さに気付き、よいところや足りないところを考えて進んで取り組もうとする意欲を高める。				
10		<input type="checkbox"/> 当番のしごとパワーアップ ・これまでの当番活動を振り返って、学級全体の生活がよりよくなるよう考え、実践しようとする意欲を高める。	<input type="checkbox"/> しっかりやろう当番の仕事 ・給食当番や日直などの仕事の内容を確認し、自分の役割を、責任をもって果たそうとする気持ちを高める。	◆仕事の責任 ※清掃担当とのＴＴ ・自問清掃がしっかりできているか振り返り、よりよい清掃活動になるように工夫改善して取り組もうとする意欲を高める。		
11	<input type="checkbox"/> おしごとしっかりできているかな ・当番の仕事を振り返ることで、これからの仕事をがんばろうとする意欲をもたせる。				<input type="checkbox"/> 当番活動を見直そう ・日頃の当番活動や委員会活動を振り返り、協力して学級や学校のために働こうとする態度を育てる。	<input type="checkbox"/> 当番活動を見直そう ・日頃の当番活動や委員会活動を振り返り、最上級生として自分の役割に責任をもって学校全体のために寄与しようとする態度を育てる。
12						
1						
2						
3						
	2 0	1 7	1 3		1 0	

学級活動（２）の（才）題材一覧

◆は学年の重点内容

< >は教科との関連

[] は他学年との同様題材

月	1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年
4						
5						
6	<input type="checkbox"/> 本とともだちになろう ・学校図書館の基本的な利用の仕方について理解させる。 <国語「ほんはともだち」>			◆目指せ！読書名人 ・図書室にはいろいろな分野の本があることを知り、興味をもってたくさんの本を読もうとする態度を育てる。 <国語「聞いて楽しもう」「この本、読もう」>		
7						
8						
9					<input type="checkbox"/> 学校図書館の利用 ・学校図書館を定期的に利用し、読書に進んで取り組む意識を高める。	
10						<input type="checkbox"/> 学校図書館の利用 ・学校図書館を定期的に利用し、読書に進んで取り組む意識を高める。また、自分の読書傾向を知り自分を高める手段としての読書のあり方を考える。
11		<input type="checkbox"/> 本ともっとなかよくなろう ・学校図書館を利用して、読みたい本を進んで読むようにする。				
12						
1			<input type="checkbox"/> 使ってみよう！学校図書館 ・分からないことや調べたいことを、学校図書館を利用して調べる方法を知り、いろいろな分野に興味をもたせる。 <国語「本の分類表」>			
2						
3						
	20	17	13			10

学級活動（２）の（力）題材一覧

◆は学年の重点内容

< >は教科との関連

[]は他学年との同様題材

月	1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年
4	<input type="checkbox"/> がっこうのいきかえりをあんぜんに ・登下校の危険について考え、安全を心がける態度を身につけさせる。					
5		<input type="checkbox"/> こうつうルールをまもろう ・交通ルールについて考え、安全を心がける態度を身に付けさせる。	◆自転車ののり方をかくにんしよう ・交通安全教室で学んだことを思い出し、安全な自転車の乗り方が分かり、約束を守って自転車に乗ろうとする気持ちを高める。			
6		◆正しいはみがき ※養護教諭とのTT ・正しい歯磨きやうがいの仕方を進んで実践しようとする態度を育てる。				
7				<input type="checkbox"/> 夏を健康に ・暑い夏を健康に過ごすために気をつけることを考え、自分に合っためあてをもって生活しようとする気持ちを高める。		
8						
9						
10						
11						
12	<input type="checkbox"/> あんぜんでたのしいふゆ休み ・冬休みを健康で安全に過ごし、楽しく充実した日々になるよう、めあてをもつことができるようにする。				<input type="checkbox"/> 心も体も元気に <保健体育「心の健康」> ・心と体が互いに影響し合っていることを理解し、心の健康を保つためにどうしたらよいか考え、元気に生活しようとする気持ちをもつことができるようにする。	<input type="checkbox"/> 健康な生活を送るために <保健体育「病気の予防」> ・病気の起こり方や予防について学んだ事を生かし、健康な体を保つためにどのような生活を送るべきか考えることができるようにする。 ※養護教諭とのTT
1	<input type="checkbox"/> かぜにまけない ～手洗い，うがいのしかた～ ・正しい手洗い，うがいの仕方を知り，風邪の予防に気をつけようとする気持ちをもたせる。			<input type="checkbox"/> かぜの予防 ・うがいや手洗い，換気等の大切さを知り，かぜをひかないようにしようとする気持ちを高める。		
2			<input type="checkbox"/> かぜの予防 ・上手な手洗い，うがいの仕方，せきエチケットについて知り，風邪の予防に気をつけようとする気持ちをもたせる。			
3						
	20	17	13			10

学級活動(2)の(キ)題材一覧

◆は学年の重点内容

< >は教科との関連

[]は他学年との同様題材

月	1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年
4	<input type="checkbox"/> たのしいきゅうしょくにしよう ・学校給食のきまりを知り，協力して準備や後片付けをしようとする気持ちをもたせる。					
5						
6						
7		<input type="checkbox"/> めざせ すききらいゼロ ・健康で丈夫な体を作るためには，何でも食べることが大切であることを知り，好き嫌いせずに食べようとする意識を高める。	<input type="checkbox"/> 規則正しい食生活 ・暑さに負けない元気な体を作るために，規則正しい食生活について考え，自分にあった計画とめあてをもたせる。		<input type="checkbox"/> 気持ちのよい食事をしよう ・一緒に食事をする人に不快な思いをさせないために，いろいろなマナーを守って食事をするここの大切さを知り，実行していかうとする意欲を高める。	<input type="checkbox"/> バランスのとれた食事を 〈家庭科「くふうしよう朝の生活」〉 ・日常の食生活をふり返り，5大栄養素とその役割に気を配りながら，自分の食生活の何を改善したらよいかを考えさせる。
8				<input type="checkbox"/> 早寝・早起き・朝ご飯 ・規則正しい生活リズムで学校生活を再開し，元気に一日を過ごすために朝ご飯をしっかり摂ろうとする意欲を高める。		
9	<input type="checkbox"/> なんでもたべよう ・食べ物にはいろいろな栄養があることが分かり，自分が苦手なものでも食べようとする意欲を高める。					
10		<input type="checkbox"/> しっかり食べよう朝ごはん ・朝ごはんの大切さを知り，毎朝しっかり朝ごはんを食べる習慣を身に付けることができるようにする。				
11			◆バランスよく食べよう ※栄養教諭とのTT ・食品は大きく3群に分かれることや，それぞれの食品をバランスよく食べることの大切さが理解できるようにする。			
12	<input type="checkbox"/> すききらいなく食べよう ・健康な毎日を過ごすためには，バランスよく食べることが大切であるという気持ちをもたせる。					
1		<input type="checkbox"/> バランスのよい食べ方 ・病気に負けない体を作るためには，バランスよく食べることが大切であることを知り，まんべんなく食べようとする意識をもてるようにする。				
2				<input type="checkbox"/> バランスのよい食事 ・自分たちの身体の成長に必要な栄養について思い出し，好き嫌いせず3群のバランスのよい食事をしようとする意識を高める。		
3						
	2 0	1 7	1 3		1 0	

学年	指導のねらい	評価規準			
		集団活動や生活への 関心・意欲・態度	集団の一員としての 思考・判断・実践	集団活動や生活につ いての知識・理解	
低学年 仲良く助け合い学級生活を楽しくする	計画 ○教師の助けを得ながら、話し合い活動の準備ができるようにする。 ○学級活動ノートに自分の考えを記入するなど、話し合いの準備ができるようにする。	話し合いの基本が分かる	・学級生活に関心を持ち、話し合いの準備に進んで取り組もうとしている。	・議題について自分の考えを持ち、話し合いの順序など簡単な計画について考え、準備している。	・話し合い活動の準備の仕方や基本的な進め方を理解している。
	話し合い 「学級生活を楽しくするための集団決定」 =友達の意見をよく聞いたり、約束に従って自分の意見を言うようにしたりして学級生活を楽しくするために集団決定ができるようにする。 ○教師が進行等の役割を受け持つことから始め、少しずつ児童がその役割を担うことができるようにする。 ○学級生活を楽しくするために、友達の意見を聞いたり、自分の意見を発表したりして、話し合いを進めることができるようにする。		・司会や記録の仕事、話し合いに進んで取り組もうとしている。	・よりよい学級の生活づくりに向けて考え、判断し、話し合っている。 ・自分の意見をあらかじめ示された話し方や手順に従って、発表している。	・司会や記録の仕方の役割や基本的な話し合いの進め方、集団決定の仕方を理解している。
	実践 ○決定したことについて仲良く実践することができるようにする。 ○教師と一緒に準備をしたり、計画を立てたりして活動できるようにする。		・決定したことについて、進んで準備や計画に取り組もうとしている。	・決定したことや役割を考え、仲良く実践している。	・決定したことについて、みんなで実践することの大切さや方法について理解している。

学年	指導のねらい	評価規準			
		集団活動や生活への 関心・意欲・態度	集団の一員としての 思考・判断・実践	集団活動や生活につ いての知識・理解	
中学年 協力し合って楽しい学級生活をつくる	計画 ○計画委員会の進行を分担して行い、話し合い活動の準備ができるようにする。 ○学級活動ノートに提案理由を踏まえて自分の考えを記入するなど、話し合いに向けた準備ができるようにする。	話し合いの基本を身に付ける	・学級生活の充実と向上に関心をもち、計画委員会の活動や話し合いの準備などに意欲的に取り組もうとしている	・議題について自分の考えをもち、計画委員会の運営や話し合いの活動計画について考え、準備している。	・計画委員会の役割や話し合い活動の準備の仕方など、計画的な進め方を理解している。
	話し合い 「楽しい学級生活をつくるための集団決定」 ＝理由を明確にして意見を言えるようにしたり、異なる考えなどについてもしっかりと聞いて公平に判断したりして楽しい学級生活をつくるために集団決定ができるようにする。 ○教師の適切な指導の下に児童が活動計画を作成し、輪番制でどの児童も司会等の役割を果たすことができるようにする。		・司会や記録の仕事、話し合いに意欲的に取り組もうとしている。	・よりよい学級の生活づくりに向けて考え、判断し、まとめようと話し合っている。 ・理由を明確にして、わかりやすく話している。 ・異なる意見にも耳を傾け、公平に判断し、折り合いを付けて話し合っている。	・計画委員会の仕事の内容や計画的な話し合いの進め方を理解している。
	実践 ○決定したことについて協力し合って実践することができるようにする。 ○役割分担して準備をしたり、計画を立てたりして活動できるようにする。		・決定したことについて、意欲的に準備や計画に取り組もうとしている。	・決定したことや自他の役割を考え、協力し合って実践している。	・決定したことについて、みんなで計画的に実践することの必要性や方法について理解している。

学年	指導のねらい	評価規準			
		集団活動や生活への 関心・意欲・態度	集団の一員としての 思考・判断・実践	集団活動や生活につ いての知識・理解	
高学年 信頼し支え合って楽しく豊かな学級や学校生活をつくる	計画 ○計画委員会を開いて、活動計画を作成し、話し合いの準備ができるようにする。 ○学級全体のことを考えて学級活動ノートに提案理由を踏まえた自分の考えを記入するなど、話し合いに向けた準備ができるようにする。	話し合いの見通しをもち、自分たちで進める	・学級や学校の充実と向上に関心を持ち、計画委員会の活動や話し合いの準備などに自主的に取り組もうとしている。	・議題について自分の考えをもち、効率的な計画委員会の運営や話し合いの活動計画について考え、準備している。	・計画委員会の役割や話し合い活動の準備の仕方など、効率的な進め方を理解している。
	話し合い 「よりよい集団決定」 =多様な意見のよさを生かして、楽しい学級や学校の生活をつくるためのよりよい集団決定ができるようにする。 ○教師の助言を受けながら、児童自身が話し合いの方法などを工夫して効率的、計画的に運営できるようにする。 ○学級だけではなく、学校生活にまで目を向け、建設的な意見を述べ合えるようにする。		・司会や記録の仕事、話し合いに積極的に取り組もうとしている。	・活動計画に基づき、よりよい学級や学校の生活づくりに向けて考え、判断し、建設的に話し合っている。 ・自分の言葉で話したり、建設的な意見を発表したりしている。 ・少数意見にも十分に耳を傾け、それを生かす方法はないか考えたり、反対意見をよく聞き、改善策を示したりして話し合っている。	・計画委員会の仕事の内容や効率的な話し合いの進め方を理解している。
	実践 ○決定したことについて自主的に信頼し合って実践することができるようにする。 ○創意工夫しながら準備をしたり、計画を立てたりして活動できるようにする。		・決定したことについて、自主的に準備や計画に取り組もうとしている。	・自他の役割、創意工夫などについて考え、信頼し支え合って実践している。	・決定したことについて、みんなで効率的に実践することの意義や方法について理解している。

学級会

「自分もよくてみんなもよい」と思うことを折り合いを付けて集団決定する
集団討議

話し合い活動 ⇒ 「折り合い」を付けて集団決定する方法を身に付け、自分たちで意見をまとめたり、決めたりすることができるようにする。

議題によっては、・・・

- ・ 考えの出し合いから始める。
- ・ 事前に集めた意見を提示しておき、「くらべ合う」段階から始めるところから始める。
- ・ 計画委員が予め集約した意見を提示したり、原案を提示したりして始める。

※「出し合う」 ⇒ 「出し合う」段階では、児童一人一人が考えついたことを自由に出し合う。

事前に学級活動ノートに書いた自分の考えを述べる人が多いと思われませんが、友達の考えをよく聞いて考えついたことを述べてもよいのです。ただし、それは単なる思い付きではなく、提案理由や話し合いのめあてに沿ったものであることが大切です。

したがって、「出し合う」段階では、新しい意見を理由をつけて発言するようにします。低学年や話し合いの経験の少ない段階では、話型（例「私は〇〇に賛成です。わけは、～だからです。」など）に基づいて発言することが多いと思われませんが、学年が上がったら、提案理由や話し合いのめあてに沿って、「自分の考えや思いを自分の言葉で」発表できるようにします。

※「くらべ合う」 ⇒ 賛成意見、反対意見を述べ合い、「出し合う」段階で出された案について、より望ましい案はどれかを考える。

賛成意見から出し合い、反対意見を述べた場合は、必ず代案や賛成意見を述べるようにし、プラス思考の話し合いが展開できるようにします。

自分の考えと比べながら聞くだけでなく、よりよいものはどれかを常に考えながら聞き、様々な意見のよさを生かしてみんなが納得できるようにする。友達の意見に即して発言できるようにする。

※「まとめる（決める）」 ⇒ 自分もよく、みんなもよいと思うことを折り合いをつけて集団決定する。

- ・ 意見が対立している場合：「意見が出尽くしたので、そろそろ決めてもよいですか。」と同意を得て集団決定する。
- ・ 自分の意見に決まらなかった児童へ：「よく考えて、いろいろな意見を出してくれたおかげで、よい決定ができましたね。」などと声を掛け、認めるようにします。

第 回 学級活動ノート

月 日 () ()

校時

議題	提案理由	決まってること	グループ 司会	話し合うこと	(1)	(2)	(3)
			司会	自分の意見(理由も)しっかり書こう。	<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 45%;">(理由)</div> <div style="width: 45%;">(意見)</div> </div>	<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 45%;">(理由)</div> <div style="width: 45%;">(意見)</div> </div>	<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 45%;">(理由)</div> <div style="width: 45%;">(意見)</div> </div>
			黒板記録				
			ノート記録				

《話し合いをふり返りましょう。》

☆話し合いのめあてを考えて、話し合うことができましたか。	よくできた できた もう少し
☆友だちの話をさいごまで聞くことができましたか。	よくできた できた もう少し
☆「はなしかたのれい」をもとに、発表できましたか。	よくできた できた もう少し
☆友だちの意見をよく聞いて、なかよくだすけ合って話し合いをすることができましたか。	よくできた できた もう少し
★計画いいんの役わり） （はできましたか。	よくできた できた もう少し

《集いやみんなできりくんだことをふり返りましょう。》

☆話し合ったことを生かして、取り組みましたか。	よくできた できた もう少し
☆学級会でできたことや自分の役わりにとりくむことができましたか。	よくできた できた もう少し
☆なかよくだすけあい、活動することができましたか。	よくできた できた もう少し

第 回 学級活動ノート 月 日() 校時

年 組 名前

ぎ だい 議 題				
ていあんりゆう 提 案 理 由				
決 ま っ て い る こ と				
司 会 グ ル ー プ	司 会		黒 板 記 録	ノ ー ト 記 録
話 し 合 う こ と	自 分 の 意 見 (理 由 も し っ か り 書 こ う 。)			
(1)	(意 見) ----- (理 由)			
(2)	(意 見) ----- (理 由)			
(3)	(意 見) ----- (理 由)			

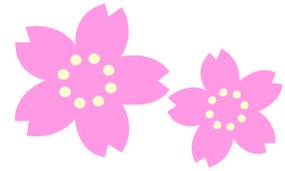
年 組 番 名前 ()

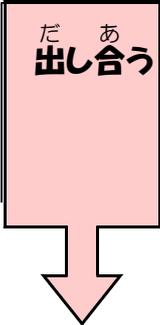
第 回 学級活動ノート 月 日() 校時

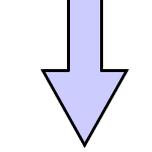
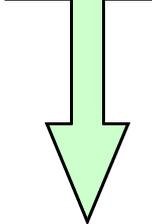
ぎ だい 議 題				
ていあんりゆう 提 案 理 由				
決 ま っ て い る こ と				
司 会 グ ル ー プ	司 会		黒 板 記 録	ノ ー ト 記 録
話 し 合 う こ と	自 分 の 意 見 (理 由 も し っ か り 書 こ う。)			
(1)	(意 見)			
	----- (理 由)			
(2)	(意 見)			
	----- (理 由)			
(3)	(意 見)			
	----- (理 由)			



角館小学校の がつきゅうかい すす かた **学級会の進め方**
 おお つ おお こえ すす
 ♥ 落ち着いて、大きな声で進めよう ♥



1. はじめのことば	<ul style="list-style-type: none"> これから、第()回()会議を始めます。
<p>2. 役割しょうかい</p> <p>一人ずつめあてを 発表する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 司会()です。 めあては、()です。 副司会()です。 めあては、()です。 黒板記録()です。 めあては、()です。 ノート記録()です。 めあては、()です。 よろしく お願いします。
3. 議題	<ul style="list-style-type: none"> 今日の議題は()です。
<p>4. 提案理由</p> <p>みんなでしっかり かくにんする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 提案理由を提案者の()さん に言ってもらいます。 ※計画委員が大事なところをキーワードで示したり、赤線を引いたりして、みんなでかくにんする。
5. 話合いのめあて	<ul style="list-style-type: none"> 話合いのめあては()です。 みんなで言いましょう。
6. 話合い	<ul style="list-style-type: none"> 話合いをはじめます。 はじめに()について、 次に()について話し合います。 話し合う時間は()までです。
<p>だしあ</p> <p>出し合う</p> 	<ul style="list-style-type: none"> 最初は(次は)、()についてです。 よい考えを出してください。 ● 考えが出ないとき

		<ul style="list-style-type: none"> ・近くの人と（ ）分間、話し合ってください。 <p>※事前に考えを出し合っておく方法もある。</p>
	<p>くらあ 比べ合う</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・それぞれの考えに、賛成や反対の意見を言ってください。始めに賛成の意見からお願いします。 理由もつけてお願いします。 ・似ている考えを整理します。 ・合体できる考えはありませんか。 <p>※思考ツール活用の時～</p>
	<p>まとめる き (決める)</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・（ ）という考えに賛成が多いので、これに決めてもいいですか？ ・（ ）と（ ）と（ ）に賛成が多く出ています。この中から決めます。 この（ ）つについて、もっと意見を言ってください。 ・意見がどうしても分かれてしまうので、多数決で決めてもいいですか？ ●時間がなくなってしまった時 ・時間になりましたので、ここで話し合いをおわります。 ＜先生と相談＞ ・続きは（ ）とします。
<p>7. 決まったこと</p>		<ul style="list-style-type: none"> ・決まったことをノート記録の（ ）さんに言ってもらいます。
<p>8. 先生のお話</p>		<ul style="list-style-type: none"> ・先生、今日の話し合いについて、お話ししてください。
<p>9. ふりかえり</p>		<ul style="list-style-type: none"> ・今日の話し合いのふりかえりを記入してください。 ・記入時間は、（ ）分です。
<p>10. おわりのことば</p>		<ul style="list-style-type: none"> ・これで、第（ ）回（ ）会議をおわります。

がっきゅうかつどうに ついての しつもん

(1年生)

1ねん くみ ばん なまえ _____

つぎの しつもんについて、じぶんに あてはまるとおもう ばんごうに ○をつけてください。

☆…つよくそうおもう ◎…そうおもう ○…あまりおもわない △…そうおもわない

		9がつ				2がつ			
①	ともだちのはなしをさいごまで きいていますか。	☆	◎	○	△	☆	◎	○	△
②	「はなしかたのれい」をもとに、 はっぴょうしていますか。	☆	◎	○	△	☆	◎	○	△
③	ともだちのいけんをよくきいて、なかよく たすけあって、はなしあいをしていますか。	☆	◎	○	△	☆	◎	○	△
④	がっきゅうかいできまったことや、 じぶんのやくわりにとりくみましたか。	☆	◎	○	△	☆	◎	○	△
⑤	なかよくたすけあい がっきゅうせいかつを たのしくしていますか。	☆	◎	○	△	☆	◎	○	△
ふりかえり									

学びゆうかつどうについてのしつもん

(2年生)

2年 くみ ばん 名まえ

つぎのしつもんについて、自分にあてはまると思う番ごうに○をつけてください。

☆…つよくそうおもう ◎…そうおもう ○…あまりおもわない △…そうおもわない

		5月	9月	2月
①	ともだちのはなしをさいごまで きいていますか。	☆ ◎ ○ △	☆ ◎ ○ △	☆ ◎ ○ △
②	「はなしかたのれい」をもとに、 はっぴょうしていますか。	☆ ◎ ○ △	☆ ◎ ○ △	☆ ◎ ○ △
③	ともだちのいけんをよくきいて、なかよく たすけあって、話合いをしていますか。	☆ ◎ ○ △	☆ ◎ ○ △	☆ ◎ ○ △
④	学びゆう会できたことや、 じぶんのやくわりにとりくみましたか。	☆ ◎ ○ △	☆ ◎ ○ △	☆ ◎ ○ △
⑤	なかよくたすけあい 学びゆうせいかつを たのしくしていますか。	☆ ◎ ○ △	☆ ◎ ○ △	☆ ◎ ○ △
	ふりかえり			

学級活動についてのしつ問

(中学年)

年 組 番 名前 _____

次のしつ問について、自分に当てはまると思う番号に、○をつけてください。

☆…強くそう思う ◎…そう思う ○…あまり思わない △…そう思わない

		5月	9月	2月
①	自分の考えと比べながら 友だちの話や意見を聞いていますか。	☆ ◎ ○ △	☆ ◎ ○ △	☆ ◎ ○ △
②	りゆうをはっきりさせて、 わかりやすく発表していますか。	☆ ◎ ○ △	☆ ◎ ○ △	☆ ◎ ○ △
③	自分とちがう意見もしっかり聞き、自分もよく みんなもよいことを考え、話し合っていますか。	☆ ◎ ○ △	☆ ◎ ○ △	☆ ◎ ○ △
④	学級会で決まったこと、自分や友だちの やくわりを考えて、取り組んでいますか。	☆ ◎ ○ △	☆ ◎ ○ △	☆ ◎ ○ △
⑤	友だちときょうりよくし合い、 楽しい学級生活にしていますか。	☆ ◎ ○ △	☆ ◎ ○ △	☆ ◎ ○ △
ふりかえり				

学級活動についてのしつ問

(高学年)

年 組 番 名前

次の質問について、自分に当てはまると思う番号に、○をつけてください。

☆…強くそう思う ◎…そう思う ○…あまり思わない △…そう思わない

		5月	9月	2月
①	友だちの話や意見のよさを見つけながら 聞いていますか。	☆ ◎ ○ △	☆ ◎ ○ △	☆ ◎ ○ △
②	自分の言葉で話したり, よくしていこうとする 積極的な態度で意見を発表したりしていますか。	☆ ◎ ○ △	☆ ◎ ○ △	☆ ◎ ○ △
③	少数意見の生かし方や反対意見の改ぜん策も 考えながら, 話し合っていますか。	☆ ◎ ○ △	☆ ◎ ○ △	☆ ◎ ○ △
④	自分や友だちの役割を考え, 工夫しながら 取り組んでいますか。	☆ ◎ ○ △	☆ ◎ ○ △	☆ ◎ ○ △
⑤	信頼し支え合って楽しく豊かな 学級生活にしていますか。	☆ ◎ ○ △	☆ ◎ ○ △	☆ ◎ ○ △
	ふりかえり			

ていあんカード

なまえ

[]

ていあんします! ()ひとりで
ていあんしたいこと

- () みんなでやってみたい
- () みんなでつくってみたい
- () みんなでかいけつしたい

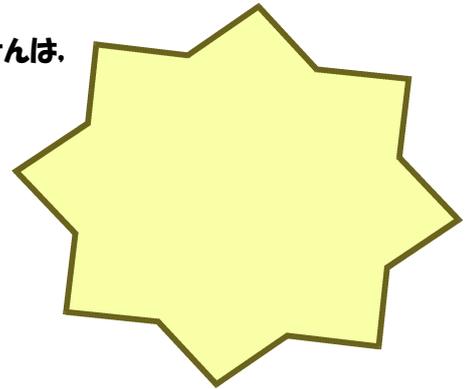
[]

()かかいから

りゆう

☆ていあんカードに かいてくれて ありがとう! あなたが かいてくれたいけんは、

- () がっきゅうかつどうのぎだいとしてとらあげます。
- () あさのかい、かえりのかいではなしあいます。
- () []かかりに おねがいをします。
- () []どうぼんにおねがいをします。
- () せんせいにおねがいをします。
- () ひとりひとりにきをつけてもらいます。



提案カード

名前

[]

提案します!()個人から ()
提案したいこと

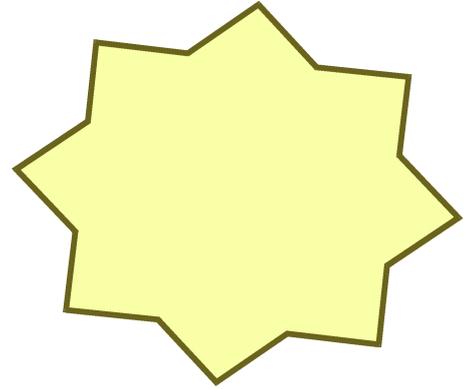
- () みんなでやってみたい
- () みんなでつくってみたい
- () みんなで解決したい

)係から

理由

☆提案カードに書いてくれてありがとう! あなたが書いてくれた意見は.

- () 学級活動の議題として取り上げます。
- () 朝の会、帰りの会で話し合います。
- () []係に お願いします。
- () []当番にお願いします。
- () 先生におねがいします。
- () 一人一人に気を付けてもらいます。



委員会		年 組 名 前				
活動の めあて						
	☆ よくできた ◎ できた ○ あまりできなかった △ できなかった	進 ん で 活 動 す る	協 力 し て 活 動 す る	工 夫 し て 活 動 す る	活 動 を 提 案 す る	<感想> ・よかったことやがんばったこと ・もう少しがんばりたいこと（常時活動もふり返って）
	活動内容					
前期 前半						
前期 後半						
後期 前半						
後期 後半						
<活動の提案>			<他の委員会活動への提案>			

第3学年松組 学級活動指導案

指導者 齊藤 定則
H28. 6. 14 (2校時)

1 題材 「言葉づかいを振り返ろう」 学級活動(2) ウ 望ましい人間関係の形成

2 題材について

(1) 児童の実態 (男子11名, 女子12名, 計23名)

本学級は、明るく元気な子どもが多く、休み時間に体育館やグラウンドで元気いっぱい遊んでいる子が多い。最初は、2年生まで同じクラスの子どもと一緒にいる時間が多かったが、徐々に慣れてきて、新しい友達と遊べるようになってきた。しかし、わがままな言動をとる子どももいて、トラブルになることがまだ多い。

いろいろな友達と遊ぶようになってきているが、子どもたちから、「もっとみんなと仲良くなりたい」という願いもあり、「よろしくの会を開こう」という議題で話し合った。計画委員会の子どもたちは、会の進め方について話し合ったり、計画を立てたりして、協力して進めることができた。また、学級会の際には、多くの子どもたちが自分の考えをもち、積極的に意見を発表し、みんなが仲良くなれるゲームなどを考えることができた。

「言葉づかいを振り返ろう」ということで事前にアンケートを取ってみると、あなたの友達に対する言葉はどうですか？では、

とてもよい	15人	よい	5人	あまりよくない	2人	悪い	1人
-------	-----	----	----	---------	----	----	----

となり、ほとんどがよいと言える結果であった。そう思う理由は、

とてもよい	友達に優しくしてもらっているから優しくしている。 優しいから嫌な言葉をつかっていない。 いい気持ちで人には優しい言葉をつかっている。 人とすぐに仲良くなって優しい言葉をつかっている。 いつも友達に「ありがとう」や「良かったね」という言葉をつかっている。 1年生の時にふわふわ言葉をつかうほうがいいと言われて、それを守っている。 悪口を言ったり、嫌なことをしていない。
よい	一緒に遊ぼうと言っている。 人にいい言葉を言っている。 ぼくが話すと、みんな笑顔になる。 けんかでいらつくこともある。
あまりよくない	時々悪いことをしているからって、「だめだよ」とせめてしまう。 うれしい言葉をあまり言わない。
悪い	掃除の時に早くやれとか真剣にやれとか言っている。

しかし、友達から嫌な言葉を言われたことがありますか？では、

ある	15人	ない	8人
----	-----	----	----

となり、言われたことがある子どもがかなり多い結果であった。このことから言った本人が気付かないでいることが多いと思われる。

また、うれしい言葉を言われたことはありますか？では、

ある	20人	ない	3人
----	-----	----	----

で、うれしい言葉を言われた子どもはとても多かった。

これまでの学校生活においては、相手の気持ちを考えずに自分の考えを押し通そうとしたり、わがままを言ったりしてトラブルになることがあった。言葉によって相手を傷つけてしまうこともあり、苦情がくることもある。自分がされて嫌なことはしない、自分が言われて嫌なことは言わない、ということは4月の学級開きの日に子どもたちと確認したが、まだまだ毎日のように嫌な思いをする子どもがいるのが実態である。

(2) 題材設定の理由

3年生になってクラス替えがあり、友達の範囲も広がってきている。多くの友達と関わるようになるにつれて、何気ない言葉で相手を傷つけてしまうことが多くなり、友達関係を悪くする原因にもなっている。そしてトラブルになることも多いので、言葉づかいについてじっくり考える必要がある。また、6月になりあいさつ運動に取り組んだ。言葉掛けを行う対象を増やし始めてきているこの時期にこの題材を行う必要があると考える。

そこで本題材では、事前に自分の言葉づかいについて振り返りのアンケートを行い、その結果から子どもたちの実態を把握し、本時へとつなげていく。また、日頃から温かい言葉や嫌な言葉があった場合に付箋に記入させ、子どもたち自身が毎日どのような言葉をたくさん使っているかを実感させたい。

本時では、アンケートの結果を紹介し、計画委員による役割演技で気持ちを考えさせ、課題を視覚的にとらえることができるようにする。

展開場面では、原因を探り、グループで話し合うことで、自分の目標の自己決定につなげるようにする。グループはアンケート結果を基に分け、同じ視点で考えられるようにしていく。「とてもよい」や「よい」と自己評価しているグループでは、よりよくしていくための目標を、「あまりよくない」「悪い」と自己評価しているグループでは、これからどんなことに気を付けて頑張っていくかなど考えさせていきたい。そして、友達の意見なども参考にしながら個人目標を設定できるようにしたい。

事後の指導では、個人目標が実践されているか継続して振り返りをさせたり、帰りの会で紹介させたりしていく。本時の学習を普段の生活で意識化、実践化させたいと思う。

3 第3学年及び第4学年の評価規準

集団活動や生活への 関心・意欲・態度	集団の一員としての 思考・判断・実践	集団活動や生活についての 知識・理解
自己の生活上の問題に関心をもち、意欲的に日常生活や学習に取り組もうとしている。	楽しい学級生活をつくるために、日常生活や学習の課題について話し合い、自分に合ったよりよい解決方法などについて考え、判断し、実践している。	楽しい学級生活をするための大切さ、そのためのよりよい生活や学習の仕方などについて理解している。

4 本題材のねらい

自分たちの普段の言葉づかいを振り返り、温かい言葉づかいでお互いを大切にしていこうとする気持ちを高める。

5 事前の指導

児童の活動	指導上の留意点	目指す児童の姿と評価方法
・題材を知る。 ・「言葉づかいを振り返ろう」のアンケート調査をし、結果をまとめる。	・問題意識を高めておくために、アンケート結果を掲示しておく。	【関心・意欲・態度】 日常の言葉づかいについて、真剣に振り返り、考えようとしている。 (アンケート調査)

6 本時のねらい

自分たちの普段の言葉づかいを振り返り、お互いを大切にし、相手の立場を考え、これからがんばっていくめあてを考えることができる。

7 本時の展開

	学習活動	指導上の留意点	資料	目指す児童の姿と評価方法
導入	1 アンケートを基に、クラスの実態を知り、温かい言葉や嫌な言葉があることを知る。	<ul style="list-style-type: none"> アンケートから、自分では言葉づかいがよいと思っている子どもがとても多いことを知り、温かい言葉がたくさんあることを知らせる。その反面、嫌な言葉が言われている子どもが多いことを知らせる。 資料や役割演技で視覚的にとらえられるようにする。 	アンケート 役割演技 (計画委員)	
展開	<p>2 友達に対する言葉が「とてもよい」という人が多いのに、なぜ友達から嫌な言葉を言われたことがある人が多いのか考える。 (個人→全体)</p> <p>3 相手に嫌な思いをさせないようにはどうすれば良いか考える。 (グループ→全体)</p> <p>4 教師からの話や資料から解決方法を考える。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 資料の言葉から、どんなときに言ってしまうのかを考えさせ、原因を探ることができるようにする。 事前アンケートの結果から同じ自己評価のグループを作り、課題解決に向けての考えを出し合えるようにする。 グループで司会役を立て、お互いの考えを出しやすいようにする。 グループの意見を全体で聞き、お互いの意見を共有できるようにする。 主体的に解決方法を考えられるような情報を提供する。 	温かい言葉アンケート資料	
終末	<p>5 自分のこれからのめあてを決め、がんばりカードに記入する。</p> <p>6 互いに自分の努力することを発表し合う。</p> <p>7 教師の話聞く。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 自分自身の課題を確認し、何をどのように努力したらよいかを考えて、より具体的な自己決定ができるようにする。 互いのがんばりについて、励まし合えるようにする。 ねらいに沿った発言ができた子どもを賞賛する。 	がんばりカード	<p>【思考・判断・実践】</p> <ul style="list-style-type: none"> 言葉づかいについて考え、「いつ、どんなふうに」を明確にしたり、数字を用いたりして、具体的な行動目標を考えている。 (がんばりカード・観察)

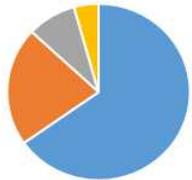
8 事後の活動

児童の活動	指導上の留意点	目指す児童の姿と評価方法
<ul style="list-style-type: none">・自分の立てためあてや取り組みなどについて振り返る。・友達同士で取組を確認し合う。	<ul style="list-style-type: none">・事後に振り返る機会を設定し、実践化に向けて継続した取組になるように助言する。・帰りの会を利用して、友達同士で取組を確認し合う場を設け、お互いのがんばりを認め励まし合いながら、実践の継続化を図るようにする。	<p>【思考・判断・実践】</p> <ul style="list-style-type: none">・自分のめあてを意識して進んで実践している。 (がんばりカード・観察)

言葉づかいをふり返ろう

アンケートの結果から

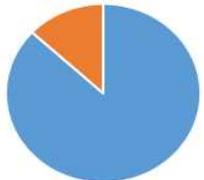
あなたの言葉は



とてもよい 15人
よい 5人
あまりよくない 2人
わるい 1人

■とてもよい ■よい ■あまりよくない ■わるい

うれしい言葉



■言われたことある ■言われたことない

すごい
いっしょに遊ぼう
ナイス
がんばってね
ありがとう
だいじょうぶ？
じょうずだね
字きれいだね
絵うまいね

いやな言葉



■言われたことある ■言われたことない

バカ
だまれ
楽しくない
こっちにこないで
うるさい
えー
きえろ
カス
くそじしい
しね

「とてもよい」という人が多いのに、なぜいやな言葉を言われた人が多いのだろうか？

- ・ 自分も言われていて、同じように言ってしまうから
- ・ おもしろくなかったときに、相手にぶつけてしまうから
- ・ まけたくないから
- ・ 弱そうな人だから
- ・ いっしょに遊んでくれないから
- ・ いやなことをされて、しかえしに言ってしまうから

・ 言ったのに、気づかない。
・ 相手がいやな気持ちになることがわかるのに、...
・ 自分ばかりの気持ちで言ってる。
・ 友達の気持ちを考えていない。

いやな思いをさせないようにするには、どうすればよいだろうか？

- ・ 何かをかりるときは「ちょっとごめん」言う。
- ・ 給食の時、もりつけをしてくれた友達に、「ありがとう」と言う。
- ・ 休み時間、「遊ぼう」と言って友達をさそう
- ・ 1日に3回以上、ふわふわ言葉をつかう。
- ・ がんばっている友達に「がんばっているね」や「すごいね」と言う。
- ・ 友達がいやだと思った言葉がなかったか、帰りの会でふり返る。

自分がかんばることは？

- ・ いつ、どんなとき
- ・ どんなふうに

がんばりカードに自分のめあてを書こう！

第4学年梅組 学級活動指導案

指導者 田村 道子
H28. 6. 14 (3校時)

1 議題 「とどけよう熊本へ！4梅ビデオレター ～思いやりプロジェクトPART2～」

2 議題について

(1) 児童の実態 (男子14名, 女子15名, 計29名)

明るく活発で、何事にも意欲的に取り組む児童の集団である。男女の仲も良く、自然に協力し合って活動している。授業時間も積極的に課題に取り組む姿が見られる。以前は、互いの気持ちのいき違いにより、トラブルが多かったが自分の思いをしっかりと伝えることの大切さを感じるようになったことで、今では少なくなってきた。3年生までの学級活動では、順番に計画委員を経験したり、お楽しみ会を計画したりしてきた。また、学校生活や学級のルールをしっかりと守ろうという提案もあり、自分たちでよりよい学校生活を目指して話し合いをしてきた。学級のみんなで活動することの楽しさや達成感を味わえる学級活動を、楽しいと感じている児童が多い。4年生では、よりよい意見を視覚的にも思考的にも分かりやすくするために、座標軸を取り入れて話し合い活動を進めてきた。それぞれの意見が、四つの部屋のどこにあてはまるかを考えていくことで思考が整理され、とても分かりやすいと好評であった。また、互いの考えを伝え合い、聞き合うことでよい考えに決められる話し合い活動にも楽しさを感じている児童も多い。一方で、自分の考えに自信をもてなかったり、人前で話すことを恥ずかしかったりしてなかなか発言することができない児童もいる。座標軸の意味を理解できていなかったり、これまでの話し合いと変わったことでどのように意見を伝えたらよいのか迷ったりして、発表に消極的になっている児童も数名いる。そのため、発表する児童が固定化してきている。

今後は、これまでの経験を生かした上で、話し合い活動の際、全員が自分の思いを自信をもって伝えられるように互いの考えを認め合える温かい雰囲気作りや、相手の考えについて自分はどう思うのか考えて聞けるようにしながら、よりよい集団決定ができるようにしていきたい。

(2) 議題選定の理由

本校の4年生では、総合的な学習の時間に、ふるさと角館の誇りである桜や武家屋敷のある町並みを観光客に案内する活動を行っている。3年生から、桜の歴史や見所、町の歴史やお薦めの土産品を調べるなど大変意欲的に活動してきた。4月になり町の歴史案内人の方からゲストティーチャーとして来ていただき人前で話すときのポイントについて学んだ。たくさん練習したことも自信となり、当日は初めて出会う観光客にも臆せずどんどん声をかけ全国の方々に町の魅力を伝えることができた。その中で、九州地方から訪れた方から後日、お礼の手紙と写真が届いた。返事を返したところ、子どもたちからの言葉に励まされたことが書かれた手紙が届き、この2度にわたるやりとりが本議題設定のきっかけとなった。

九州地方、特に熊本県での被害が大きかったことは連日のテレビニュースで耳にしている児童が多かった。また、社会科の学習では、東日本大震災や今回の熊本の震災には、全国各地の消防士や市役所の方々が駆けつけ復旧に向けて協力していることを学習した。児童の中で、自分たちにも何かできることをしたいという思いが高まった。相手の立場やおかれている状況を考え、自分にできることを考えられるようになることで一人一人の思いやりの心が広がっていく議題であると考えた。また、5月には「1年生となかよくなるう」という議題が提案された。入学してきた1年生が遊ぶ遊びを考え、一緒に遊ぶことで学級目標にある思いやりの心を高めようというものだった。そこで～思いやりプロジェクト～として続けていくことで児童への意識づけもできると考えられる。

話し合いでは、学級目標の「みんなの心を大切に チームワークで集中・挑戦 広がれ笑顔と思いやり」に基づきながら、「4梅の元気や思いやりの心で熊本県の小学生を明るい気持ちにする」ことを考えていく。避難訓練や道徳の時間を通して、相手の状況をしっかりと意識した上で自分たちにできることを考えられるようにしたい。話し合うことは「どんな内容にするか(南阿蘇西小学校の4年生に元気を届けるビデオレター)」と「どんな工夫ができるか(元気を届けるための工夫)」についての2点とする。初めての議題であるため、全員が意見を出し合い、比べ合うことで新しいことへの挑戦となることも実感できるようにしていきたい。

3 「第3学年及び第4学年」の評価規準

集団活動や生活への 関心・意欲・態度	集団の一員としての 思考・判断・実践	集団活動や生活についての 知識・理解
学級生活の向上に関心を持ち、他の児童と協力して意欲的に集団活動に取り組もうとしている。	楽しい学級生活をつくるために話し合い、自分の役割や集団としてのよりよい方法などについて考え、判断し、仲良く助け合って実践している。	みんなで楽しい学級生活をつくることの大切さや、学級集団としての意見をまとめる話し合い活動の計画的な進め方などについて理解している。

4 事前の活動

【計画委員会と学級全員の活動】

日時	児童の活動 計 計画委員会 全 学級全員	指導上の留意点	目指す児童の姿 と評価方法
5月27日(金) 長休み 帰りの会	計 ・議題を選定し、学級の承認を得る。	・議題選定の理由を、学級全員が理解できるように説明のしかたを助言する。	【関心・意欲・態度】 ・学級目標を実現するために話し合うことを再確認し、議題にこめられた意義を感じ取っている。 〈提案カード・観察〉 【知識・理解】 ・熊本の小学生に自分たちの元気をとどけて笑顔にするために話し合わなければならないことや話し合いの準備の仕方を理解している。 〈活動計画〉 【思考・判断・実践】 ・相手が喜んで笑顔になることは何かを考え、判断し、ノートに書いている。 〈学級会ノート〉
5月31日(火) 朝の活動 ～ 6月1日(水) 朝の活動	計 提 ・提案理由を確認する。 ・話し合いのめあてを決める。 ・活動計画を決定して、学級活動ノートを作成する。 ・学級会コーナーに活動計画を提示する。	・学級全員に提案の趣旨が伝わるように、分かりやすい提案理由となるよう助言する。 ・提案者の提案理由に沿って、話し合いのめあてを決める。 ・決まっていることや話合うことなどを明確にして、話し合いの見通しをもたせる。	
6月2日(木) 朝の活動	全 ・学級活動ノートに自分の意見を書く。	・決まっていることを全員が理解できるように、一つ一つ条件を確認する。 ・提案理由の大事な言葉や話し合いのめあてを意識しながら考えるよう、助言する。	
6月3日(金) 朝の活動 長休み	計 ・活動計画書を書く。 ・全員の学級活動ノートに目を通す。	・司会、副司会は全員の学級活動ノートに目を通して一人一人の意見を把握して、活動計画書を作成する。 ・黒板・ノート記録は、意見カードを作成し黒板貼り付けに備える。	
6月7日(火) 朝の活動 帰りの会	計 ・作成した意見カードをホワイトボードに掲示し、全体に知らせる。	・話し合いでは、それぞれの意見を比べ合うことから始められるように、事前に提案された意見を掲示し、自分の考えをもっておくことを伝える。	

6月13日(月) 帰りの会	<input checked="" type="checkbox"/> 全 ・学級活動ノートを受け取り、教師からの言葉や自分の考えを確認する。	・配布前に教師からの励ましの言葉を書き添えておき、話し合いに参加する意欲を高める。 ・提案理由や話し合いのめあてを再度確認しながら、自分の考えを確認しておくよう助言する。
6月13日(月) 放課後	<input checked="" type="checkbox"/> 計 ・話し合いの進行の仕方を確認する。	・活動計画書を見ながら、話し合いの流れを確認し、話し合いの見通しをもたせる。

5 本時の展開

(1) 本時のねらい

○熊本県の4年生に元気をとどけられるような心のこもったビデオレターの内容を考えることができるようにする。

(2) 児童の活動計画

4年 梅組
(2) 児童の活動計画

第3回 学級会 活動計画		6月14日(火) 3時間目
議題	とどけようくまもとへ 4梅ビデオレター～思いやりプロジェクトパート2～	
役割	司会 () 黒板記録 () 副司会 () ノート記録 ()	
提案理由	さくらの町の案内人のとき出会ったおじさんからお手紙をいただいて、わたしたちもへんじをかきました。そのお手紙におじさんはとても元気だったみたいで、今くまもとへ大きなお返しをかきました。そこでわたしたちくまもとの小学生のみなさんへお手紙をたくさんとどけてほしいです。わたしたちの元気と喜ぶくまもとの小学生を元気なついでに伝えたいです。	
めあて	理由をはっきりさせて自分の考えを発表しよう。 くまもとの4年生に元気をとどけられるような心のこもったビデオレターのないうえを考えよう。	
決まっていること	とどける相手は南あそ西小学校。ビデオレターの内ようはこくろい、とどけるものはせがきビデオレター。練習期間、週間、とどける日、6月最後の週に送る。係に分かれて準備がする。ビデオレターの時間、15分。決まったことは分らないでみんながいっしょにとどけよう。	
話し合いの順序(時間)	気をつけること	準備
1 始めの言葉	・開きどりをよく言う。	
2 計画委員の紹介	・がんばるとど(めあて)をかんたんに言う	
3 議題の確認	・提案者に提案理由を言ってもいいから大事な	
4 提案理由やめあての確認	ことをみんなできよくいにする。	
5 決まっていることの確認	・それぞれのやることをどの部屋にはいるか考えて話し合おう。	
6 話し合い	・理由がかんたんすぎる人にくわしくいってもらうようにする。	
① どんなないうえにするか。 (南あそ西小学校の4年生に元気をとどけるビデオレター(15分間))	・意見がでたらそのことについてよくいにする。 ・たくさんの意見をだしてもいいようにあてる。	たんざく 学級会 じしやく
② どんな工夫がでるか。 (元気をとどけるための工夫) (20分間)	・南あそ西小学校の4年生が元気になる工夫について考えたそのなかからよりいいものにしぼる。①で決まったないうえ全部にかんいする工夫を決める。	
③ (分間)	・にている意見があつたが合体できるものはないか聞いてみる。 ・同じ意見の人にも発表してもらう。 ・自分や友達のがかたところや決まったことについてくわしくい。	
7 決まったことの発表	・ビデオレターに元気がたさん入るようにしーかりあいせーする。	
8 ふりかえり		
9 先生の話		
10 終わりの言葉		

(3) 教師の指導計画

話合いの順序	指導上の留意点	目指す児童の姿と評価方法
<p>1 はじめの言葉</p> <p>2 役割紹介</p> <p>3 議題の確認</p> <p>4 提案理由と話合いのめあての確認</p> <p>5 決まっていることの確認</p> <p>6 話合い</p> <p>①どんな内容にするか。(南阿蘇西小学校の4年生に元気を届けるビデオレター)</p> <p>②どんな工夫ができるか。(元気を届けるための工夫)</p> <p>7 決まったことの発表</p> <p>8 ふり返り</p> <p>9 先生の話</p> <p>10 終わりの言葉</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・一人一人が、自分のめあてを言えるように指導しておく。 ・提案者の思いを全員が理解し、話合いの指標となるように指導し、めあてと連動させておく。 ・決まっていることも意識して話合いを進められるように一つ一つ確認する。 ・提案理由やめあてを意識し、相手が喜ぶことで、自分たちで準備できることを考えていくよう助言する。 ・根拠をはっきりさせて発表させ、聞く側も根拠に注意して聞くようにさせる。 ・座標軸の4つの部屋はそれぞれどのような意味のあるものなのかテープや項目を色分けしたり表情を表したカードを貼ったりして視覚的にも分かりやすいようにする。また、発表のときはスムーズに話せるように番号で伝えさせる。 ・できるだけたくさんの人の考えを引き出すように指名させる。 ・自分の考えのみに固執せず互いの考えに耳を傾けながら、無理なく公平に折り合いをつけさせていく。 ・少数意見も大切にし、納得した上で決定につなげていく。 ・自分の反省と共に友だちの頑張りやよさにも目を向けさせる。 ・提案理由を意識した発言や学級全体を考えた建設的な発言を大いに称賛する。 ・計画委員にねぎらいの言葉をかけ、実践への見通しをもたせながら意欲を高める。 	<p>【思考・判断・実践】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・理由を明確にして、相手が喜び、元気になることを考えて、発言している。 (観察・学級活動ノート) ・計画委員としての役割を自覚し、思いやりの心が学級全体に広がっていくような集団決定ができるように、協力して会を進行している。 (観察・活動計画)

6 事後の活動

日時	児童の活動	指導上の留意点	目指す児童の姿と評価方法
6月15日(水) 朝の活動	・決まったことを学級会コーナーに掲示する。	・ノート記録を生かし、必要な部分を補足掲示する。	【関心・意欲・態度】 ・ビデオレターの準備や寄せ書きの作成に進んで取り組もうとしている。 〈観察〉 【思考・判断・実践】 ・相手が喜ぶことを意識して準備したり参加したりしている。 〈観察・ふり返りカード〉
6月15日(水) ～ 6月23日(木) 長休み 昼休み	・準備や練習 ・よせがきの作成	・一人一人が実践に向けて必要なことを準備したり練習したりするよう呼びかける。 ・決めたことの実践に向けて、友達と協力したり工夫したりして活動している児童を称賛する。	
6月24日(金) 朝の活動	・ビデオレター作成	・話合いで決まったことを大切に実践するよう呼びかける。 ・学級目標の実現に向けてみんなで協力して頑張ったことを価値づける。	

第6学年松組 学級活動指導案

指導者 伊藤 淳
H28. 6. 14 (4校時)

1 議題 「さくら満開ステージにクラス全員で出場しよう」(1) ア

2 議題について

(1) 児童の実態 (男子13名, 女子13名, 計26名)

本学級の児童はたまにトラブルもあるが、全体的に仲が良く、進んで話し合ったり協力して活動したりすることができる。今年は最上級生として今までよりレベルアップをして過ごそうと意識をして取り組んでいる。委員会活動やクラブ活動では進んでリーダーに立候補して学校を引っ張ろうとしている。また、廊下の歩き方など学校の問題点に気づき、毎日ルールに気を付け、改善しようとする気持ちが強い。しかし、中には「誰かがやってくれるだろう」「誰かがやったら自分もやろう」など人任せな児童もいる。

今年の学級目標は「ねばり強く考え、協力して友情を深め 最上級生としてやりとげる」である。その実現に向けてみんなで取り組んできた。これまで、「係活動を活発にしよう」「廊下の歩き方を考えよう」「1年生と交流しよう」などの議題で話し合いを行った。その話し合いで決まったことを実践することで充実感を得るとともに、各活動を振り返ることによって、次の活動へのヒントを得てきた。また、時にはうまくいかずつまづくこともあるが、それを成功させるために、自分たちで声を掛け合い進んで行動する姿が少しずつ見られるようになってきている。

話し合い活動については、自分の意見を堂々と発表できる児童もいるが、司会者に指名された時、返答に詰まったり、友達の意見を繰り返すだけの消極的な反応をとる児童もいる。そこで、学級会ノートへ事前に自分の意見を書く経験を積み重ねてきた。その結果、予め意見を用意し、進んで発表しようとするようになってきている。また、自分の意見に自信がもてず、不安になって話し合いが滞ることもある。その際は、話し合いの途中に司会の児童が積極的に友達との相談タイムを設けるようにした。ペアやグループで考えを伝え合い、友達の考えはどうなのかなど確認をすることで、自分の意見に自信がもてるようにしている。その結果、発言する児童の数は以前より少しずつ増えてきている。

(2) 議題選定の理由

一人一人には個性豊かな表現力があるが、いざ人前に出ると恥ずかしがり、自信がなくなってしまうこともある。そこで5月に「得意なこと発表会をしよう」というテーマで学級集会を行った。すると、児童は演奏や踊り、スポーツなどの一芸を生き生きと発表し、学級目標にある「友情を深める」ことにもつながった。その際、学級内だけでなく、学級外でも最高学年としての姿を見せたという児童の思いから、本議題を話し合うことに決まった。

さくら満開ステージは集会委員会が主催し、年に数回行う自由発表の場である。発表内容は運動、音楽的なものなど様々であるが、高学年になると出場者が限られてくる。集会委員の児童からも参加者が増えてほしいという思いも聞かされていた。そこで、最上級生の姿を見せるために、児童が主体的に出場テーマを決めて発表する経験を通して児童に自信をつける機会としたい。また、下級生の前で行うことで、六年生へのあこがれやかっこよさをアピールし、児童集会を盛り上げるきっかけとなしてほしい。

話し合い活動の「話し合い1」の場面では、集会で行うことをくらべ合うが、その時に様々な意見が出た場合、何が発表に一番ふさわしいのか、その理由は何なのかなどで混乱することも予想される。そこで話し合いの進捗状況が視覚的にわかり、より良いものを見つけられるように2次元座標軸を用いた思考ツールを使用する。そして「全員で楽しく発表できる」、「6年生のがんばりを見てもらえる」という視点を明確にして選べるようにする。さらに「話し合い2」の場面では、学級目標にある「友情を深めて良い思い出を作る」と「最上級生として」という視点から工夫点を考えさせるようにする。そこで階層性の思考ツールを用いて出された意見を整理・比較・統合し、より良い工夫を見つけられるようにしたい。

3 「第5学年及び第6学年」の評価規準

集団活動や生活への 関心・意欲・態度	集団の一員としての 思考・判断・実践	集団活動や生活についての 知識・理解
学級や学校の充実と向上に関心を持ち、計画委員会の活動や話し合いの準備などに積極的に取り組もうとしている。	楽しく豊かな学級や学校の生活を作るために話し合い、自己の役割や責任、集団としてのよりよい方法などについて考え、判断し、信頼し支え合っている。	よりよい学級生活をつくることの意義や、学級集団としての意見をまとめる話し合い活動の効率的な進め方などについて理解している。

4 事前の活動【計画委員会と学級全員の活動】

日時	児童の活動 計全提 計画委員会 学級全員 提案者	指導上の留意点	目指す児童の姿 と評価方法
6月1日 (水) 長休み 放課後	計提 ・提案者と打ち合わせする。 ・役割分担を考える。	・議題カードを提出した提案者の 思いや根拠を大切に話し合い の計画を進める。	【関心・意欲・態度】 ・学級目標を実現す るために話し合 うことを再確認し、 議題の意義を感じ 取っている。 <議題カード・観察>
6月2日 (木) 帰りの会	全 ・本議題の内容を確認し、全 員に議題の承認を得る。	・選定した議題について、全員で 確認する。	
6月3日 (金) 朝の活動 ～ 6月6日 (月) 朝の活動	計提 ・提案理由を確認する。 ・話し合いのめあてを決める。 ・活動計画を決定して、学級 活動ノートを作成する。 ・学級会コーナーに活動計画 を掲示する。	・みんなに提案の趣旨が伝わるよ うな、分かりやすい提案理由に なるように助言する。 ・提案者の提案理由に沿って、話 合いのめあてを決定する。 ・「さくら満開ステージ」の日時、 条件、話し合うこと等を明示し、 話し合いの見通しをもたせる。	【知識・理解】 ・「学級全員でさくら 満開ステージに出 場して友情を深め る」ために話し合 うことや、話し合 いの準備の仕方を理 解している。 <活動計画書>
6月7日 (火) 朝の活動 昼休み	全 ・学級活動ノートに自分の考 えを記入する。 計提 ・活動計画書を書く。	・条件を共通理解させる。 ・提案理由の大事な言葉や、話し 合いのめあてを意識しながら考 えるように、助言する。	【思考・判断・実践】 ・発表テーマや、出 場の際の工夫点に 関しての意見を考 え、どんなものが あるかをノートに 書いている。 <学級活動ノート>
6月8日 (水) 長休み 昼休み ～ 6月10日 (金) 昼休み	計 ・全員の学級活動ノートに目 を通す。 ・何を発表するか、活動ノー トから出た意見を掲示して おく。	・司会・副司会は、意見に目を通 して一人一人の事前の意見を把 握しておくが、必ずしもそれ にとらわれなくてもよいことを助 言する。 ・黒板記録は、ノート記録と協力 しながら意見カードを作成し、 黒板貼付に備える。	
6月13日 (月) 帰りの会	全 ・学級活動ノートを受け取 り、教師からの言葉や自分 の考えを確認する。	・配布前に教師からの励ましの言 葉を書き添えておき、話し合い に参加する意欲を高める。 ・提案理由や話し合いのめあてを再 確認しながら、自分の考えを確 認しておくよう助言する。	
6月13日 (月) 放課後	計 ・話し合いの進行の仕方を確認 する。	・全員の学級活動ノートを確認し ながら準備したことをもとに、 話し合いの見通しをもたせる。	

(3) 教師の指導計画

話し合いの順序	指導上の留意点	目指す児童の姿と評価方法
<p>1 はじめの言葉</p> <p>2 司会グループの紹介</p> <p>3 議題の確認</p> <p>4 提案理由の説明</p> <p>5 決まっていることの確認</p> <p>6 話し合い</p> <p>①何を発表するか（5分以内で1つか2つ）</p> <p>②どんな工夫をするか</p> <p>○友情を深め、良い思い出となる工夫</p> <p>○最上級生としての工夫</p> <p>全体 グループ ペア</p> <p>7 決まったことの確認</p> <p>8 振り返り</p> <p>9 先生から</p> <p>10 終わりの言葉</p>	<p>・話し合いの流れを司会グループと話し合い、学級会コーナーにも掲示し、見通しをもたせておく。</p> <p>・提案者の思いを全員が理解し、話し合いの指針になるように事前に指導する。</p> <p>・学級目標や提案理由に沿ったためあてになるよう事前に指導する。</p> <p>・「くらべ合う」段階から話し合いを始めることができるように、意見を学級活動コーナーに掲示しておく。</p> <p>・他にも意見がないか確認させるようにする。</p> <p>・2次元座標軸の思考ツールを活用し、「6年生のがんばりを見てもらえるもの」、「全員で楽しく発表できるもの」を1～2つくらい選べるようにする。</p> <p>・多様な工夫点ができるようにグループで話し合う時間を持つ。その際、「友情を深め、良い思い出となる」「最上級生としての」工夫を考えられるように助言する。</p> <p>・階層型思考ツールを用い、出てきた意見を分類・比較したり、統合したりして意見をまとめることができるように助言する。</p> <p>・発表を成功させるには、発表の内容だけでなく、話し方、姿勢、服装、動きなどに注目し、それがそろふことで学級全体の心が一つになることを助言する。</p> <p>・意見があまりでない場合は計画委員会で事前に考えておいた工夫点の例を紹介させ、話し合いのヒントとさせるよう指示しておく。</p> <p>・少数意見も大切にし、納得した上で決定につなげていく。</p> <p>・自分の反省と共に、友達の頑張りやよさにも目を向けさせる。</p> <p>・話し合いのよかったところを取り上げたり、活動に対する期待や励ましを述べたりして、これからの活動への意欲を高めさせる。</p>	<p>【思考・判断・実践】</p> <p>・活動計画に基づき、よりよい学級発表ができるように考え、判断し、建設的に話し合っている。</p> <p><観察・学級会カード></p> <p>・計画委員としての役割を自覚し、集団決定のためによりよい方法を考えながら、協力し合って会を進行している。</p> <p><観察・活動計画></p>

6 事後の活動

日時	児童の活動	指導上の留意点	目指す児童の姿と評価方法
6月16日 (木)	計 決まったことを学級活動コーナーに掲示する。	・学級会で決まったことの要点をまとめて書けるよう計画委員に助言する。	【 <u>関心・意欲・態度</u> 】 ・準備や会に進んで取り組もうとしている。 〈観察〉 【 <u>思考・判断・実践</u> 】 ・会の目的を考え、友達と協力し責任をもって準備したり参加したりしている。 〈観察・振り返りカード〉
6月17日 (金)～ 7月1日 (金) 朝の活動 休み時間	全 準備や練習をする。	・決めたことの実践に向けて、自分の役割を果たすとともに、友達と協力して準備できるよう声をかけ、協力したり工夫したりして活動している児童を賞賛する。 ・今回の実践を振り返り、みんなで実践できたことや一人一人の活動のよさを認め合うとともに、今後の活動に生かそうという意欲を持たせる。	
7月1日 (金) 長休み 多目的ホール	さくら満開ステージ 活動の振り返り		

板書1 (教室右側面)

「さくら桜満開ステージ
プログラム」

- 一 はじめの言葉
- 二 発表
- ⑤④③②①
- 三 感想発表
- 四 終わりの言葉

「これまでの発表の例 写真」

板書2 (黒板右柱…学級会コーナー)

第五回 たっち会議

議題

「さくら満開ステージに出場しよう」

提案理由

これまで六年松組全員でさくら満開ステージに出場したことがありません。そこで六年松組の友情を深めてよい思い出を作るとともに、下級生に六年生のがんばりを見てもらいたいと思っただけで提案します。この経験を通して今まで以上に自分に自信をもてるようにしたいと思います。

話し合うこと

- ①さくら満開ステージで何をするか (五分以内 1〜2つ)
- ②発表を盛り上げるためにどんな工夫をするか (3つくらい)

決まっていること

さくら満開ステージ 七月一日 (金) 一時五分〜一時三十五分
多目的ホール
クラス全員で、六年生らしい発表をする。
五分以内での発表

話し合いのめあて

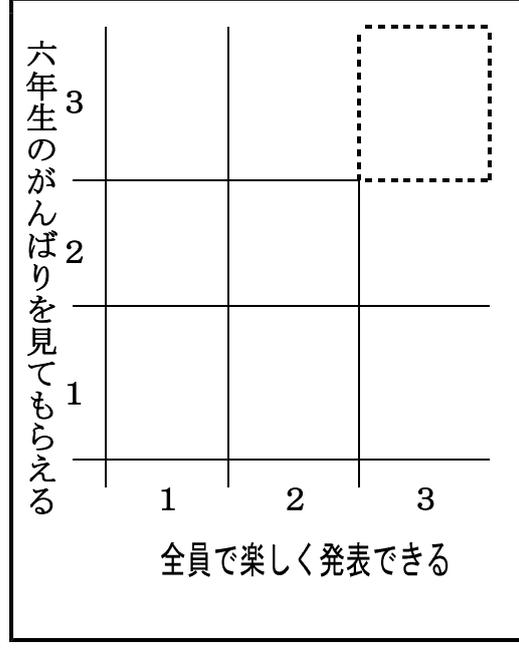
- ・友達と友情を深め、下級生に「さすが六年生！」とあこがれられるようなステージにするにはどうすればいいか考えて発表しよう。
- ・聞いている人を納得させられるような説得力のある理由を発表しよう。

話し合うこと①

さくら満開ステージで何をするか (五分以内)

1つか2つ

11:05

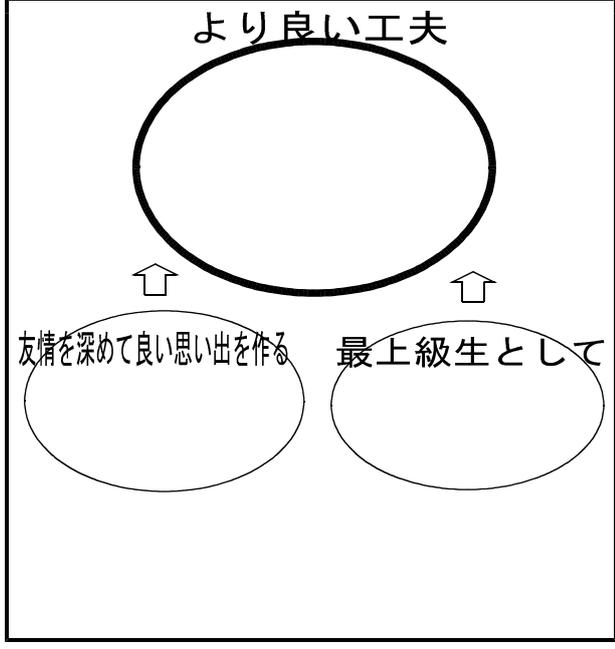


- 詩の暗唱
- 長なわ
- 歌
- 百人一首
- ダンス
- 跳びばこ
- 音楽演奏

話し合うこと②

発表を盛り上げるためにどんな工夫をするか (3つくらい)

11:25



- 同じ服装をする
- あいさつをしつかりする
- きびきびと行動する
- 発表するものの説明をする
- 全員で〇〇をつける
- 音楽に合わせてやる
- 笑顔でやる
- カクレンジャーもでる
- 見ている人に手拍子をしてもらう

第2学年松組 学級活動指導案

指導者 小西 美樹子
H28. 7. 15 (2校時)

1 議題 がんばったね集会の「おにごっこ」をきめよう <(1)ア>

2 議題について

(1) 児童の実態 (男子12名, 女子12名, 計24名)

本学級の児童は、明るく伸び伸びしており男女の仲も良い。元気で自分の考えを何でも言えたり、控えめではあるが友達が困っていると優しく援助できたりする子どもたちである。一方で自分の思いをなかなか言葉に表せず、気持ちばかりが先走りつい手が出てしまったり、自分のことばかりを主張し、相手の気持ちを考えることができなかつたりする児童もいる。また、友達のちょっとした言動を強く非難したり、些細なことでも譲り合えなかつたりして、トラブルになることもある。4月に、「どんな学級にしたいか」尋ねた時に、「やさしく、笑顔がいっぱいの学級」「話をしっかり聞ける学級」という意見が多く出されたので、これらを学級目標に組み入れて意識させてきた。

話し合い活動において、これまでは、「学級が楽しくなる係を決めよう」「あいさつうんどうをがんばろう」の議題で自分たちができることを話し合い、実行してきた。また、休み時間に遊びのルールを巡ってトラブルが起きてしまったことをきっかけに「なかよく遊ぶためのルールを考えよう」という議題で、もっと気をつけていきたいことを話し合いトラブルを解決してきた。これらのことから、学級会は、みんなで作って上げていく楽しい時間であることや、学校生活を豊かにする思いを実現できる時間であることを実感してきている。話し合いの進め方等は、輪番制で計画委員を経験し、教師の手助けを借りながらも少しずつ自分たちでできるようになってきている。自分の主張ばかり通さず、相手の話をしっかり聞いて、自分の考えを発表することで「自分もよくて、みんなもよい」ことを考えていけるようにしていきたい。

(2) 議題選定の理由

本議題は、夏休み前に前期前半を振り返っての「がんばったね集会」をするにあたり、いつも休み時間に友達同士でやっていたおにごっこを、学級のみんなと一緒に楽しみたいという提案から選ばれた。

以前、遊びの中で自己中心的な考えをしてトラブルになり話し合ったことから、「やさしくえがお」の学級目標にあるように、みんなが楽しめるおにごっこをするには、自分たちでルールを工夫し、話し合う必要があるとして、本議題を決定した。休み時間の遊びではなく、学級全員の思い出となる集会の場面であることを意識させ、みんなのことを考えた発言を引き出したい。

工夫について考える話し合いでは、意見の短冊に笑顔マークを増やしたり近づけたりしながら、視覚的によりよい意見に気づかせていきたい。

本議題を取り上げ、いろいろな意見を出し合い実践することにより、自分たちで決めたことを自分たちで実践するよさや満足感を味わうことができるのではないかと考える。

3 第1学年及び第2学年の評価規準

集団活動や生活への 関心・意欲・態度	集団の一員としての 思考・判断・実践	集団活動や生活についての 知識・理解
学級の身の回りの問題に関心を持ち、他の児童と協力して進んで集団活動に取り組もうとしている。	学級生活を楽しくするために話し合い、自己の役割や集団としてのよりよい方法などについて考え、判断し、仲良く助け合って実践している。	みんなで学級生活を楽しくすることの大切さや、学級集団としての意見をまとめる話し合い活動の基本的な進め方などについて理解している。

4 事前の活動【計画委員と学級全員の活動】

日時	<div style="display: flex; align-items: center;"> <div style="margin-right: 10px;">児童の活動</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">計 全 提</div> <div style="font-size: small;">計画委員 学級全員 提案者</div> </div>	指導上の留意点	目指す児童の姿と評価方法
6月30日 (木) 長休み	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">計 提</div> <ul style="list-style-type: none"> ・提案者と打ち合わせをし、提案理由を練り上げる。 ・役割分担を考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・提案理由を全員で共有できるように、足りない部分については補足する。 	<p>【<u>関心・意欲・態度</u>】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・議題に関心をもち、進んで話し合いに参加しようとしている。 <p><議題カード・観察></p>
7月1日 (金) 朝の会	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">計</div> <ul style="list-style-type: none"> ・議題の提案をし、全員の承認を得る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・選定した議題について、全員で確認する。 	<p>【<u>知識・理解</u>】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・話し合い活動の準備の仕方や基本的な進め方を理解している。 <p><活動計画></p>
7月5日 (火) 朝の活動 ～ 7月6日 (水) 朝の活動 朝の会	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">計</div> <ul style="list-style-type: none"> ・学級会の活動計画をたてる。(話し合いのめあて、柱の決定) ・学級活動ノートを作成する。 ・学級会コーナーに活動計画を提示し、次回の学級会で話し合う内容と自分の考えをまとめておくことを伝える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・話し合いのめあては、教師側のねらいを含めて慎重に決めさせる。 ・話し合いの柱は、事前に決めておくことと話し合っ て決めなければならない ことの区別をしてから、 めあてとの関連を考えて 選定するよう助言する。 	<p>【<u>思考・判断・実践</u>】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・みんなのことを考えて自分の考えをノートに書くことができる。 <p><学級活動ノート></p>
7月7日 (木) 朝の活動	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">全</div> <ul style="list-style-type: none"> ・学級活動ノートに自分の考えを書く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・提案理由や話し合いのめあてをもとに、自分の考えを理由とともに書くように助言する。 	<p>【<u>思考・判断・実践</u>】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・みんなのことを考えて自分の考えをノートに書くことができる。 <p><学級活動ノート></p>
7月8日 (金) 朝の活動 放課後	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">計</div> <ul style="list-style-type: none"> ・全員の学級活動ノートに目を通し、活動計画書を書く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・司会・副司会は教師と共に学級活動ノートに目を通し、活動計画書を書く。 ・黒板・ノート記録は意見カードを作成し、黒板貼り付けに備える。 	<p>【<u>思考・判断・実践</u>】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・みんなのことを考えて自分の考えをノートに書くことができる。 <p><学級活動ノート></p>
7月12日 (火) 朝の活動 朝の会	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">計</div> <ul style="list-style-type: none"> ・活動ノートから出た意見を掲示しておく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・話し合いでは、比べ合いができるように、それぞれの意見に対し自分の考えをもっておくように伝える。 	<p>【<u>思考・判断・実践</u>】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・みんなのことを考えて自分の考えをノートに書くことができる。 <p><学級活動ノート></p>
7月14日 (木) 朝の活動	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">全</div> <ul style="list-style-type: none"> ・学級活動ノートを受け取り、教師からの言葉や自分の考えを確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・配布前に教師からの励ましの言葉を書き添えておき、話し合いに参加する意欲を高める。 ・提案理由や話し合いのめあてを再度確認するよう助言する。 	<p>【<u>思考・判断・実践</u>】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・みんなのことを考えて自分の考えをノートに書くことができる。 <p><学級活動ノート></p>
7月14日 (木) 放課後	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">計</div> <ul style="list-style-type: none"> ・話し合いの進め方を確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・司会進行の言葉を確認しながら話し合いの全体の流れをつかませる。 	<p>【<u>思考・判断・実践</u>】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・みんなのことを考えて自分の考えをノートに書くことができる。 <p><学級活動ノート></p>

(3) 教師の指導計画

話合いの順序	指導上の留意点	目指す児童の姿と評価方法
1 はじめのことば		
2 役割しようかい	<ul style="list-style-type: none"> 一人一人が、自分のめあてを言えるように指導しておく。 	
3 議題の確認		
4 提案理由と話合いのめあて確認	<ul style="list-style-type: none"> 提案理由の中の大事なことばをカードで提示し、話合いの視点を意識して参加できるようにする。 	
5 決まっていることの確認	<ul style="list-style-type: none"> 「がんばったね集会」のプログラムを掲示し、議題への意欲を高める。 	
6 話合い ①なにおににするか。 (みんながたのしめる) ②どのようなくふうをすればよいか。 (みんながたのしめるくふう)	<ul style="list-style-type: none"> 計画委員用の活動計画表を準備し、司会の近くに座って進行を支援する。 話型を示すなどして、理由をつけて発表できるようにする。 出された意見は短冊に書き、黒板記録が黒板に掲示するようにする。 賛成意見やつなぐ意見から出し合うように司会に助言する。 はっきりと言えた意見、思いやりのある意見等を称賛する。 語彙が少なかったり説明が上手くできなくて意見が伝わらなかったりしたときは助言する。 聴く態度、話す態度がマナーに反するときは注意をする。 話合いが混乱したら、提案理由やめあてを確認するよう声をかける。 笑顔マークに短冊を移動する際の必要な助言をする。 	<p>【関心・意欲・態度】</p> <ul style="list-style-type: none"> 議題に関心をもち、最後まで友達の見解に耳を傾けて話し合おうとしている。 <p>＜観察・発言・学級活動ノート＞</p> <p>【思考・判断・実践】</p> <ul style="list-style-type: none"> みんなが楽しく遊ぶためにはどのようにすればいいかを考えて発言している。 <p>＜観察・発言＞</p>
7 決まったことの発表	<ul style="list-style-type: none"> みんなに伝わるように声の大きさや体の向きについて支援する。 	
8 ふり返り	<ul style="list-style-type: none"> 学級活動ノートの項目に沿って自己評価させるようにする。 	
9 先生の話	<ul style="list-style-type: none"> 計画委員や頑張っていた児童を称賛し、次の活動への意欲を高める。 	
10 おわりのことば		

6 事後の活動

日時	児童の活動	指導上の留意点	目指す児童の姿と評価方法
7月19日 (火) 朝の活動	<ul style="list-style-type: none"> 学級会で決まったことを学級会コーナーに掲示する。 	<ul style="list-style-type: none"> ノート記録を生かし、必要な部分を補足掲示する。 	<p>【関心・意欲・態度】</p> <ul style="list-style-type: none"> 友達と協力して、進んで係の準備に取り組んでいる。
7月20日	<ul style="list-style-type: none"> 係の準備 	<ul style="list-style-type: none"> 話合いで決まったことを大切に 	

<p>(水) ~ 7月21日 (木) 朝の活動 休み時間</p>		<p>して実践するよう呼びかける。 ・意欲的に活動している児童や、 友達に協力している児童を紹介し、 意欲が継続するようにする。</p>	<p><観察・準備物> 【思考・判断・実践】 ・学級目標を意識して仲良く助け合いながら活動している。</p>
<p>7月21日 (木) 3校時</p>	<p>・「がんばったね集会」 ・会の終了後、感想等を振り返りカードに記入</p>	<p>・進行は、できるだけ児童に任せる。 ・自分たちの力でよりよい学級生活をつくろうとして頑張ったことを価値付けする。</p>	<p><観察・振り返りカード></p>

議題 がんばったね集会のおにごっこを決めよう

話し合う日 七月一五日(金) 二時間目

提案理由

なつ休み前にみんなのがんばりをしようかいたりなかよくあそんだりしたのしい思い出をつくる「がんばったねしゅう会」をすることになりました。前にみんなであそびのルールを話し合ったとき、休み時間もあまりけんかをしないでなかよくあそべるようになってとてもたのしかったです。それでこの会でも、みんなが話し合ってみんながたのしめるおにごっこができれば、がつきゅう目ひようにある「やさしくえがお」の二まつになれると思っていあんしました。

決まっていること

- ①七月二十一日(木) 三時間目にやる。
- ②場所は体育館
- ③十五分間で二回くらいやる。
- ④さいしよのオニはじゃんけん決めて。

話し合いのめあて

- ・みんなが楽しめるおにごっここのやり方を考えよう。
- ・友だちの話を最後までよく聞いてから、発表しよう。

話し合うこと

- ①なにおににするか。(みんながたのしめるおにごっこを一つ決める)
- ②どのようなふうをすればよいか。(みんながたのしめるくふう)

第五回 いきいき会議

話し合うこと

①なにおににするか。(みんながたのしめる)



みんながたのしめない

- 手つなぎおに
- たすけおに
- ぞんびおに
- しっぽとりおに
- ふやしおに



みんながたのしめる

②どのようなふうをすればよいか。(みんながたのしめるくふう)

- つかまってももんくをいわない。
- やさしくタッチをする。
- きめたことをまもる。
- やさしくこえをかける。
- おわりのあいさつではくしゅをする。うれしい気持ちになるから。

- プログラム
- 一 はじめの言葉
 - 二 がんばったことの発表
 - 三 おにごっこのルールかくにん
 - 四 おにごっこ
 - 五 感想発表
 - 六 おわりの言葉

第5学年梅組 学級活動指導案

指導者 塩谷 貴
H28. 7. 15 (3校時)

1 議題 「5梅パワーアップ計画を立てよう」 <(1)ウ>

2 議題について

(1) 児童の実態 (男子12名, 女子13名, 計25名)

5年生に進級し学級編制が行われたが、本学級の児童は男女の別なく、全体的に仲が良い。明るく元気で、学習活動にも一生懸命に取り組んでいる。またみんなとても活発で、短い時間であっても外遊びや体育館での遊びを積極的にを行う児童が多い。友達のグループはある程度固定化されていても、全体的に一緒になって活動する場面を多く見ることができる。一方で、休み時間の遊び方で意見の相違があったとき、他の人の考え方を受け入れられずにトラブルになったりすることがある。

4年生までの学級活動では、3年生までの学級活動を基本としながら、さらに幅広い多様な議題に対して様々な話し合い活動を行ってきた。また、学級活動の意味や計画委員の役割、会の進め方などを学年・学校全体で共通理解していくことにより話し合いから実践、そして振り返りまでの一連の流れが児童の中にも定着してきている。5年生では、座標軸などの思考ツールを積極的に活用することにより、考える視点の明確化、目的意識の向上を図っている。加えて、発表する児童の固定化や他者の意見との折り合いのつけ方、多様な意見の積極的な交換などについては4年生から続く課題であると感じている。

5年生では、学級目標を常に意識しながら、学級がもっとよくなるにはどんなことをしたらいいのか、ということをも目的として議題集めや話し合い活動、実践を行ってきた。4年生のときに見られた話し合いの中での議題や提案からずれた意見や時間の超過はあまり見られなくなってきたが、前述した課題は依然として未だ解決されていない。今後は、自らの意見を主張することの楽しさや自分と他者との意見の相違を認め、よりよい方向へ進めようとする意識をさらに高めたい。また、発表の根拠や理由を明確にし、それらを常に意識しながら話し合いを進めたり、自らの意見を主張したり互いの意見を尊重し合ったりしながら、よりよい集団決定を行えるようにしていきたい。

(2) 議題選定の理由

5年生に進級してから3か月あまり経過した。委員会活動が始まり、高学年としての意識も大分備わってきたように感じる。新しい環境や活動に対しては非常に積極的な態度が見られるが、4年生までに行ってきた係活動や給食・掃除などの当番活動、学校全体で取り組んできたあいさつ運動については、あまり大きな態度の変化は感じられない。それぞれの活動・運動に対して児童それぞれはまじめに取り組んではいるが、「ここをもっとよくしたい」、「こんな工夫をするともっとよくなる」といった気持ちまでには至っていないように感じる。しかし、学校は6年生を中心とした各学年で構成されており、学年は各学級で、学級は児童一人一人から構成されている。本議題は学級での諸活動の充実、そして学校全体の活性化にも繋がると考える。

本学級の学級目標は、「思いやりいっぱい 信頼し合い 助け合い どんなときも 気持ちを一つに 笑顔であふれる 明るい5梅」である。どの児童もまじめで一生懸命に活動に取り組んでいるが、互いを思いやり、助け合いながら目的に向かって共に進んでいこうとする態度という点においては、児童自身もまだまだ改善の必要があると考えている。そこで、話し合うことは「特に力を入れて取り組む活動は何にするか」、「どんな工夫ができるか」、の2点とした。話し合うこと1では、児童から出された「あいさつ」、「係」、「掃除当番」、「給食当番」等の中で、今よりもよくできそうな活動について考えていく。単に「～はもっとがんばれそう」という漠然とした意見ではなく、提案理由から、考える視点を「相手のことを考えてできる」「夏休み前に取り組める」とし、常に意識しながら考えられるようにしたい。話し合うこと2では、1で決定した活動に対してどのような工夫や改善ができるか話し合っていく。実際に自分たちが取り組んでいくということを念頭に置きながら考えさせたい。

3 第5学年及び第6学年の評価規準

集団活動や生活への 関心・意欲・態度	集団の一員としての 思考・判断・実践	集団活動や生活についての 知識・理解
学級や学校の充実と向上に関心を持ち、計画委員会の活動や話し合いの準備などに積極的に取り組もうとしている。	楽しく豊かな学級や学校の生活をつくるために話し合い、自己の役割や責任、集団としてのよりよい方法などについて考え、判断し、信頼し支え合っている。	よりよい学級生活をつくることの意義や、学級集団としての意見をまとめる話し合い活動の効率的な進め方などについて理解している。

4 事前の活動【計画委員会と学級全員の活動】

日時	児童の活動 計 全 提 計画委員会 学級全員 提案者	指導上の留意点	目指す児童の姿 と評価方法
7月1日 (金) 帰りの会	計 ・議題を選定し、学級の承認を得る。	・議題選定の理由を、学級全員が理解できるように説明の仕方を助言する。	<p>【関心・意欲・態度】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学級目標を実現するために話し合うことを再確認し、議題の意義を感じ取っている。 <p><議題カード・観察></p> <p>【知識・理解】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学級をよりよくするために話し合わないといけないことや、話合いの準備の仕方を理解している。 <p><活動計画></p> <p>【思考・判断・実践】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学級をよりよくするためにどんな工夫ができるのかを考え、判断し、ノートに書いている。 <p><学級活動ノート></p>
7月4日 (月) 長休み 帰りの会	計 ・提案理由を確認する。 全 ・次の議題の承認を得る。 ・役割分担と提案者を知らせる。	<ul style="list-style-type: none"> ・計画委員の提案をもとに全員で議題を確認し、意欲を高める。 ・議題を提案した人の中から、より深い思いや根拠を示した人に提案者を依頼させる。 	
7月5日 (火) 朝自習 ～ 7月7日 (木) 朝自習	計 提 ・提案理由を確認する。 ・話合いのめあてを決める。 ・活動計画を決定して、学級活動ノートを作成する。 ・学級会コーナーに活動計画を掲示する。	<ul style="list-style-type: none"> ・学級全員に提案の趣旨が伝わるような、分かりやすい提案理由になるように助言する。 ・提案者の提案理由に沿って、話合いのめあてを決定する。 ・決まっていることや話し合うこと等を明確にし、話合いの見通しを持たせる。 	
7月8日 (金) 朝自習 昼休み	全 ・学級活動ノートに自分の考えを記入する。 計 提 ・活動計画書を書く。	<ul style="list-style-type: none"> ・条件を共通理解させる。 ・提案理由の大事な言葉や、話合いのめあてを意識しながら考えるように、助言する。 	
7月11日 (月) 長休み 昼休み ～ 7月13日 (水) 昼休み	計 ・全員の学級活動ノートに目を通す。	<ul style="list-style-type: none"> ・司会・副司会は、意見に目を通して一人一人の事前の意見を把握しておくが、必ずしもそれにとらわれなくてもよいことを伝えておく。 ・黒板記録は、ノート記録と協力しながら意見カードを作成し、黒板貼付に備える。 	
7月14日 (木) 帰りの会	全 ・学級活動ノートを受け取り、教師からの言葉や自分の考えを確認する。	<ul style="list-style-type: none"> ・配布前に教師からの励ましの言葉を書き添えておき、話合いに参加する意欲を高める。 ・提案理由や話合いのめあてを再確認しながら、自分の考えを確認しておくよう助言する。 	
7月14日 (木) 放課後	計 ・話合いの進行の仕方を確認する。	・全員の学級活動ノートを確認しながら準備したことをもとに、話合いの見通しをもたせる。	

5 本時の展開

(1) 本時のねらい

○学級をよりよくするために、当番活動や係活動、あいさつ等の中から、特に力を入れて取り組む活動は何にするか、どのような工夫ができるのかを考えるようにする。

(2) 児童の活動計画

第 6 かい学きゅう会 かつどう計画 7月15日(金)3 時間目		
議題	5梅パワーアップ計画を立てよう。	
役わり	し会 () () 黒板記ろく () () ノート記ろく ()	
ていあんりゆう 提案理由	みんなが「相手のことを考えて行動できる」ようになれば、 学級目標にある「思いやりいばり、信頼し合える学級」になれる と考えます。そこで、夏休み前に、力を入れ取り組める活動を決めて、みんな の気持ちを一つにしたいと思ひ、この議題を提案しました。	
めあて	①みんなが相手のことを考えて夏休み前に力を入れて取り組める活動に工夫を ②自分の言葉で話した、おいていこうとする積極的な態度で発表しよう。	
決まっ ていること	①クラスの中でやる活動を考える。 ②パワーアップする活動は一つ。	
話合いのじゅんじよ(時間)	気をつけること	じゅんぴ
1 始めの言葉 2 計画委員のしょうかい 3 議題のかくにん 4 ていあんりゆうや めあてのかくにん 5 きまっていること かくにん 6 話合い ①特に力をいれて とりこむ活動は 何にするか (15分間) ②どんな工夫が できるか。 (15分間) ③係分た人をか んする。 (5分間) 7 決まったことの発表 8 ふりかえり 9 先生の話 10 おわりのことば	みんなに聞こえるように話す。 ふいけはいい話す。 ゆくりはまり話す。 時間をかくにんしはかから進める。 みんながわかるようにまとめる。 みんなが学級目標をいしきて、 発表できるようにする。 学級会がスムーズにすすめられるように 気をつける。 みんなの意見をきいて、まとめるよう にする。 みんなの意見をまとめて一番みんなが がんばれる活動が工夫を決め るようにする。	意見カード (活動) 意見カード (工夫) ふり返り シート

(3) 教師の指導計画

話し合いの順序	指導上の留意点	目指す児童の姿と評価方法
1 はじめのことば 2 役割紹介 3 議題の確認 4 提案理由と話し合いのめあて確認 5 決まっていること確認 6 話し合い ①もっと改ぜんできそうな活動は何か ②活動をよりよくするためにどんな工夫ができるか 7 決まったこと発表 8 振り返り 9 先生の話 10 おわりのことば	<ul style="list-style-type: none"> ・一人一人が、自分のめあてを言えるように指導しておく。 ・提案者の思いを全員が理解し、話し合いの指標となるように指導し、めあてと連動させておく。 ・提案理由やめあてを意識し、取り組む活動は何かを考えていくよう助言する。 ・根拠をはっきりさせて発表させ、聴く側も根拠に注意して聴くようにさせる。 ・自治的活動の範囲を超えそうなときは、必要に応じて助言する。 ・できるだけたくさんの人の考えを引き出すように指名することを助言する。 ・他者の意見からの繋がりを常に意識し、自分の考えをさらに深められるよう適切な指導・助言を行うようにする。 ・自分の考えのみに固執せず、互いの考えに耳を傾けながら、無理なく公平に折り合いをつけさせていく。 ・座標軸に表す意見は、あらかじめ計画委員で検討した結果を提示し、それを全体で検討するようにする。 ・座標軸の4つの部屋はそれぞれどのような意味を持つのかを、テープや項目を色分けし、児童にとって視覚的に理解しやすいようにする。 ・少数意見も大切にし、納得した上で決定につなげていく。 ・自分の反省と共に、友だちの頑張りやよさにも目を向けさせる。 ・提案理由を意識した発言や学級全体を考えた建設的な発言を大いに称賛する。 ・計画委員にねぎらいの言葉をかけ、実践への見通しをもたせながら意欲を高める。 	<p>【思考・判断・実践】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・提案理由を自分の意見の拠りどころとし、取り組む活動と工夫を考え、発表している。 <p><観察・学級活動ノート></p> <ul style="list-style-type: none"> ・計画委員としての役割を自覚し、集団決定のためによりよい方法を考えながら、取り組む活動と工夫について話し合うために協力し合って会を進行している。 <p><観察・活動計画></p>

6 事後の活動

日時	児童の活動	指導上の留意点	目指す児童の姿
----	-------	---------	---------

			と評価方法
7月19日 (火) 朝の会 休み時間 放課後	<ul style="list-style-type: none"> 決まったことを学級会コーナーに掲示する。 	<ul style="list-style-type: none"> ノート記録を生かし，必要な部分を補足掲示する。 	【関心・意欲・態度】 <ul style="list-style-type: none"> 決まったことを守ろうとしたり，実践に進んで取り組もうとしたりしている。 <観察>
7月19日 (火)～ 7月22日 (金) 朝の活動	<ul style="list-style-type: none"> 感想等を振り返りカードに記入する。 	<ul style="list-style-type: none"> 話合いで決まったことを大切にして実践するよう呼びかける。 自分たちの力でよりよい学級生活をつくろうとして頑張ったことを価値付けする。 	【思考・判断・実践】 <ul style="list-style-type: none"> みんなで決めたことを大事にしながら活動している。 <観察・振り返りカード>

板書1 (黒板右側・移動黒板)

<p>話し合うこと</p>	<p>話し合いのめあて</p>	<p>決まっていること</p>	<p>①② クラスの中でやる活動を考える。 パワーアップする活動は、一つ。</p>	<p>議題 五梅。パワーアップ計画を立てよう 七月十五日(金) 三時間目</p> <p>提案理由</p> <p>五年生になり、三か月がすぎ、新しい学級での生活にも慣れ、進んで学級の当番や係の仕事に取り組み、進んで学級できるようなってききました。でも、一人で仕事をしたり、何のために活動するのかをあまり考えず活動していたりする人がいるような気がします。</p> <p>みんなが「相手のことを考えて行動できる」ようになれば、学級目標にある「思いやりいっぱい信頼し合える学級」になれると考えます。そこで、夏休み前に、力を入れて取り組める活動を決め、みんなの気持ちを一つの活動にしたと思います。この議題を提案しました。</p>
---------------	-----------------	-----------------	---	---

板書2 (教室右側・ホワイトボード)

<p>話し合うこと</p>	<p>話し合いのめあて</p>	<p>決まっていること</p>	<p>①特に力を入れて取り組む活動は何にするか ②どんな工夫ができるか</p>
---------------	-----------------	-----------------	---

①特に力を入れて取り組む活動は何にするか

- ・給食の準備や後かたづけ
- ・自問せいそう
- ・係
- ・あいさつ
- ・整理整とん

②どんな工夫ができるか

- ・給食の準備や後かたづけ
- ・当番表で自分や友達の仕事を必ず確かめる。
- ・自分の仕事が終わったら、他の人の仕事を手伝う。
- ・目標の時間を決める。
- ・自問せいそう
- ・声をかけ合ってそうじ場所へ行く。
- ・一人一人よごれているところをさがしてそうじする。
- ・そうじが終わったら、感想を伝え合う。
- ・係
- ・夏休み前に一回集まって、活動を考える。
- ・夏休み前に「係からのお知らせ夏休み号」を出す。
- ・帰りの会で、今取り組んでいることをしようかいする。

あいさつ

- ・笑顔であいさつする。
- ・友達の名前をよんであいさつする。
- ・相手の顔を見ながらあいさつする。
- ・整理整とん
- ・声をかけ合って整理整とんする。
- ・みんなできくからタイムや昼休みにチェックする。
- ・帰る前にみんな整理整とんする。

板書3 (黒板)

①特に力を入れて取り組む活動は何にするか



夏休み前に力を入れて取り組める



相手のことを考えてできる



②どんな工夫ができるか
給食

※①で決定した活動を掲示する。

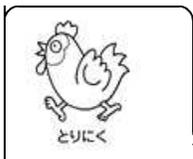
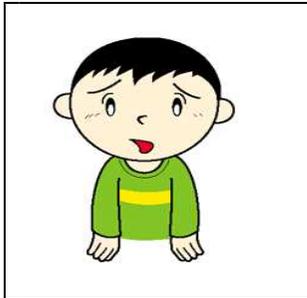
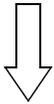
当番表で自分や友達の仕事を必ず確かめる。

自分の仕事が終わったら、他の人の仕事を手伝う。

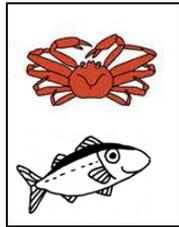
目標の時間を決める。

板書計画

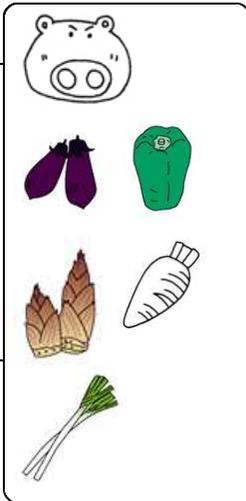
めあて **げんきモリモリ大きくせんをかんがえよう！**



きゅうしょく



←かにしゅうまい



↑マーボーなす



←かきたまスープ

たべものは からだのなかで どんな はたらきを するのかな？



残菜写真

<p>〈じどうしゃ〉 じょうぶな からだをつくる</p>	
<p>〈ガソリン〉 パワーのもと</p>	
<p>〈うんでんしゆ〉 からだのちょうしをよくする</p>	

いろいろな しゅるいの たべものを たべることが だいじ。

きれいなものを たべるための さくせんを かんがえよう。

- ・ひとくちは たべてみる。
- ・じゅんばんに たべてみる。
- ・さいしょに ぎゅうにゅうを のんでみる。
- ・たべるぶんだけ わけて たべてみる。
- ・すきなものと いっしょに たべてみる。
- ・「おいしいよ。」とこえを かける。

じぶんの めあてを きめよう。

これからの きゅうしょくで じぶんが がんばってみたいこと

第1学年松組 学級活動指導案

指導者 築地 歩
H28. 8. 26 (2校時)

1 題材 「なんでも たべよう」 学級活動(2)

キ 食育の観点で踏まえた学校給食と望ましい食習慣の形成

2 題材について

(1) 児童の実態 (男子11名, 女子13名, 計24名)

本学級の児童は、男女とも明るく、休み時間には元気に体を動かし仲良く遊んでいる。入学当初は教師に頼ることが多く、友達とトラブルがあっても上手く話せない児童もいたが、徐々に自分の思いを話せるようになってきている。また、給食当番活動も始まり、時間はかかるものの、進んで自分たちで準備や配膳、後片付けをしている。

これまで、学校生活の過ごし方を中心に「がっこうのやくそく」や「いきかえりのあんぜん」「がっきゅうのめあてをきめよう」等の学級活動を行ってきた。教師が主導で行うことが多かったが、「たのしいきゅうしょくにしよう」という題材では、「自分たちで準備をしたい。」「グループになって食べたい。」という意見も出ており、意欲的に話す姿が見られた。

毎日の給食を楽しみにしており「今日の献立」を聞いてくる児童も多いが、食べる様子を見ると、牛乳を飲まないでいたり、野菜のおかずを手をつけようとせず「残してもいいですか。」と聞いたりする児童も見られる。「嫌いなものも半分は食べよう。」「ごはん、おかず、牛乳…というように順番に食べてみよう。」とその都度話しており、食べてみようとする児童も増えてきてはいるが、食べ物によっては一口も食べられない児童もいるのが実態である。

(2) 題材設定の理由

人が生きるための基本であり、最も身近な「食」。しかし近年「食」に関しては肥満や子どもの生活習慣病の増加など、子どもの心と体に様々な影響を及ぼしている。今までの食生活が各家庭によって差があるなかで、給食を全部食べられる児童もいるが、今まで食べたことのない料理や食材に出会うと、それだけで残してしまう児童もいる。しかし、口にすることが少ない食材や料理を、今の時期に給食を通して少しでも口にすることで、食体験は広がり将来多くの食品を楽しめるようになる。望ましい食習慣を身に付け、心身共に健康な生活を送るためにも、1年生の今の時期から嫌いなものを減らして、何でも食べようとする態度を身に付けさせることが必要であると考えます。

そこで本題材では、事前に給食のアンケートをとり、その結果を掲示することで自分たちの食べ方をいつでも振り返ることができるようにしておく。また、日頃から給食指導において、マナーや作法を教えると共に、食物にはいろいろな栄養があることを話し、バランス良く食べることの大切さを意識させていきたい。

本時では、「げんきくん」を登場させ、なぜバランス良く何でも食べなければいけないのかを、自動車を例えにしながらかかりやすく知らせ、食べ物にはいろいろな働きがあることについて関心をもたせる。好き嫌いをしないことが大切であることは十分に分かっているが、アンケートを振り返ったり給食の残菜の写真を見たりすることで、残菜が多いことや嫌いなものを残しているという実態を把握させたい。そして、「げんきモリモリ」になるためには、嫌いなものでも食べてみるということが大切であることに気付かせ、自分ができるめあてを考えさせたい。

事後の指導では、「なんでもたべよう！げんきモリモリ大きくせん！」の大きくせんカードを配布し、5日間取り組ませることで児童の意欲を高め、実践化を図っていく。元気に生活するためには好き嫌いをなく食べることが大事であることが分かり、何でも食べようとする態度を育てていきたい。

3 第1学年及び第2学年の評価規準

集団活動や生活への 関心・意欲・態度	集団の一員としての 思考・判断・実践	集団活動や生活についての 知識・理解
自己の身の回りの問題に関心を持ち、進んで日常の生活や学習に取り組もうとしている。	学級生活を楽しくするために日常の生活や学習の課題について話し合い、自分に合ったよりよい解決方法などについて考え、判断し、実践している。	学級生活を楽しくすることの大切さ、そのための基本的な生活や学習の仕方などについて理解している。

4 本題材のねらい

食べ物にはいろいろな栄養があることが分かり、自分が苦手なものでも食べようとする意欲を高める。

5 事前の指導

児童の活動	指導上の留意点	目指す児童の姿と評価方法
<ul style="list-style-type: none"> ・ 題材を知る。 ・ 給食に関するアンケート調査をして、自分の問題について考えておく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 問題意識を高めるために、アンケート結果を掲示しておく。 	【関心・意欲・態度】 <ul style="list-style-type: none"> ・ 自分の食事の仕方について考えようとしている。(アンケート調査)

6 本時のねらい

好き嫌いをしないで食べることの大切さが分かり、自分のめあてを考えることができる。

7 本時の展開

	学習活動	指導上の留意点	資料	目指す児童の姿と評価方法
導入	1 「げんきくん」の給食の様子を見て、元気が出ないわけに気付く。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 元気が出ないわけを考えることで、元気が出るためにどうすればよいのかに気づかせ、本時の課題につなげる。 	パネルシ アター 食材のパ ネル	
展開	2 食べ物は体の中でどんな働きをするのかを知る。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 給食はいろいろな食べ物を使い、栄養のバランスを考えて作られていることを知り、これから成長するためには、いろいろな種類の食べ物を食べるのが大切であることを押さえる。 ・ 自動車を例にすることで、食べ物の働きに関心をもたせる。 	自動車の パネル	
	3 アンケートと写真で自分の食べ方を振り返	<ul style="list-style-type: none"> ・ 残菜の写真を見せることで食べずに捨てている量の多 	アンケー ト	

	り課題に気付く。 4 給食で好き嫌いをしない（元気モリモリになる）で、食べるための工夫（さくせん）を考える。	さを実感させる。 ・友達の考えを聞きながら、少しでも食べてみようとする意欲につなげる。	残菜写真	
終末	5 自分のこれからのめあてを決め、「さくせんカード」に記入する。 6 自分のめあてを発表する。 7 教師の話聞く。	・嫌いなものがあつたらどうするのかを具体的に考えるよう助言する。 ・嫌いなものがない場合は、食べ方のめあてでも良いことを伝える。 ・栄養士のメッセージを聞くことで意欲を高める。	さくせんカード メッセージ	【思考・判断・実践】 ・今までの自分を振り返り、好き嫌いをしないで食べるためのめあてを考えている。 (さくせんカード・観察)

8 事後の活動

児童の活動	指導上の留意点	目指す児童の姿と評価方法
・「さくせんカード」に1週間振り返りを記入する。	・給食の時間に変容を観察して、本時の授業を生かした声かけを行う。 ・「さくせんカード」で家庭にもがんばったことを知らせ、「いえのひとから」の欄にコメントをいただき、児童の励みにつなげる。 ・がんばりを認めながら、実践が継続できるように促す。	【思考・判断・実践】 ・自分のめあてを意識し、好き嫌いをしないで食べようとしている。 (カード・観察)

第4学年松組 学級活動指導案

指導者 佐々木 ますみ
H28. 8. 26 (3校時)

1 議題 「給食の準備の工夫を考えよう」 ～ 今やることをしっかりやろう ② ～

2 議題について

(1) 児童の実態 (男子14名, 女子17名, 計31名)

本学級の児童は明るく活発で、男女仲良く友達と元気に遊ぶ姿が多く見られる。子どもらしく素直な反面、中には自己主張の強い児童もあり、互いの考え方や性格をよく理解できないことによるトラブルが時折見られる。

学級活動では、年度当初に学級活動(2)「4年生になって」の中で、一人一人が自分がやらなければいけないことをしっかりやれば、4松がもっとよい学級になると考え、「今やることをしっかりやろう」を学級目標の一つとした。4月からの学級活動(1)では、「係を決めよう」「4松ボールのきまりを考えよう」「熊本にビデオレターを送ろう」を議題として話し合い、よりよい学級作りを目指してきた。話し合い活動では、理由を付けて自分の意見を発表できる児童が、自分の意見に固執し折り合いを付けることが難しい場面も見られ、合体案が出されるまでに時間がかかることもある。また、自分の考えに自信がもてず、うまく発表できない児童もいる。

自分たちの学級生活をよりよくするために、一人一人が工夫を考え、協力して実践できることは何か考えることは、自己主張が強い児童にとっても、異なる意見にも耳を傾け、公平に判断し、折り合いを付けて話し合うよい経験となり、高学年の活動につながっていくと考える。

(2) 議題選定の理由

本議題は、学級目標の実現に向けて、不必要なむだ話をなくしたいという児童の提案によるものである。むだ話が多いのは給食時間、特に準備するときと感じている児童が多い。給食当番がすぐに準備しなかったり、自分の準備が遅くなったりするのは、むだ話をしていることが原因で、むだ話をしないで自分がやることをしっかりやれば、「いただきます」の時間が早くなることに気づいた。

そこで、話し合いの柱を「給食の準備の工夫」とし、速く準備するにはどうすればよいか、解決方法を話し合う。学級全体で心をつにし、学級目標に近づくために自分たちで具体的な解決方法を考えさせたい。そのため、学級活動ノートを書く前に、給食の準備がよくできている学級を見に行き、自分たちと比べたり、できそうなことは何か考えたりする時間を確保した。

話し合いは、「出し合う」段階を事前に行っておき、学級活動ノートに出された意見を計画委員がまとめ、「比べ合う」段階から始める。取り上げられなかった意見やまとめた意見の内容、その意見に込められた思いをしっかりと理解できるように、話し合いの前に説明したり質問し合ったりする。本時では、賛成意見や反対意見を述べ合い、お互いの考えの違いや共通点をはっきりさせるとともに、よりよい工夫を見い出すために話し合いをする。板書にはピラミットチャートを活用し、考えを焦点化したり関連づけたりして、個々の考えを全体の考えとして高めることが実感できるようにしたい。

3 第3学年及び第4学年の評価規準

集団活動や生活への 関心・意欲・態度	集団の一員としての 思考・判断・実践	集団活動や生活についての 知識・理解
学級の生活上の問題に関心を持ち、他の児童と協力して意欲的に集団行動に取り組もうとしている。	楽しい学級生活を作るために話し合い、自己の役割や集団としてよりよい方法などについて考え、判断し、協力し合って実践している。	みんなで楽しい学級生活をつくることの大切さや、学級集団としての意見をまとめる話し合い活動の計画的な進め方などについて理解している。

4 事前の活動【計画委員会と学級全員の活動】

日時	児童の活動 計 計画委員会 全 学級全員 提 提案者	指導上の留意点	目指す児童の姿 と評価方法
7月15日 (金) 朝の会	全 ・自分たちの生活の中から、学級全体で考えたいことを、提案カードに書く。	・学級全体がもっとよくなるために、今どんなことが困っているのか、どんなことを改善すればよいのか、具体的に考えられるように助言する。	【関心・意欲・態度】 ・心をつつにして、給食の準備を速くするために話し合うことを確認し、議題の意義を感じ取っている。 (提案カード・観察)
7月19日 (火) 朝の会	計 ・議題の選定をし、学級の承認を得る。	・提案カードの中から、より必要性のある議題を計画委員が選び、提案をもとに、全員で議題を確認する。	
7月20日 (水) 昼休み	計 提 ・提案理由を確認し、話し合いのめあてを決める。 ・活動計画を決めて、学級活動ノートを作成する。 ・学級会コーナーに活動計画を掲示する。	・提案者の提案理由がうまく伝わるように助言する。 ・決まっていることや話し合うことを明確にして、話し合いの見通しをもたせる。	【知識・理解】 ・心をつつにして、給食の準備を速くするために話し合わなければいけないことや、話し合いの準備の仕方を理解している。 (活動計画)
7月22日 (金) 朝の活動	全 ・学級活動ノートに自分の考えを書く。	・決まっていることを共通理解し、提案理由やめあてを意識しながら考えるよう助言する。	【思考・判断・実践】 ・心をつつにして、給食の準備を速くするためにどんな工夫ができるのかを考え、判断し、学級活動ノートに
8月23日 (火) 朝の活動 放課後	計 ・全員の学級活動ノートに目を通し、活動計画書を書く。 ・学級活動ノートをもとに、意見カードを作成したり、議題設定までの経緯を説明	・司会、副司会は、全員の学級活動ノートに目を通し、一人一人の意見を把握して、活動計画書を作成する。 ・黒板、ノート記録は意見カード	

	する資料を作成したりする。	や資料を作成する。	書いている。 〈学級活動ノート〉
8月24日 (水) 朝の会	<p>計</p> <ul style="list-style-type: none"> 学級活動ノートから出た意見を掲示し、全体に知らせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 話し合いではそれぞれの意見を比べ合うことから始められるように、事前に提案された意見を掲示し、自分の考えをもっておくことを伝える。 取り上げられなかった意見についても、その理由を説明するようにする。 	
8月25日 (木) 朝の活動	<p>全</p> <ul style="list-style-type: none"> 学級活動ノートを受け取り、教師からの言葉や自分の考えを確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> 学級活動ノートに教師からの言葉を書き添えておき、話し合いに参加する意欲を高める。 提案理由や話し合いのめあて、自分の考えを確認しておくよう助言する。 	
8月25日 (木) 放課後	<p>計</p> <ul style="list-style-type: none"> 話し合いの進め方を確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> 活動計画書で話し合いの流れを確認し、話し合いの見通しをもたせる。 	

5 本時の展開

(1) 本時のねらい

○心をつちかして給食の準備を速く進めるために、どのような工夫ができるのかを考えることができる。

(2) 児童の活動計画

4年松組

(2) 児童の活動計画

第4回 学級会 活動計画		8月26日(金) 3 時間目
議題	給食のじゅんびの工夫を考えよう	
役割	司会 () 黒板記録 () 副司会 () ノート記録 ()	
提案理由	4松では給食時間におしゃべりする人が多く、じゅんびにも時間がかかります。おしゃべりをしないでやることをしっかりとやるために、どんな工夫をしたらいいかみんなで考えたいと思ったからです。	
めあて	<ul style="list-style-type: none"> みんなで心を一つにして速くじゅんびする工夫を考えよう。 自分とちがう意見もしっかり聞き理由をつけて話そう。 	
決まっていること	給食じゅんびは当番の分は、じゅんび当番。他は自分でやる。待てる時は言葉を書きする。給食じゅんびの手伝いはしない。	
話し合いの順序(時間)	気をつけること	準備
1 始めの言葉 2 計画委員の紹介 3 議題の確認 4 提案理由やめあての確認 5 決まっていることの確認 6 話し合い ① 給食のじゅんびの工夫(心を一つにして速く)(20分間) ② 係はどうするか(10分間) ③ (分間) 7 決まったことの発表 8 ふりかえり 9 先生の話 10 終わりの言葉	<ul style="list-style-type: none"> 自分のめあてを言てじこしうかひする。理由の大事なことをかくにんしなから発表する。 みんなの意見が出たら、さん成か多い意見を少し上げて分かりやすくする。 友達の意見のよい所をよく聞いて自分の意見を理由をつけて発表しよう。 心を一つにして「速く」できる工夫になるように声をかける。 自分や友達のよかたところや決まった事についてかんはつたいことなどを書く。 	<ul style="list-style-type: none"> いどう 黒板 短豆 びらミット チャット

(3) 教師の指導計画

話し合いの順序	指導上の留意点	目指す児童の姿と評価方法
1 はじめの言葉		

2	計画委員 の自己紹介	・自分の役割についてのめあてを発表させ、役割をしっかり意識させる。	
3	議題の確認		
4	提案理由や めあての確認	・提案理由を確認し、めあてをしっかりと意識しながら話し合えるようにする。	【知識・理解】
5	決まっていること の確認	・話し合いの視点がそれないように、決まっていることを一つ一つ確認する。	・計画委員としての役割を自覚し、計画的な話し合いの仕方を理解している。
6	話し合い ① 給食の準備の工夫 (心を一つにして速くやる工夫) ② どんな係がいるか	・学級活動ノートに記入した児童の案は、いくつかに整理して掲示しておく、提案理由を意識して話し合いができるようにする。 ・発言者が偏らないように助言するとともに、できるだけ多くの児童に指名するようにさせる。 ・自分の考えに固執せず、納得した上で考えを変えるなど、折り合いを付けることも必要であることについて助言する。 ・ピラミットチャートを活用して、児童の考えを焦点化したり関連づけたりして、よりよい考えにまとめていく思考の手助けになるようにする。	【思考・判断・実践】 ・心を一つにして速く準備するための工夫について、自分の考えを発言している。 ・友達の発言について相手の思いを受け止めようとする意識をもって聞いている。 ・友達の意見を参考にして、新たな意見や折衷案について発言している。 (観察・学級活動ノート)
7	決まったことの 発表		
8	話し合いの振り返り	・よかった点や課題について自己評価するとともに、友達のよかった点についても相互評価できるように助言する。	
9	先生の話	・計画委員へのねぎらいの言葉をかけたり、意欲的に参加している児童を賞賛したりして、今後の活動への意欲が高まるような言葉かけをする。	
10	終わりの言葉		

6 事後の活動

日時	児童の活動	指導上の留意点	目指す児童の姿と評価方法
8月26日 (金) 放課後	・決まったことを学級会コーナーに掲示する。	・ノート記録を生かし、分かりやすい言葉で掲示する。	【関心・意欲・態度】 ・決まったことを守り進んで取り組もうとしている。 (観察・振り返りカード)
9月2日 (金) 朝の会	・ふり返りカードに取り組んで思ったことを記録する。	・実践について振り返り、うまくできたことを賞賛する。	

議題

給食のじゅんぴの工夫を考えよう

話し合う日

八月二十六日（金）三時間目

提案理由

四月に学級目標を「今やることをしっかりやろう」に決めました。四松をもっといい学級にするために、自分がやることを考えて、しっかりやりたいと思ったからです。

今こまっているのは、給食のじゅんぴがおそいことです。「いただきます」がおそくなるのは、給食当番がじゅんぴをすぐしないことや、待っている時にむだ話が多いからです。みんなで心を一つにして、速く給食準備するには、どんな工夫をしたらいいか、みんなで話し合いたいと思います。

決まっていること

- 給食当番とじゅんぴ当番は一週間交代にする。
- 給食当番以外は、自分の分は自分で準備する。
- 準備当番はテーブルを出して水をくみ、給食当番の給食準備をする。
- 待っている人は読書をしている。
- 工夫は二つか三つにする。

話し合いのめあて

- ・みんなで心を一つにして、速くじゅんぴするための工夫を考えよう。
- ・自分とちがう意見もしっかり聞き、理由をつけて話そう。

話し合うこと

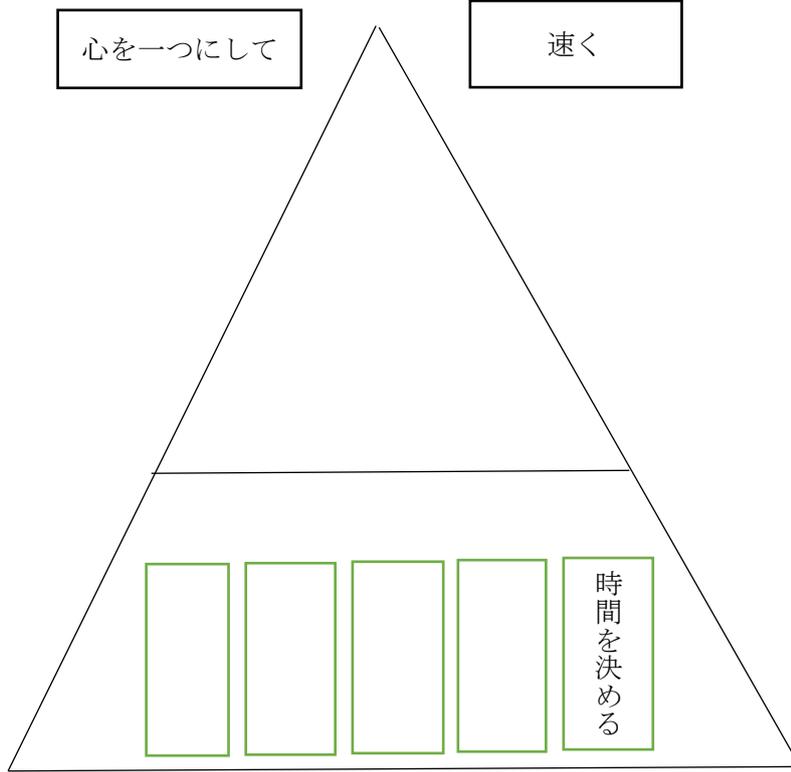
- ① 心を一つにして速くじゅんぴする工夫
- ② どんな係が必要か

- ① 心を一つにして速くじゅんぴする工夫

- ・時間を決める
- ・給食当番は、コンテナから持ってくる物を決めておく
- ・給食当番は、みんなより先にトイレや手洗いに行く
- ・時間を決めて放送まで音楽を鳴らす
- ・そろった号車からならぶ
- ・じゅんぴ当番は初めにならぶ

話し合うこと

① 心を一つにして速くじゅんびをする工夫



② どんな係が必要か

＝ 研究協議会記録 ＝

仙北市立角館小学校

年 月 日	平成28年6月14日（火）
場所・時間	交流ホール 14:10～16:35
授業学級・授業者	3松 齊藤 定則 4梅 田村 道子 6松 伊藤 淳
教科等	学級活動
議題・題材名	3松 学級活動（2） 「言葉づかいを振り返ろう（ウ）」 4梅 学級活動（1） とどけよう熊本へ！ 4梅ビデオレター ～思いやりプロジェクトPART2～ 6松 学級活動（1） さくら満開ステージにクラス全員で出場しよう
指 導 者	3松 北浦教育文化研究所 所長 浦山英一郎 先生 4梅 雄勝出張所 指導主事 船山 育士 先生 6松 南教育事務所 指導主事 佐々木 真 先生 (全体指導) 文部科学省 国立教育政策研究所 教育課程研究センター 研究開発部 教育課程調査官 初等中等教育局 教育課程課 教科調査官 安部 恭子 先生
司 会 者	3松 ー① 司会：築地 ー② 司会：木元 4梅 ー① 司会：小西 ー② 司会：佐々木ま 6松 ー① 司会：竹村 ー② 司会：佐藤洋
記 録 者	記録：大野

<授業者より>

□ 3年松組 齊藤定則先生 「言葉づかいをふりかえろう」

○成果

- ・役割演技が有効だった。問題意識も持たせることができた。
- ・既習していない円グラフを説明なしに使用したが、事前アンケートの提示の仕方が効果的だった。
- ・グループの話し合いに、付箋を活用したが視点が明確だった。普段の学習でも使用しているので慣れてきている。
- ・「ありがとう」の言葉を取り上げたのが良かった→早速使用する子どももいた。

○課題

- ・アンケート結果の活用について
子どもの声をもっと出てくると良かった。文字などの大きさをもっと見やすく。
- ・めあてについて
子どもから出てくるともっと良かった。
- ・発問の工夫について
子ども達が考えにくいものだった。話合いがなかなか進まず、引き出したいことを引き出したかったため、教師誘導の形になった。「相手のことを考えて」については、子ども達に出させたかった。
- ・子ども達の発言について
それぞれの発言をつなげていくために、他の子ども達に心算の言葉を問いかけていけばよかった。
- ・司会への助言について
みんなに話して全体でグループの話し合いの仕方を確認が必要。
- ・付箋を利用したが、他の授業でも使っているので慣れていた。グループでは有効だが、全体では小さくて分からなかった。

- ・目標の書かせ方について
未完成のものが多く、例示が難しかったと感じている。
- ・自分自身の課題について
自分を振り返らせてからの目標設定へ。
- ・ふりかえりについて
項目の確認を。何について振り返るのかの確認も。

□4年梅組 田村道子先生 「とどけよう熊本へ！4梅ビデオレター ～思いやりプロジェクトP ART2～」

○成果

- ・座標軸の表し方や活用について
色分けや表情カードにより、分かりやすくなった。思考が整理されてすっきりと決めることができる。
- ・話形や学級会の進め方について
昨年度からの積み重ねてきたことが、一人一人に身に付いてきている。計画グループもよく機能していた。
- ・理由づけについて
経験を含めた発言…有効的であり、説得力のある発言となる。だからこそ、折り合いをつけられ、掘り下げた意見も納得できる。議題が全員に浸透していたことも理由づけに大きくつながっている。

○課題

- ・ホワイトボードに出されていた意見の取り上げ方
決める前やある程度意見が出てきたら、他に取り上げたいものはないか、計画グループもしくは教師が全体に確認する必要がある。
- ・工夫についての話し合いについて
笑顔、元気などは最低限のルールで、プラスαが工夫（どうすれば、より自分たちの元気が届くか）。
学級会ノートへの記入時に指導が必要（どんなことが工夫なのか）
係の工夫…係に任せる前に全体で話し合う。もしくは、グループに1つずつ割り当てて話し合う。
・同じ意見を書いた人達同士で集まって話し合う。
- ・座標軸の中での合体案の表し方をもう少し分かりやすく
- ・座標軸の2の部屋に入ったものが多いときの決め方
折衷案や合体案を子ども達から出てくるようにするための指導は、これからも必要。

□6年松組 伊藤淳先生 「さくら満開ステージにクラス全員で出場しよう」

○成果

- ・話合いの柱が明確
6年生のやる気とがんばりたい気持ちがマッチした。
- ・新しい思考ツールの活用
素早く話し合いが決まる。
- ・子ども達のがんばり
司会など、計画委員の活躍や話し合いがとてもよくできた。振り返りもどの子どももよかったと書いていた。全員がよくできたと感じている。

○課題

- ・工夫という言葉の捉え方について
子どもの工夫と大人の工夫（中身）の教師と子どもの思考のギャップ。
- ・何をもって「さすが6年生」とするか
6年生だからできる長縄の跳び方が全員同じかどうか。
- ・ツールありきになりがち
理由が限定される→話し合いの苦手な子どもには有利。
- ・教師のまとめどころ
教師にしかできないことをしばってすべき。

<指導助言>

□3年松組 北浦教育文化研究所所長 浦山英一郎 先生

○題材について

実態に即した良い題材だった。児童の実態社会に直結している。

○導入について

- ・アンケートの円グラフ→良い資料だった。良い反面嫌な面もある実態が分かった。

- ・子どものつぶやきを引き出すための提示の仕方
- ・子ども達自身が気づき自分の問題だと気付く工夫
- 役割演技について
 - 話しやすさが出てくる。
 - 何を話させたいのかを明確にする。計画委員ではなく、他の子ども達でもよかった。
- 「みつける」の段階について
 - ・個→グループ→全体と一人一人が考えを持ち、深め全体へつなげることができた。
 - ・形態の工夫
 - 同じ自己評価グループでともに学び合う形態の工夫がよかった。
 - ・先生の意図と子ども達の反応に違いが見受けられた。子ども達の経験を元にした発問の明確化を。
- 板書の工夫について
 - ・1時間の見通しを持つことのできる板書の工夫を。
- 学習活動（2）について
 - 指導したいねらいや目指す子どもの姿から、子どもの実態に合ったハードルの高さを明確にし、指導していきたい。
- 学級目標を意識し、達成することにつなげていく。

4年梅組 雄勝出張所 指導主事 船山 育士 先生

- 子どもの姿から
 - ・特活を土台とした学級経営で、指導の目安を確実にクリアしている。
 - ・子ども達の関心・意欲・態度。特に、仲間と協力しようとする態度。思考判断→集団としてのよりよい姿が見られた。
 - ・知識、理解→確実にクリアしている。
 - ・発表しなかった4人については、担任がその理由も聞いていて、子どものケアも行っている。
 - ・経験に基づいた発言、つなげた発言、うなづきながらの聞き方もよかった。
 - ・話し合いの中でそれぞれの思考が高まり、安心して発言できる雰囲気ができている。
- 折り合いのつけ方について
 - ・合わせる、軽重つけるなど、きちんと身に付いている。
 - ・反対意見には、代案をたてる。
- 思考ツールについて
 - こんな傾向があるというツールであり、決定ではない。思考判断するための知識となる。
- 知識、材料
 - ・提案理由の掘り下げによって出てくる。写真や付箋、家族からの協力、また仲間の発言から得られる。

6松 南教育事務所 指導主事 佐々木 真 先生

- 話し合いのめあての設定について
 - 明確なめあてだった。提案理由の面と技能面の2つから考えられている。
- 説得力のある発表について
 - 経験を生かした話し合い→全員経験の必要性…みんなのことはみんな決めていくという意識
 - 「6年生らしい姿」を子ども達自身が掘り下げながら話していく。さらに、つながった意見が言えるように。
- 学級活動ノートは出さずに、自分の意見を言えるようにする。
- 思考ツールについて
 - ・負の範囲の座標軸…肯定的でよい。
 - ・軸の設定の仕方→めあてと軸が微妙にずれていた。めあてに沿った軸の設定を。
- 話し合うことの工夫について
 - 「発表をもちあげるための工夫」…友情を深めるためとは、つながらないものとなっていた。
- 振り返りについて
 - めあてに沿った話し合いになっていたかを振り返れるように、視点の工夫を。

<講話>

平成28年度教育課程指定校事業 事前研修会

楽しく豊かな学級・学校生活をつくる特別活動の実践

文部科学省初等中等教育局教育課程課 教科調査官

国立教育政策研究所教育課程研究センター研究開発部 教育課程調査官 安部 恭子先生

(全体指導)

1 はじめに

去年に引き続き、研究指定校ということで、研究を進めていただいているが、一段とバージョンアップした角館小学校の研究の様子、子どもたちの様子を見ることが出来た。職員の異動が多かったと聞いたが、この2ヶ月間で研究が高まっていると感じた。

指導講評を、前に3人の先生方に適切にきめ細かにご指導いただいているが、写真を交えながらお話を進めて行ければと思う。教科調査官という立場で来ているので、授業の内容と今、WG等で、どんな話になっているかを紹介したい。

日本式教育が去年の夏から話題になっているが、知識偏重の傾向が強いエジプトが目し、考える力を伸ばそうとしている。

エジプト教育省の視察についての話。東京都内の小学校に登校から下校までの密着して視察を行った。どうしても、給食・部活・清掃等に話題がなりがちだが、子どもたちが自らが自分たちの生活の課題に気づいて協力して、よりよい生活や人間関係をつくるという特別活動の自主的・実践的な取り組みを視察していった。今日の角館小学校の授業を見たときにも、子どもたち自身が自らの生活や学級生活、学校生活を良くするためにがんばっていることが伝わってきた。

2 角館小学校の研究について

研究主題は昨年度から引き続き「自分のよさを積極的に発揮しながら、協力してよりよい生活を創っていかうとする子どもの育成 ～思考力・判断力・実践力を育てる指導と評価の工夫～」ということで、今年度としては、「思考力・判断力・実践力を育てるための話合いの充実や評価の手立て、年間指導計画の見直し、係活動の充実、系統的な指導等についての実践研究を深めていく。・委員会活動の見直しや代表委員会の役割の明確化を行い、児童会活動の活性化を図る。」というように挙げてもらった。

年間指導計画は事前にいただいているが、これは系統的でなければいけない。(2)は学校の実態、季節、子どもの発達の段階等を考慮し、この時期にこの題材を学ぶということがふさわしい題材を設定したものである。

3年での学びを生かして4年での学びがある。学年が上がってくるにつれて、傾斜配分で(1)と(2)の時数が変わってくるが、どこに重点をおき系統的にやっていくか明確になっている年間指導計画はすばらしい。今後もこういった視点で連携を見直し、特に活動内容(1)については、発達の段階に即して、どういうことを話し合うのか。例えば、「工夫」と言うときには、発達の段階や実態によっても違うので「こんな議題の時に、こんな工夫をしたら効果があった」というような実践をあつめて、年々改善し、角館小の実態、子どもたちの意欲、地域の状況にぴったりの内容を設定してもらったらよい。

◇写真を見てのコメント

- ・桜の町の案内人 お礼の手紙 4年生の実践
自己有用感 自尊感情の高揚にかかわることですばらしい。
- ・委員会活動 ネーミングがおもしろい。委員会活動は、学校の仕事を担うという側面もあるが、参画という視点から、子どもたち自身が学校生活をよくするために考えられる活動である。「みなさんのお願い」が更新されていることもよい。
- ・クラブ活動 何のクラブを設定するか、自分の興味関心に合わせて異年齢の子どもたち同士で活動する等、クラブ活動こそ、参画意識を高め非常に力のつく活動、友達のよさに気づく活動である。
- ・委員会ポスター 「トイレをいつもピカピカに使って来てありがとうございます。」というように言い方、きめ細かな手立て、掲示物の活用がよい。
- ・縦割りグループ活動について 単発のイベントになってはいけない。上学年と下学年が、リーダーシップ、おもしろいやり、あこがれなど、双方向で行き来する活動である。
- ・角小ボイス 学校に対して愛着がもてる活動

◇本日の授業から

○3年生へのコメント

- ・学級目標 学校教育目標も意識されていて、子どもたちが大事にされていることを感じる。
- ・イラストへのコメント
- ・話し方の例 マニュアルがあることにより、子どもたちの学びが深まっていく。言語活動の充実～学習のいろいろな場面で活かしていくことが大切。
- ・座席～お互いの顔が見える 題材によっての工夫していくこと。
- ・学級活動の足跡～集団の一員としての高まり、同じ子がいつも出ないような配慮が必要。
- ・係のコーナー 係の振り返りがよい。
- ・学級活動コーナー
- ・えがお会議までの流れ 見通しもてる。学校全体で統一を心がけて欲しい。
- ・提案カードの活用について
- ・授業について
事前アンケートはとても大切で、実態把握や意識を高めることにつながる。
役割演技は学年の発達にそくしてやるのが大切である。
大事なのは、何のためにこの1時間があるのか、今、何を話し合うのか明確にすること。アンケート調査がさらっと行ってしまったことが残念だった。
自己の課題に落とし込むためには、子どもの感想や具体的にどんなことがあるのか、吹き出しや板書で示した方がよい。
グループで話し合うときに大切なことは、今、何を話し合うのか、一人一人に自覚させること。
何の話なのか明確にすること。
子どもたちによって、ふわふわ言葉～気持ちが良くなるような言葉が多かった。
いろいろな子どもと関わられるようなグルーピングがよかった。
一定の期間で終わることなく、時々振り返り、学級活動の実践により、生活の改善やよりよい自分やよりよい生活につながったというように今後指導していくとよい。

○4年生へのコメント

- ・総合的な学習がきっかけとなって、お手紙をいただいたという経緯あるので、学級活動でも良いが、児童会に提案して全校体制でとりくんでもよい。
- ・相手意識が大切～相手校を決める。
- ・提案者～何も見ないで発表できていたことや、子どもたちが自分の言葉で話していたことが、すばらしい。
- ・どんな内容にするか、計画委員段階で、合体できるものは合体し、本時の前に分類整理をしたことはよかった。
- ・座標軸～判断基準の基になるものを立てるのが難しい。何を座標軸の項目にするかは考えていなくて行かなければならない。顔のマークがあることで区分けがよい。
- ・話合いのめあては、技能面にいきやすいが、今回は、技能面と内容面があった。
- ・子どもの反応「いいと思います。」発言、どこまでどう認めていくか学校として検討してもよい。
- ・看板～それぞれのイメージが共通だったか、今後検討する必要あり。話題に上らなかったことも、よさを行かしていく方向で。
- ・I君のような発言のできる子どもが育っているのはすばらしい。言語能力が非常に高い。
- ・話し合うこと2では、キーワードで分かりやすく示されていた。
- ・板書計画～1時間の話合いの流れが見えて、とても良かった。
- ・今後も交流を深めていけるよう に、ビデオレターを単発のイベントで終わらせて欲しくない。
- ・短冊上げ下げ～位置の工夫の必要有り。

○6年生へのコメント

- ・最高学年の自覚を子どもたち一人一人が持っていた。
- ・学級掲示について～子どもたち一人一人の良さを育てている。
- ・技能面 ～説得力のある、相手が納得できるような理由設定
- ・学級活動ノートを机に出さないで話し合えるのではないか。
- ・全員発言 ～さんはどう思いますか？ みんなのことをみんなで決めるのだから、自分の意見をはっきり言えるように、低学年の時からしっかり意識を持たせておくことが大切。
- ・発表を盛り上げるためにどんな工夫をするか。友だちの意見に絡めた意見発表「～さんと同じで」「～さんと似ていて」
- ・教師が挙手して発言の場面は、「司会さん、ちょっと待って」という形で、教師の助言でよかった。
- ・短冊を使うときは、話し合いの過程、1時間の活動の流れが子どもたちが見えるような工夫をする。
- ・話合いの目当てと教師の指導講評があっていた。

3 学級活動の充実

○提案理由の提示の仕方について

提案理由等をより分かりやすくするために、アンケート調査を利用する、キーワードを示すなど、提示の仕方は、工夫がいろいろできるところだと思う。発達に段階に応じてやっていくことが大切である。

○板書の工夫の仕方について

今日の授業でも短冊やいろいろな思考ツールを活用してもらった。子どもたちの思考があちこちに行かないようにフレームを使ったり、ウエービングマップを使う学級もある。

以前にも話したことがあるが、ウエービングマップは研究途上であり、集団決定をどうするか、ここからどう話を広めていくかが、非常に難しい。

今日の授業で、話し合うこと①と②でも使われていたが、議題・内容によっては、①は短冊だけ、②の方で表を使う方がより効果的というように、どんなときに何のために思考ツールを活用するか、その成果は何だったか検証していく必要がある。適切に使うというところ、話し合いは何のためにするのというところの思考が整理されて、よりよい集団決定につながるために思考ツールがあるので、その使い方を工夫していくことが大切だ。

今回、係活動ということで、先生方と一緒にやろうと思ったが、子どもたちの掲示等を見ても、非常に創意工夫して計画し、活動しているのですばらしいと思った。

○当番活動について

当番（ないと困る、円滑な運営のためのもの）と係（なくても良いけど、あると学級の生活が豊かになる、向上発展する～大事なものは創意工夫）には違いがある。

係活動の活性化の工夫として アドバイスカード、ありがとうカード、ふりかえりメモ、係活動発表会などがあり、競争ではなく、互いに共に作っていく… こういったところがとても素晴らしいと思う。角館小学校の当番活動、係活動は、各学級とも、とても良い。

※他校の係活動の紹介。更新される係活動コーナー

○学級活動（2）の充実：自己指導能力の育成

自ら努力目標を設定して、自分をより良くしていくという自己指導能力を育てていくわけだから、大事になるのは、何をここで、この題材では、子どもたちのこういうところを指導するという指導内容の重点化である。今日も事前のアンケート調査等、素晴らしかった。

※他校の紹介 くつをそろえようのポスター

学校・学級に対して呼びかけたものが、実際の生活改善につながっているということ子どもたち自身が自覚すると言うことがとても大切なので、学校としての良さ、強みをますます磨いていけたらよい。子どもたち自身は、ぼくたちが、がんばることによってよりよくなっていく、ああいう上級生のもとで自分もがんばろうという思いが持てるような活動を縦割り活動を中心としてやってもらえばよい。

4 学習指導要領の改訂に向けて

教育課程を学校内に留めず社会と共有していくというところがキーワードとなっていく。アクティブラーニングは、主体的共同的な学びが大切なのではなく、学びの過程が大切である。この過程を大切にして授業改善を図っていく。

今まで、特別活動は「自治的能力（合意形成能力）」・自己指導能力・人間関係形成能力を育んできた。汎用的な力として社会参画、自己実現のための力を養ってきた。特別活動WGにおける話し合いでは、実生活・実社会、各活動の性質を考えた。その中で資質能力として大きく「人間関係を形成する力」「社会に参画する力」「自己を生かす力」の三つで資質能力を考えていくことに話し合っていた。

子どもたち自身が、集団や社会、また個と個の関係、個と集団の関係の中でよりよい生活よりよい人間関係、よりよい自分に向かっていく、そんなところを検討課題として言っている。だから、これからの学習指導要領の改定で、特別活動としてはこの三つがキーワードとなる。

さらに、特別活動は、各教科等の学びを実際に生かす。特別活動の学びを各教科で生かすという往還関係にあるということは、今後大きく打ち出すところである。

幼稚園から高等学校まで、こうした話し合い活動の学びが積み上がっていくようにというところが重視されているところである。総則の中に「学級経営の充実」ということが入ってくるし、キャリア教育の中にも入ってくる。各教科ともこの資質能力論で追尾していている所なので、特別活動の果たす役割は、今後、新しい学習指導要領の中で、大きく変わってくる。大切なのは、特別活動の中で、子どもたち自身が、自分たちの生活をよりよくするために、課題に気づき、自分たちの生活を自分たちの力でよりよくする力をつけていく、そしてよりよい人間関係を作っていくというところ、これはこれからのいろいろな社会の中で生きていく、いろいろな人たちの中で協同的に生きていく中で大切なところなので、ぜひがんばってほしい。

角館小学校のすばらしい研究を、他の研究会の中で発表するとか、いろいろな機会を広めてほしい。今後の研究の深まりを期待して講評とする。

＝ 研究協議会記録 ＝

仙北市立角館小学校

年 月 日	平成28年7月15日（金）
場所・時間	交流ホール 14:50～16:40
授業学級・授業者	2松 小西 美樹子 5梅 塩谷 貴
教科等	学級活動（1）
議題名	2松 がんばったね集会のおにごっこをきめよう 5梅 5梅パワーアップ計画を立てよう
指 導 者	雄勝出張所 指導主事 船山 育士 先生 南教育事務所 指導主事 佐々木 真 先生
司 会 者	草薨盛 大野 齋藤法 田村 三浦浩 柴田
記 録 者	福田

<授業者より>

2年松組 小西美樹子先生 がんばったね集会の「おにごっこ」をきめよう

○成果

- ・思考ツールの使い方が、短冊を動かして使っても良かった。
- ・「みんなが楽しめる」というポイントで話し合わせたのが良かった。

○課題

- ・教師の出番を考えたい。任せるところは子どもに任せ、出るべき所は出る。
- ・つながり意見が言えるように子どもを育てていきたい。

5年梅組 塩谷 貴先生 「5梅パワーアップ計画を立てよう」

○成果

- ・提案理由の中から座標軸を設定したことが良かった（項目の必然性）。
- ・質問を出させたこと。意見の幅を広げるとい点では良かった。

○課題

- ・思考ツールの活用をもっと考えるべきだった。子どもたちの意見が固定化してしまった。
- ・合意形成を図りきれないうちに決定してしまった。比べ切れていない。
- ・①を踏まえての②の話合いだったが、①の話合いが消化不良になってしまった。
- ・計画委員全員で学級会を進めるとい意識をもたせたい。
- ・どういことを話すと話合いの流れに合っているのか、分からずに話している人もいた。

<指導助言>

□2年松組 秋田県教育庁南教育事務所雄勝出張所指導主事 船山育士 先生

○成果

- ・子どもたちの様子、元気のあいさつ、会釈、子どもたちが育っている。仕草から感じる。
- ・学級集団として、良く育っている。
- ・思考力・判断力が育っている。自己の役割を考えて、司会が「訳もいえますか？」などと言っていた。
- ・関連発言が良くできている。つながればもっと良い。
- ・助け鬼、キャラクターのお面についての話合いで、最も思考が働いた。
- ・話型の活用の仕方、声の大きさが、良かった
- ・教師の表情がとても良かった。
- ・理由の赤い紙をよく活用していた。
- ・スケールの方向が良かった。

○課題

- ・教師が板書にも司会にも気を遣っていた。じっくり聞いて対応できるようなシステムづくりが必要なのではないかな。
- ・プログラムなど、決まっていることの確認は教師が行っても良い。

- ・思考ツール，短冊 2，3 に絞った方が良い。話題に上がったら上に上げるなど工夫したい。
- ・マナー的なこと，ルール的なことが入り交じっていた。分類する方法は。
- ・振り返り，目当てと内容，話し合い方 思考・判断 評価にも使える
- ・指導案について，統一感がある。評価基準，目指す子どもの姿などが整合している。児童の実態や議題設定の理由で，どういう視点で書くのか，どんな順番で書くのか，段落はどうするのか。これらも統一した方が良い。
- ・体育でも実践力を育ててほしい。学んだことを教科に生かすことが大事である。特別活動と教科についても往還する関係が重要である。体育にも合意形成がある。「生きる力」を育む小学校保健教育の手引き)

□ 5年梅組 秋田県教育庁南教育事務所指導主事 佐々木 真 先生

○課題

- ・計画委員の目標・抱負を話す場面では，高学年らしい目標・豊富を。「少数意見の話も聞けるように」
- ・提案者は提案理由を書いているところで言わせたい。
- ・話し合いのキーワードである短冊を思考ツールに移動して軸の項目にしていた。「相手のことを考えて」と「夏休み前に力を入れて取り組める」は相容れない。後者を「工夫」の方の軸にしてもいいのでは。
- ・前回，「発言の回数で移動するのでは無く，質的に…」という類いのことを話した。今回，全く動かない思考ツールになってしまった。賛成意見が出たら，思考ツール上に貼るなどして，話題のまな板の上に乗せ，まずこれについて考えよう。また，こういう意見が多いのでこっちに動かしてもいいですか。というような使い方をしてはどうだろう。
- ・時間を意識し，話し合いをまとめていく方向で発言させたい。
- ・教師の「効率的だというのは，相手のことを考えることなのですか」という助言が良かった。もっと言えば，早く準備や後片付けができることは，次の時間の準備や休み時間が増えるということにつながり，結局はみんなのためになるのだと言うことを質問し合うことで分かり合うことが必要である。互いに分かり合うために，こんな質問をしてほしいんだよというのを教師側で教えても良い。
- ・②の段階で，予め給食についての工夫の短冊を出していた。初めて見る人もいると思うので，どんな工夫が出ているのか，見て考える時間をあげた方が良い。
- ・発言しない子も考えていた。藤村かな「少数意見の良さを見つけることをがんばりたい。」

□ 全体的に

□ 佐々木泰宏先生

- ・話し合いのイメージの共通 大切 楽しく 力を入れる 工夫する この言葉の共通理解図られていたか。提案理由の掘り下げ大事
- ・比べ合う段階の話し合い，つきたい力は？ 提案理由を意識して聞いて話し合う 聞くという視点を大事に 他の意見の良いところは，自分の意見に生かせないかな，賛成派でないけれど
- ・わかり合う（比べ合う前に）
- ・意見をつなぐ システムをどう作るか
- ・「付け足して」しゃべらせてから手を上げる。
- ・出し合う段階で思考ツールを活用しては・・・

□ 仙北市教育委員会北浦教育文化研究所 浦山英一郎 先生

- ・子どもたちの成長を感じる。
- ・学習の仕方，身に付いている。
- ・学級目標を意識して，よりよくしていこう。
- ・協議会，熱心に行っている。次の授業に生かしたい 貪欲さ
- ・子どもたちがやる気に満ちている 特活を軸にして子どもたちを育ててきた成果である。
- ・学力も向上するはず。

＝ 研究協議会記録 ＝

仙北市立角館小学校

年 月 日	平成28年 8 月26日 (金)		
場所・時間	交流ホール 14:50～16:40		
授業学級・授業者	1年松組 築地 歩	4年松組	佐々木 ますみ
教科等	学級活動		
議題・題材名	1 松 学級活動 (2) 「なんでも たべよう」 4 松 学級活動 (1) 「給食の準備の工夫を考えよう ～今やることをしっかりやろう②～」		
指 導 者	南教育事務所 総合教育センター 北浦教育文化研究所	指導主事 指導主事 所長	佐々木 真 先生 佐々木 泰宏 先生 浦山英一郎 先生
司 会 者	斉藤定 鈴木健		
記 録 者	田村 柴田		

○ 1 年松組

<授業者より>

- ・このクラスは、今年の 1 梅がやった早寝早起きよりも、好き嫌い、残菜が多いので、給食に焦点を当てた。1 年生の段階では、いろいろな食べ物を食べるべきというのをわかってほしい。今日は意欲をもって食べようとした。→残菜が少なかった。
- ・授業そのものに関して。
話し合いに時間をとりたく、提示するものなどはすべて簡素化した。栄養素は車を元に、3 つのことを知ってほしかった。
- ・アンケート裏に、嫌いな食べ物を食べるときはどうしますかという質問を書いていた。
嫌いなものを好きなものと食べる、一口食べてみる、この 2 つが多かった。
- ・書くのは大変なので、発表の時に理由をつけて発表させるようにした。作戦そのものは簡単な一文。
- ・給食時、三角食べが話題になった。この後がんばってくれるのではないかな。

<研究協議>

視点 1 教材や提示資料はどうだったか

- ・使われているカードが、提示したものが動かされているので、子どもも思考もスムーズ。
アンケートやビッグパットの使用もよい。
- ・視聴覚機器を使うには TT がよい。今回は情報の千葉先生が引き受けてくれた。
- ・残菜の写真も残っていないのでよい。栄養士さんのメッセージも、言葉がすんなり入っていた。
- ・事前の準備が素晴らしい。
アンケートの中身は？
1. 給食 すき？ きらい？ 嫌いはい、量が多い、嫌いなものが多いなど
2. 給食はのこすか？
3. 給食をなぜ残す？ 嫌いだから 時間が足りない
4. すきな食べ物 嫌いな食べ物
嫌いな食べ物はどうしますか？→作戦のヒントになればと思って
- ・アンケートの食材が絵カードが何かで、はたらきのところで動けばより生きたのではないかな。
- ・献立は夏休み中に栄養士さんに相談しに行ったときに。

視点 2 話し合いについてはどうだったか

- ・言葉かけがよい。「一致団結」は子どもにとってはわからない言葉かもしれないが、みんなで考

- えようという気持ちが伝わっている。普段からやっていることだからできる。
- ・ 8 作戦が出ていた。マナー的には目をつぶるはよくないが・・・
→別の時間の活動になってくる。
 - ・ 1 年生ながら 8 つも考えが出てきた。理由をいえる人は言える？との声かけで、理由を引き出すことにつながっていた。
 - ・ 作戦を立てたのに、自分のめあてはつながりがなかった。嫌いなものを食べるために～しますのような書き方だとよりよかったのでは？
 - ・ 嫌いなものがない人は、どうやって食べる？もっといい食べ方って？と思ったが、しゃべらないで食べるが出てきてすごいと思った。
 - ・ 給食にコーンが入っていて、「コーンは何のもと？」という会話があった。
はじめに出てきたげんきくんがしょんぼりしたままだったので、「げんきくんに教えてあげようね。」というような声かけがあってもよかったのでは。
 - ・ げんきくんやじどうしゃなど、自分のこととして考えられる手立てがたくさんあった。

<指導助言> 浦山 英一郎指導主事

- ・ たくさんの工夫がみられた時間だった。
- ・ 5ヶ月間の積み重ねや成長が感じられた。
- ・ 今日の献立を使ったこともよかった。
- ・ 好き嫌いせずなんでも食べようという題材のときは食物アレルギーへの留意も必要。
- ・ 発問や指示が明確だった。また、テンポもよく集中して学習活動に取り組めた。
- ・ 板書も思考のながれがよくわかるようになっていた。
- ・ 授業形態・・・この字から前に集めたり、ペアやグループ、そして一斉にもどるという活動に合わせた形態がとられていた。
- ・ 今後に向けて
 - ①自分のこととしてとらえることを大切にする。
 - ②実態を把握する。どの程度までの改善を目指すのかというめやすを明確にしておく。
(今日の授業であれば、質てきなことなのか、食べる量的なことなのか)
 - ③自分のめあてのハードルの高さをどうするのか。成功感や達成感を高めるためにための高さはどれくらいなのか。自己決定が必要なこと。
- ・ 望ましい食習慣形成を通して、望ましい人間関係をつくれるように、互いのがんばりを喜び合ったり、励まし合ったりできるようにしてほしい。

○4年松組

<授業者より>

- ・ ピラミットチャート・・・たくさんの意見の中から 2～3 に決める。
今、話し合っている短冊を少し上にあげる。
じゅうぶん話し合ってから決めた短冊を上部屋の部屋にあげる
磁石は賛成、反対がよく分かる。子どもは納得している。
- ・ 工夫を 7 つにする過程・・・どれを残すか悩んだ。項目を選ぶのが難しかった。

<研究協議>

短冊・思考ツールについて

- ・ 一つの考えにいろいろな意見をつけたしてよくなったら上にあげるようにしている。
- ・ 視覚的には分かりやすいが、動かし方は難しい。
- ・ 児童の実態に合わせたチャートの使い方が大切だと思う。
- ・ 今回は座標軸にしてもできたかもしれない。
- ・ 理由はできるだけ赤だけで進めていけるとよかった。理由に注目させて、より視点にせまる理由がでたらあげるようにする。
- ・ 類型化させるとよかった。それぞれの意見を見ると、まとまりそうどころがいくつかあった。
はじめに、全体で取り上げるとよかった。
- ・ 理由を板書にのせる必要があるかこれからの課題。ツールは実態に合わせて、使い方や理論にこだわらなくてもよい。
- ・ 目標時間についての意見・・・「焦らない時間にするとよい」という改善策が出されたときどこかに書けるとよかった。書き足すと反対意見もいれられたと感じられた。短冊の中に書き足すとよい。
- ・ 進め方について・・・一つの意見を順番に進めていく中で、折り合いをつける場面はうまれる

のか。方向性がずれていくように思う。6つから2つにしばるのと折り合いを付けるのは違うように思う。

- ・折り合い・・・反対から賛成にかえる個々の折り合いとはまた違う。思考ツールを使って提案理由に近づけていこうとするのが集団の中での折り合いであると思う。視覚で出されると子どもたちも納得する。自分や相手の意見をきいたり話し合ったりするうえで自分の中でも折り合いをつけていると思う。

話し合うこと②について

- ・今日の授業はどのようにするかから話し合っていた。実態をもとにした話し合いができた。
- ・時数に書かれない、裏の時間がある。どれを全体の話し合いの場にのせるのが重要。
- ・話し合うときのよりどころとなるものがもう少しあればよかった。
- ・当番の仕事のスケジュール表を出して、どこを削られるか焦点化してもよかった。
- ・反対意見だけではなく、代案を付け足すと建設的な意見になる。

〈指導助言〉 佐々木 真 指導主事

- ・子どもたちの発言が話し合いの進め方に気をつかっていた。「質問していいか」「反対意見でもいいか」など。話し合うときに整理し、確認しながら行っていく。
- ・よりよくしていこうとする発言・・・反対意見を踏まえてよりよいものにしていこうとする発言がとてよかった。
- ・4松をよりよくしたい話し合いなのに、「～する人がいるからできない」という発言が多かった。ここの部分を解決するアイデアが出てくるともっとよくなる。
- ・否定的な意見が出たときは、視点を意識させるとよい。これが教師の出番。今回は少し多かった。子ども意見に思わず「いいね」と言ってしまうことで、担任の先生の顔色をうかがうようになってしまう。ここは我慢。
- ・時間内決定について、教師が子どもに確認してから。教師からの提案は最終手段。
- ・ツールについて
整理しながら考えていけるツールになっていた。
理由の短冊の貼り方はこれからの課題
三角がもう少し大きくてもよかった。
賛成の理由のみはる方法もある。
ピラミッドにする理由はあったのか。
二次元軸は難しい。今回のように視点が二つあるときはピラミッドを三層にしてもよかった。
一番下が出された意見。二段目が視点の一つ目。一番上が視点の二つ目。
振り返りの共有もしておいたほうがよい。
出された意見を整理する（横の整理 当番の工夫・フロアの工夫・準備当番の工夫の三つに分けてもよかった。）

〈指導助言〉 佐々木泰宏指導主事

- (2) について
 - ・見つけるの段階における活動の工夫
 - ①個々の生活経験や発想の違いをいかす
 - ②グループの意図的編成
 - ③主体的な自己決定できる情報提供
 - ④発達段階に配慮した情報の量
 - ⑤ TT の活用これらの①～⑤については杉田調査官から出されている。
 - ・(キ) の食育は9年間を通して育てるために学校として何時間お扱いにするのか。系統的な指導計画の作成 発達に応じた内容かどうか 食事の重要性など6つの観点をどのようにくむのか。
- (1) について
 - ・提案理由をほりさげることが重要。言葉の共通理解。
 - ・学級活動コーナーの充実を。係活動コーナーの更新（子どもたち同士のやりとりがみえるものにしてほしい）
 - ・よりよい学級会の条件
 - ①あたたかい雰囲気や個がいきる集団になっているか
 - ②自分の言葉で伝える言語能力がみについているか
 - ③手順をよく理解し、効率よく進めているか。
 - ④知恵を合わせて、よりよい集団決定をしているか。

第1学年梅組 学級活動（1）指導案

指導者 森川 千恵子
H28. 11. 11（2校時）

1 議題 「1うめ なかよししゅうかいパート2をひらこう」

2 議題について

(1) 児童の実態（男子11名、女子13名、計24名）

本学級の児童は明るく素直で、男女の区別なく仲良く遊ぶ姿が見られる。しかし市内5つの保育園や幼稚園から入学してきているため、同じ園出身の友達を中心にした人間関係から広がりを見せることができない児童も多い。また、一斉指示では理解が難しいため支援を要する児童もいる。入学から半年余り、係活動や当番活動、学習の中のグループ活動等を通して友達作りを頑張っている途中である。

学級活動においては「6ねんせいとなかよしになろう」「かかりのみなおしをしよう」という議題で取り組んできた。また、前期の終わりには「1うめなかよししゅうかいをひらこう」という議題で話し合い、実践して楽しむことができた。その話し合いでは、遊びの工夫を考えることで、全員が安全に楽しく遊ぶことができるという経験をするのができ、自分達の話し合いが活動をよりよいものにしていく楽しさを実感することができた。

9月に行った学級活動アンケートでは「聴く力」ができていてと感じている児童は62.5%、「話す力」ができていてと感じている児童は66.7%であった。「話し合う力」や「実践力」に関しては全員ができていてと感じている。また、友達と協力して活動しているかという項目では、「学級活動で友達と仲良くなった」「話し合いは難しかったけど、とても楽しかったのもっとやってみたい」という振り返りがあり、興味関心は高く意欲的である。「出し合う」場面においては積極的に自分の考えを伝えようと意欲的であるが、「比べ合う」場面になると集中して聞くことが難しい児童も多く、個別の声かけが必要である。教師の助言を受けながら、司会者や記録などの役割分担の仕方、発表の時の話し方や意見の比べ方、そして一人一人が集中して参加していくことの大切さを一生懸命に学んでいる段階である。

(2) 議題選定の理由

本議題は、夏休み前に6年生と一緒に遊んでもらった経験を生かして行った、「1うめなかよししゅうかいをひらこう」から継続されたものである。自分たちで話し合っただけで楽しい会にしたいという考えの基、今回の議題に選定され、その後全員に諮り決定された。「学級のみんながもっと仲良くなれる楽しい会がしたい」という児童の提案によるものである。

前期の終わりに実践した「1うめなかよししゅうかいをひらこう」の話し合いでは、「何をするか」「どんな工夫をするか」を話し合った。学級目標の「やさしさいっぱい わくわくいっぱい みんなでがんばる1ねんうめくみ」に基づいて「じぶんもたのしい、みんなもたのしい」を合い言葉にして、ゲームが楽しくなるための工夫を考えることができた。実践後には、「ボーリングの点数がわかればもっと楽しくなる」「ペットボトルを10本に増やすとさらにワクワクする」等、ゲームのルールに関することや「友達と仲良くできたので楽しかったが、もっとグループで応援すると良かった」という感想も出され、学級全体としての楽しい雰囲気作りや友達作りの一つになったが、さらに友達と仲良しになるためにはもっと楽しさを具体的にとらえて工夫できることを話し合うことが必要であると感じた。

そこで今回は事前に、パート1の振り返りからどんな状態が楽しいことなのかを考えてから「楽しくなる工夫」を話し合わせるようにする。学級目標と照らし合わせて「やさしさ」「わくわく」「みんなで」というキーワードやパート1での楽しかった振り返りをもとに、より具体的な工夫を考えることができるようにしていきたい。話し合いの過程や思考を可視化して考えを整理したり分類したりできるように笑顔マークのスケールや短冊、磁石などを効果的に使い、話し合いの焦点化を目指したい。発言する時は、提案理由のポイントや学級目標を根拠にした理由に基づいた意見を述べるができるように促し、聞き手にも理由をじっくり聞くように促しながら決定に向かうことができるようにしたい。「お楽しみ会」を自分たちで作りに上げていくワクワク感を引き出しながら自分や友達を理解し合い、学級みんなが寄り添ってじっくり話したり聞いたりすることができるような心を育てていきたい。

3 第1学年及び第2学年の評価規準

集団活動や生活への 関心・意欲・態度	集団の一員としての 思考・判断・実践	集団活動や生活についての 知識・理解
学級の身の回りの問題に関心を持ち、他の児童と協力して進んで集団活動に取り組もうとしている。	学校生活を楽しくするために話し合い、自己の役割や集団としてのよりよい方法などについて考え、判断し、仲良く助け合って実践している。	みんなで学級生活を楽しくすることの大切さや、学級集団としての意見をまとめる話し合い活動の基本的な進め方などについて理解している。

4 事前の活動

【計画委員会と学級全員の活動】

日時	児童の活動 計画委員会 全学級全員	指導上の留意点	目指す児童の姿 と評価方法
10月24日(月) 朝の会	計 ・議題を選定する。 (提案された議題) ①「なかよししゅうかい パート2をひらこう」 ②「あきまつりをしよう」	・選定した議題について全員に知らせ、承認を得る。	【関心・意欲・態度】 議題に関心を持ち話し合いの準備に進んで取り組もうとしている。 <議題カード・学級活動ノート・観察> 【知識・理解】 話し合い活動の準備の仕方や基本的な進め方を理解している。 <学級活動ノート> <活動計画書>
10月25日(火) 帰りの会	計 ・議題の提案をし、学級全員の了承を得る。 全 ・議題を決定する。	・計画委員会の提案を基に全員で決定する。	
10月27日(木) 休み時間 ～ 10月31日(月) 朝の活動	計 ・学級会の活動計画を立て、学級活動ノートを作成する。 (話し合いのめあて・話し合うことでの決定)	・学級目標や提案理由を意識しためあてを考えるように助言する。 ・パート1の活動を生かして話し合うことを決めるように助言する。	
11月1日(火) 朝の活動	計 ・学級活動コーナーに活動計画を掲示して話し合う内容を伝える。	・決まっていることと話し合うことを確認して、話し合いの見通しをもたせる。 ・自分の考えをまとめておくことを確認する。	
11月2日(水) 朝の活動	全 ・学級活動ノートに自分の意見を書く。	・書く内容がぶれないように、決まっていることや、話し合うことを確認して、理由をしっかりと考えて書くように助言する。	

11月4日(金) 朝の活動	計 ・全員の学級活動ノートに目を通す。	<ul style="list-style-type: none"> ・全員の学級活動ノートを司会や副司会と一緒に確認し、一人一人の意見を把握できるようにする。 ・めあてに沿った話し合いができるように活動計画書を書くように助言したり一緒に確認する。 ・黒板、ノート書記は黒板貼り付けに備えて意見カードを作成できるように、カードに書く意見を一緒に確認する。
11月7日(月) 休み時間	計 ・学級活動ノートから出た意見を掲示しておく。	<ul style="list-style-type: none"> ・話し合いでは比べ合いからスタートできるように、掲示された意見についての考えをもっておくように助言する。
11月8日(火) 帰りの会	全 ・学級活動ノートを受け取り、教師からの言葉や自分の考えを確認する。	<ul style="list-style-type: none"> ・励ましの言葉を書き添えながら配布し、話し合いへ参加する意欲を高める。 ・全員で話し合いのめあてや話し合うこと、自分の考えを再度確認する。
11月9日(水) 朝の活動	計 ・話し合いの進め方を確認する。 ・板書の計画を立てる。	<ul style="list-style-type: none"> ・話し合いの流れに沿って、司会や副司会と一緒に進行の言葉や順番を確認する。 ・予想される意見を確認して書記と一緒に短冊を準備する。

5 本時の展開

(1) 本時のねらい

みんながもっと仲良くなれるような集会の計画を考えることができるようにする。

(3) 教師の指導計画

話合いの順序	指導上の留意点	目指す児童の姿と評価方法
<p>1 始めの言葉</p> <p>2 計画委員の自己紹介</p> <p>3 議題の確認</p> <p>4 提案理由やめあて、決まっていることの確認</p> <p>5 話合い</p> <p>①どんな遊びをするか。</p> <p>②みんながもっと仲良くなれる工夫。</p> <p>③係はどうするか。</p> <p>6 決まったことの発表</p> <p>7 話合いの振り返り</p> <p>8 先生の話</p> <p>9 終わりの言葉</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・一人一人が、自分のめあてを言えるように指導しておく。 ・提案理由の中の大事なことばをカードで提示し、話合いの視点を意識して参加できるようにする。 ・「1梅 なかよし集会」のプログラムを掲示し、議題への意欲を高める。 ・計画委員用の活動計画表を準備し、司会や書記に寄り添って進行や掲示の助言や補足をする。 ・パート1の振り返りを掲示し、振り返りを生かした発言ができるようにする。 ・事前に準備しておいた短冊を活用し、進行と板書がスムーズに進むようにする。 ・賛成意見やつなぐ意見から出し合うように司会に助言する。 ・話合いが混乱しないように、提案理由を意識し、めあてに沿った発言を称賛して意識付けを図る。 ・語彙が少なかったり説明が上手くできなかったりして意見が伝わりにくいときは助言をする。 ・笑顔マークに短冊を移動する際の必要な助言をする。 ・意見が出ない時や折り合いをつけるのが難しい時は相談タイムを取り入れ、ペアで意見交換するように促す。 ・少数意見も大切にして、全員が納得した上で決定できるように助言する。 ・係については計画委員からの原案を示し、全員で確認する。 ・みんなに伝わるように声の大きさや体の向きについて支援する。 ・話合いのめあてに対する振り返りや友達から学んだことについて記入するように助言する。 ・学級全体のことを考えた意見や計画委員の頑張りを称賛し、実践への見通しをもたせながら次の活動への意欲を高める。 	<p>【関心・意欲・態度】 議題に関心をもち、最後まで友達の見解に耳を傾けて話し合おうとしている。 (観察・発言・学級活動ノート)</p> <p>【思考・判断・実践】 みんなが仲良く遊ぶためにはどのようにすればいいかを考えて発言している。 (観察・発言)</p>

6 事後の活動

日時	児童の活動	指導上の留意点	目指す児童の姿と評価方法
11月14日(月) 朝の活動	<ul style="list-style-type: none"> 学級会で決まったことを学級活動コーナーに掲示する 係の役割分担をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ノート記録を生かして、必要な部分を補足して掲示する。 	<p>【関心・意欲・態度】 決定したことについて、進んで準備や計画に取り組もうとしている。 〈観察・準備物〉</p> <p>【思考・判断・実践】 決定したことや役割を考え、仲良く実践している。 〈観察・振り返りカード〉</p>
11月15日(火) ～ 11月16日(水) 朝の活動 休み時間	<ul style="list-style-type: none"> 係の準備 	<ul style="list-style-type: none"> 実践に向けて、話合いで決まったことを一人一人が意識して準備するように、声をかける。 友達と協力して意欲的に活動している児童を称賛し、活動のめあてを考えた行動を高めていくようにする。 	
11月17日(木) 3時間目	<ul style="list-style-type: none"> 「1 うめ なかよし しゅうかいパート2」 会の終了以後、感想等を振り返りカードに記入する。 	<ul style="list-style-type: none"> 必要に応じて助言するが、進行をできるだけ児童に任せ、自分達で進めていく意識付けを図る。 学級会の話合いを生かした取組や工夫ができたかについて書くことを助言する。 全員で協力して頑張ったことを価値付ける。 	

議題

一うめ なかよししゅうかいパート2を
ひらこう

話し合う日

十一月一日(金)二じかんめ

提案理由

まえになかよししゅうかいをやった
とき、いままであそびなかつたともだ
ちともたのしくあそぶことができまし
た。パート2をやってみんながたのし
めるしゅうかいができれば、クラス
めあて「やさしさいっばい わくわく
いっばい みんなでがんばるーねんう
めくみ」になって、みんながもつとな
がよくなれるとおもい、ていあんしま
した。

決まっていること

- ①十一月十七日(木)三じかんめにやる。
- ②ばしょはこうりゅうホール
- ③あそびを二つきめる。

話合いのめあて

○みんながもつとなかよくなれるあそびとくふうをかんがえよう。
○ともだちのはなしをよくきき、さいごまではつきりはなそう。

話し合うこと

①どんなあそびをするか

- なんでもバスケツト
- いすとり
- だるまさんがころんだ
- ボーリング
- たからさがし



もっとなかよくなれる

②みんながもつとなかよくなれるくふう

マナー

- ふわふわことばをつかう。
- はくしゅする。
- にこにこえがおであそぶ。

ルール

- みんなができるもんだいにする。
- ともだちのことをかんがえてもんだいをだす。
- ペアでゲームをする。
- たおせなかつたときは、つぎのひとが
たおしてあげる。

③かかりはどうするか

- しかい
- あいさつ
- おんがく
- やくそく

9 : 4 5

9 : 3 0

9 : 2 0

一うめ なかよし
しゅうかいパート2
プログラム

- ①はじめのことば
- ②うた
- ③やくそく
- ④みんなであそぼう
- ⑤かんそう
はっぴよう
- ⑥せんせいの
おはなし
- ⑦おわりのことば

第3学年竹組 学級活動（2）指導案

指導者 T1 学級担任 木元 光子
T2 栄養教諭 田村 香寿恵
H28. 11. 11（2校時）

1 題材 「バランスよく食べよう」

〈キ 食育の観点を踏まえた学校給食と望ましい食習慣の形成〉

2 題材について

(1) 児童の実態（男子11名，女子13名，計24名）

本学級は，言動に裏表がなく明るく素直な児童が多い。休み時間には，活発に体を動かして遊んでおり，3校時には「おなかへった」「給食早く食べたい」等の声が多数聞かれる。9月の1ヶ月間に給食の状況を調べたところ，毎日完食した児童は5人，ほぼ完食だった児童は4人，毎日残した児童は5人であった。併せて食生活も調査したところ，児童は苦いものやにおいのきつい食べ物が苦手であり，それだけで食事が完結するものを好むことがわかった。給食についてはほとんど完食していると自覚している児童が多いが，自分の食べ方について自信をもって「よい」と言える児童は少なく，「バランスよく食べる」ことについてはほとんど意識していないことがはっきりわかる結果となった。

夏休み前に行った「言葉づかいをふりかえろう」では，実践目標を決め一週間取り組んだ。すでに自分ではできているから今のままでよいと思ってしまう児童がいたことや，ほとんど頑張らなくてもできてしまう目標を立てる児童が見られたが，期間中は自分の目標を意識して言葉を選んで話すことができた。

このような実態をふまえ，児童が自分の状況を正しく把握し，より強く課題を意識し改善の必要性を感じることができるようにすること，自分に合った，しかも少し努力をして達成できる目標を設定させることが課題であり，目指す方向であるといえる。

(2) 題材設定の理由

児童の身の回りには食べ物があふれ，食べたいときにいつでも食べたい物を食べることができる環境がある一方で，家庭の事情により朝ご飯を食べることができなかつたり，インスタント食品やコンビニエンスストアなどで簡単に手に入る食品で食事を済ませてしまったりする児童も少なくない。この題材は望ましい食習慣の育成の一つとして年間指導計画に位置づけられているものであり，学校給食を通して自分の食事の仕方を振り返り，実践化していくことができる題材である。様々な食材をバランスよく食べることのよさを実感し，実践に生かせるようにしていきたい。

児童はこれまでの学級活動の中で，朝ご飯の大切さ等について学習し「元気に大きくなるためには好き嫌いなく食べることが大切である」ということは感覚として理解している。しかし，全部食べてさえいれば大丈夫だと思ったり，おかわりまでしているからさらに安心だと思ったりするなど，食べる量や食品のバランス，食品が体の中でどんな働きをするのか等については，ほとんど意識していない。この状況をふまえ，本時は給食の献立を教材として使用しながら，栄養に関する正しい知識をもたせ，健康な心身を育むために，また自分の健康を管理するために，黄・赤・緑の3つの食品群を意識しながらバランスよく食べていこうとする児童の育成をはかりたい。そのために栄養教諭から専門的な立場で3つの働きについて説明してもらい，バランスがよいというのはどういうことなのかを一緒に考え理解できるようにしたい。

まず自分の食べ方の傾向を知るために，給食をどのように食べたかを一週間「ぱくぱくカード」に記録し色分けをしておく。本時ではそれを見て，自分の問題点を客観的に見つけられるようにしたい。全体で一例を見て，どのように食べていくとよいか考え意見を出し合ったのち，自分の目標を決定していけるようにする。単に「毎日完食したい」とするのではなく，これから自分はどういう食べ方をしていきたいのか考えていけるようにしたい。

3 第3学年及び第4学年の評価規準

集団活動や生活への 関心・意欲・態度	集団の一員としての 思考・判断・実践	集団活動や生活についての 知識・理解
自己の生活上の問題に関心をもち、意欲的に日常生活や学習に取り組もうとしている。	楽しい学級生活をつくるために、日常生活や学習の課題について話し合い、自分に合ったよりよい解決方法などについて考え、判断し、実践している。	楽しい学級生活をつくることの大切さ、そのためのよりよい生活や学習の仕方などについて理解している。

4 事前の指導

児童の活動	指導上の留意点	目指す児童の姿と評価方法
<ul style="list-style-type: none"> 「食生活」に関するアンケートに答える。 ぱくぱくカードに記録する。 	<ul style="list-style-type: none"> 毎日を振り返って、残すのはどんな食品か、なぜ残すのか、何色の食品を食べているかなどについて関心をもてるようにする。 	【関心・意欲・態度】 <ul style="list-style-type: none"> 苦手な食品や食べ物を残す理由や何色の食品かについて考えている。 (アンケート・ぱくぱくカード)

5 本時のねらい

食品は大きく3群に分かれることを理解し、バランスを考えた食べ方ができるようにする。

6 本時の展開

	学習活動	指導上の留意点		資料	目指す児童の姿と評価方法
		T1(学級担任)	T2(栄養教諭)		
導入	1 赤黄緑のバランスが悪い例を見て、どこが悪いかが分かる。 2 自分の食べ方を振り返り、気がついたことを発表し合う。 <ul style="list-style-type: none"> 好きな物ばかり食べてしまう。 苦手な物は食べない。 時間がなくて食べられない。 	<ul style="list-style-type: none"> 資料の提示などによって問題の焦点化を図る。 「ぱくぱくカード」から、自分の食べ方の課題をつかむようにさせる。 		<ul style="list-style-type: none"> 給食の写真 ぱくぱくカード 	【知識・理解】 <ul style="list-style-type: none"> 赤黄緑の働きやそれぞれの食品をバランスよく食べることの大切さがわかる。 (ぱくもりカード・観察)
展開	3 どのような食べ方をするとよいか考える。 4 「バランスよく食べる」ことについて知る。		<ul style="list-style-type: none"> 児童がより強く課題を意識し改善の必要性を感じることができるよう、赤黄緑の食品の働きについて資料提示を工夫する。 		

	5 バランスよく食べるにはどうすればよいか全体で話し合う。	・ペアで話し合ったことを、全体に示し多様な考えを共有できるようにする。	・解決方法について補足説明をしたり、児童から出てこなかった方法についてアドバイスしたりする。	・食品分類表	【思考・判断・実践】 ・友達の意見を参考にしながら、バランスよく食べるために自分に合った具体的な目標を考えている。 (ぱくもりカード・観察)
終末	6 自分の食べ方の目標を決める。 7 自分が頑張ることを発表し合う。 8 先生の話聞く。	・自分の課題に合った目標を決められるように机間指導をして助言する。 ・これからの実践について励まし合えるようにする。		・ぱくもりカード	

7 事後の活動

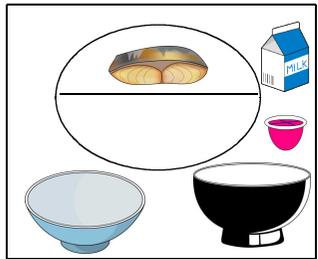
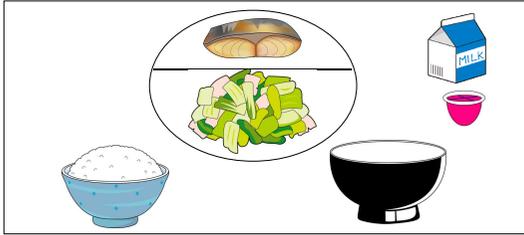
児童の活動	指導上の留意点	目指す児童の姿と評価方法
・実践カード（ぱくもりカード）に一週間振り返りを記入する。	<ul style="list-style-type: none"> ・帰りの会で振り返りの時間を設け、お互いのがんばりを認め励まし合いながら、実践意欲の継続化を図る。 ・学年便りなどで知らせるとともに、家族のコメントをもらうことで家庭と連携し、取組について日常生活での意識化・実践化を図る。 	【思考・判断・実践】 ・自分に合った目標に向かって進んで実践している。 (ぱくもりカード・観察)

(補足資料)

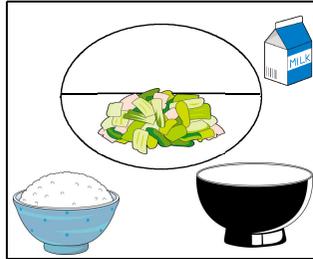
質問内容	人数 理由など
①給食の時間は楽しみですか？ はい 2 3 いいえ 1	おいしいものや好きなものが出るから(7) 献立が楽しみだから(7) おなかが減るから(4) みんなと楽しく食べられるから(3) 献立が毎日変わるから
②苦手な食べ物がありますか？ いいえ 5 はい 1 9	ゴーヤ(9) なす(7) ピーマン(6) きのこと(4) トマト(2) 納豆(2) 苦い 変な食感 においが嫌だ
③給食の好きなメニューは？(複数回答)	カレーライス(11) デザート(9) ラーメン(6) うどん(4) 肉類(4)
④給食は残さず食べていますか？	毎日残さず食べている(5) 時々残すが、ほとんど残さず食べている(15) 特定のもは残すが、他は食べている(2) 毎日残してしまう(2)
⑤自分の食べ方をどう思いますか？	ほとんど完食しているのでとてもよい(7) 三角食べをしたり嫌いなものががんばって食べたりしているのでよい(3) 少しだけ残してしまうのでそれを直したい(7) 残しているのでよくない(3) 三角食べじゃないからだめだ(2)
⑥残さず食べた方がよいのはなぜだと思いますか？	大きくなるから(11) 残すと給食センターの人に悪いから(4) 健康になるから(2) もったいないから(2) 栄養がたくさんとれるから(2) 調子がよくなるから 丈夫になるから 力がつくから 体のつくりがよくなるから
⑦「バランスよく食べる」とはどういうことだと思いますか？	三角食べをすること(4) いろいろな栄養をとること(2) 肉も野菜も食べる 食べ過ぎない 分けて食べる いろいろなものを食べる よくかんで食べる お菓子だけでなく栄養のあるものを食べる わからない(11)
⑧「バランスよく食べる」とどんなよいことがあると思いますか？	健康になる 病気になる(8) 成長する 背が伸びる(8) やせる(2) 美人になる 頭が働く 便秘になりにくい

めあて **よい食べ方をするにはどうすればよいか考えよう！**

この食べ方でだいじょうぶ？



- 魚を残しているから赤が少ない。
- ごはんの黄は大丈夫。



- 野菜の緑がほとんどない。
- 汁で少し緑がとれるかも。
- ごはんを残しているから黄が少ない。

自分の食べ方はどうかな？

- 黄色が多め
- 緑がたりない
- **3色**きちんと食べていると思うけど…
- 赤が足りない日がある

3色の食べ物は、体の中でどんなはたらきをするのかな？

*移動黒板へ

(移動黒板)
* 1ヶ月間で給食に出た食材(カード)を3色に分類して貼っておく。

黄のなかま

赤のなかま

緑のなかま

□
□
□

□	□
□	
□	

□	□
□	□
□	

力のもとになる

ほねを作る

おなかをそうじする

頭のはたらきをよくする

きん肉を作る

病気になりにくい

よい食べ方をしよう！そのために…

□	□	□
□	□	□
□	□	□
□	□	□

自分の食べ方の目標を決めよう。

- 苦手なものも、一口は食べるようにしたい。
- 家でも何色かを考えて食べたい。
- けんこうな体になるために、3色を考えて食べたい。

第2学年梅組 学級活動（1）指導案

指導者 伊藤 範子
H28. 11. 11（3校時）

1 議題 「2梅 なかよしボールしゅう会をしよう」

2 議題について

(1) 児童の実態（男子11名、女子12名、計23名）

本学級の児童は、明るく素直で、男女の仲もよい。休み時間には、友達と元気いっぱい遊んでいるが、自分の思いをうまく伝えることが苦手な児童や、相手の気持ちを考えることができなかつたり些細なことでも譲り合えなかつたりする児童がおり、トラブルになることもある。

学級活動については、1年生のときに学級活動の意味や計画委員の役割、話合いの進め方などについて共通理解を図り、輪番制で計画委員を経験したり、学級集会を実践したりしてきた。みんなで活動することの楽しさや達成感を味わい、学級活動はみんなで作り上げていく楽しい時間であることや、学校生活を豊かにする思いを実現できる時間であることを実感してきている。2年生になってからは、学級目標を念頭に置いて「学級が楽しくなる」「みんなが仲良くなる」ことを意識した議題を取り上げて話し合い、実践を重ねてきた。「係を決めよう」「あいさつうんどうをがんばろう」の議題で自分たちができることを話し合い、実行してきた。また、「2梅まんかいステージをしよう」「がんばったねしゅう会をしよう」「みささんようこそしゅう会をしよう」「1年生となかよくあそぼう」などの議題で、みんなで楽しめることに取り組んできた。話合い活動においては、これまでの経験から、教師の手助けを借りながらも少しずつ自分たちで話合いを進めていくことができるようになってきた。笑顔マークを示したスケールを取り入れ、視覚的に確かめながら、よりよい意見にまとめようとする意欲が高まってきた。

5月に行った学級活動についての児童の自己評価では、「仲良く助け合い、学級生活を楽しくしていますか」という実践に関する項目は82.6%の児童が肯定的だったのに対して、「友達の話最後まで聞いていますか」という項目では肯定的な児童は62.3%であった。自分の意見を発表しようと意欲的な児童が多い反面、理由をよく考えずに安易に友達の意見に同調してしまうこともあった。そこで、友達の意見や理由をしっかりと聞いて自分の考えを発表することを意識づけ、学級会を積み重ねたことにより、9月の自己評価では、「聞くこと」が83.3%、「話合い」が84.7%に上昇した。一方で、自分の考えに自信がもてなかつたり、誰かが意見を出してくれることに任せたりして発表に消極的な児童もいる。話合い活動を通して、意見をつなげて話し合うことや、話合いをまとめていく力をさらに高めていきたい。そして、よいところを認める活動や決めたことをみんなで実践する活動を通して、「自分もよくて、みんなもよい」ことを考えて実行できるようにしていきたい。

(2) 議題選定の理由

本議題は、これまで行った学級集会活動が楽しかったので、後期にもみんなで楽しめる遊びをしてもっとなかよしの2梅にしたいという児童の思いから提案されたものである。これまでの学級集会活動では、おにごっこが中心で、スポーツ的な活動は経験が少ないが、体育の時間や集会委員会のミニ集会でさまざまなボール遊びを経験し、広い場所で学級のみんなでいろいろなボール遊びをして楽しみたいという思いが高まっている。また、応援したり声を掛け合ったりして、チームの友達と活動する楽しさも感じている。チームの友達と協力し合って活動することで「えがおでなかよくたすけあい げんきにがんばるいきいき2梅」という学級目標に近づくことができるという多くの児童の思いから本議題が選定された。

他に「2梅まんかいステージパート2をしよう」の提案もあったが、計画委員会において「みんなで楽しめる集会をして、もっと友達と協力して活動することや思い出を増やしてから、まんかいステージをした方が楽しくできる」という考えの基、今回の議題に選定され、その後、全員に諮り決定された。

本時は、自分の意見を出し合うだけでなく、理由に着目して自分の意見と比較しながら考えるよう促し、つなげる発言ができるようにしていきたい。「どんなボール遊びをするか」の話合いでは、話合いのめあてを意識した発言をもとに短冊を上下させたり、笑顔マークに近付けたりしながら、視覚的によりよい意見に気付かせていく。みんなでやって楽しかった経験やこれまでの振り返りをもとに、みんなで楽しめるボール遊びについて考えさせていきたい。苦手な人も楽しめること、チームで助け合って活

動できること等、みんなのことを考えた発言を引き出したい。「チームのみんなで楽しむための工夫」についての話し合いでは、学級目標にある「なかよくたすけ合う」「元気ががんばる」のキーワードをもとにして具体的な工夫を考えるようにしていきたい。磁石や、理由を書いた短冊を効果的に活用し、話し合いの焦点化を図る。話題を確認しながら丁寧に話し合いを進め、みんなが納得して合意に向かっていくことができるようにしたい。

本議題は、自分たちで決めたことを自分たちで実践するよさや満足感を味わうことができると考える。話し合い活動を通して、意見を出し合い、それぞれの思いをつなげてよりよい考えにまとめていくことができるようにしていきたい。そして、学級目標に向かって友達と一緒に仲良く活動していこうという意欲を高めていきたい。

3 第1学年及び第2学年の評価規準

集団活動や生活への 関心・意欲・態度	集団の一員としての 思考・判断・実践	集団活動や生活についての 知識・理解
学級の身の回りの問題に関心を持ち、他の児童と協力して進んで集団活動に取り組もうとしている。	学級生活を楽しくするために話し合い、自己の役割や集団としてのよりよい方法などについて考え、判断し、仲良く助け合って実践している。	みんなで学級生活を楽しくすることの大切さや、学級集団としての意見をまとめる話し合い活動の基本的な進め方などについて理解している。

4 事前の活動

【計画委員会と学級全員の活動】

日時	児童の活動 計 計画委員会 全 学級全員	指導上の留意点	目指す児童の姿 と評価方法
10月24日(月) 休み時間	計 ・議題を選定する。 (提案された議題) ①「ボール遊びがしたい」 ②「2梅まんかいステージをしたい」	<ul style="list-style-type: none"> 各提案の扱いを明らかにし、提案者に伝えられるようにする。 選定した議題について、全員に知らせ、承認を得る。 	【関心・意欲・態度】 学級生活に関心を持ち、話し合いの準備に進んで取り組もうとしている。 〈議題カード・学級活動ノート・観察〉
10月25日(火) 帰りの会	全 ・議題を決定する。	<ul style="list-style-type: none"> 計画委員の提案を基に全員で決定する。 	【知識・理解】 話し合い活動の準備の仕方や基本的な進め方を理解している。 〈学級活動ノート・活動計画書〉
10月27日(木) 朝の活動 ～ 11月1日(火) 朝の活動	計 ・学級会の活動計画を立て、学級活動ノートを作成する。 (話し合いのめあて・話し合うことでの決定)	<ul style="list-style-type: none"> 話し合いのめあては、教師側のねらいを含めながら、提案理由に沿って決めさせる。 話し合うことは、めあてとの関連を考えて選定するよう助言する。 学級会コーナーに活動計画を提示させ、自分の考えをまとめておくことを伝えさせる。 	
11月2日(水) 朝の活動	全 ・学級活動ノートに自分の意見を書く。	<ul style="list-style-type: none"> 提案理由や話し合いのめあてをもとに、自分の考えを理由とともに書くように助言する。 	

11月4日(金) 朝の活動	計 ・全員の学級活動ノートに目を通す。	・司会・副司会は教師とともに学級活動ノートに目を通し、話合いの見通しをもたせる。 ・黒板・ノート記録は意見カードを作成し、黒板貼り付けに備えさせる。
11月7日(月) 休み時間	計 ・学級活動ノートから出た意見を掲示しておく。	・話合いでは、比べ合いができるように、それぞれの意見に対して自分の考えをもっておくように伝える。
11月8日(火) 帰りの会	全 ・学級活動ノートを受け取り、教師からの言葉や自分の考えを確認する。	・配布前に教師からの励ましの言葉を書き添えておき、話合いに参加する意欲を高める。 ・提案理由や話合いのめあてを再度確認するよう助言する。
11月9日(水) 朝の活動 休み時間	計 ・話合いの進め方を確認する。	・司会進行の言葉を確認しながら、話合いの全体の流れをつかませる。

5 本時の展開

(1) 本時のねらい

みんなが楽しく活動できるような集会の計画を考えることができるようにする。

(3) 教師の指導計画

話し合いの順序	指導上の留意点	目指す児童の姿と評価方法
<p>1 始めの言葉</p> <p>2 計画委員の自己紹介</p> <p>3 議題の確認</p> <p>4 提案理由やめあて、決まっていることの確認</p> <p>5 話し合い</p> <p>①どんなボール遊びをするか。</p> <p>②チームのみんなです楽しむための工夫。</p> <p>③係はどうするか。</p> <p>6 決まったことの発表</p> <p>7 話し合いの振り返り</p> <p>8 先生の話</p> <p>9 終わりの言葉</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・一人一人が自分のめあてを言えるように指導しておく。 ・提案理由の中の大事な言葉をカードで提示し、話し合いの視点を意識して参加できるようにする。 ・「2梅 なかよしボールしゅう会」のプログラムを掲示し、議題への意欲を高める。 ・計画委員用の活動計画を準備し、司会や記録の近くに座って進行や掲示を支援する。 ・これまでの集会活動の振り返りを掲示し、振り返りを生かした発言ができるようにする。 ・事前に短冊を準備しておき、進行と板書がスムーズに進むようにする。 ・賛成意見やつなぐ意見から出し合うように司会に助言する。 ・理由をはっきり話すように促し、理由をよく聞いて考えを出し合うように助言する。 ・語彙が少なかったり説明が上手くできなくて意見が伝わらなかったりしたときは助言する。 ・話し合いが混乱したら、提案理由やめあてを確認するよう声をかける。 ・笑顔マークに短冊を移動する際の必要な助言をする。 ・意見が出ない時は、ペアで話し合いの時間をとるよう促す。 ・少数意見も大切に、全員が納得した上で集団決定できるようにする。 ・事前に意見を集約しておき、計画委員から原案を提示し、確認する。 ・みんなに伝わるように、声の大きさや体の向きについて支援する。 ・話し合いのめあてに対する振り返りや友達から学んだことについて記入するよう助言する。 ・めあてに沿った意見や計画委員の頑張りを称賛し、実践への見通しをもたせながら次の活動への意欲を高める。 	<p>【関心・意欲・態度】 司会や記録の仕事、話し合いに進んで取り組もうとしている。 〈観察・発言・学級活動ノート〉</p> <p>【思考・判断・実践】 みんなが楽しめるボール集会をするにはどのようにすればよいかを考えて発言している。 〈観察・発言〉</p>

6 事後の活動

日時	児童の活動	指導上の留意点	目指す児童の姿と評価方法
11月15日(火) 朝の活動	<ul style="list-style-type: none"> 学級会で決まったことを学級会コーナーに掲示する。 係の役割分担をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ノート記録を生かし、必要な部分を補足して掲示する。 複数名で担当し、協力して活動できるようにする。 	<p>【関心・意欲・態度】 決定したことについて、進んで準備や計画に取り組もうとしている。</p> <p>〈観察・準備物〉</p>
11月15日(火) 休み時間 ～ 11月17日(木) 朝の活動 休み時間	<ul style="list-style-type: none"> 係の準備 	<ul style="list-style-type: none"> 話合いで決まったことを大切にして実践するよう呼びかける。 意欲的に活動している児童や友達に協力している児童を称賛し、活動のめあてを考えて行動できるようにする。 	<p>【思考・判断・実践】 決定したことや役割を考え、仲よく助け合いながら実践している。</p> <p>〈観察・振り返りカード〉</p>
11月18日(金) 5校時	<ul style="list-style-type: none"> 「2梅 なかよしボールしゅう会」 会の終了後、感想等を振り返りカードに記入する。 	<ul style="list-style-type: none"> 必要に応じて助言し、進行はできるだけ児童に任せる。 振り返りカードには、学級会での話合いを生かした取組や工夫ができたかについて書くことを助言する。 自分たちの力でよりよい学級生活をつくろうとして、協力して頑張ったことを価値付ける。 	

7 板書計画

板書1 (黒板右: ホワイトボード)

議題 二梅 なかよしボールしゅう会をしよう

話し合う日 十一月十一日 (金) 三時間目

提案理由
 前にしゅう会かつどうをしたときに、赤白チームのみんなでなかよくあそぶことができました。こんどはごう車の友だちとチームになって、みんなでのしめるボールあそびができれば、「えがおでなかよくたすけ合い 元気ががんばるいきいき二梅」にもっと近づけると思っています、ていあんしました。

決まっていること
 ①やる日 十一月十八日 (金) 五時間目
 ②ばしょ こうりゆうホール
 ③ボールあそびは二つ
 ④ごう車ごとのチームでやる

板書2 (黒板)

話し合いのめあて
 ○チームのみんなでのしめるボールあそびとくふうを考えよう。
 ○友だちのいけんをよく聞いて、りゆうを言って話し合おう。

話し合うこと

10:25

①どんなボールあそびをするか

- ボールパスリレー
- まと当て
- ボールおくり
- ボールはこび
- ボーリング



チームのみんなでのしめる

- チームの名前をきめる。
- チームのマークをきめる。
- さくせんタイムをつくる。
- おうえんする。
- しようじようをあげる。

10:35

②チームのみんなでのしむためのくふう

10:50

③かかりはどうするか

- しかい
- あいさつ
- 時計
- しんばん
- しようじよう

二梅 なかよしボールしゅう会
プログラム

- 一 はじめのことば
- 二 ルールのかくにん
- 三 ボールあそび①
- 四 ボールあそび②
- 五 ひようしよう
- 六 ふりかえり
- 七 先生の話
- 八 おわりのことば

第4学年竹組 学級活動（1）指導案

指導者 中村 千尋
H28. 11. 11（3校時）

1 議題 「4竹 かるたを作ろう ～きらめきプロジェクト パート2～」

2 議題について

(1) 児童の実態（男子13名、女子17名、計30名）

男女ともに素直で明るく、仲良く活動することができる。係活動や当番活動などでは、話し合ったり譲り合ったりしながら、協力して活動している。授業時間も真剣に課題に取り組む姿が見られるが、学級全体をリードしたり、進んで自分の考えを発言したりする児童が少なく、人任せにしてしまう一面も見られる。

4月からの学級活動では、「学級の係を決めよう」「4竹ボールで仲良くなろう」「4竹ボールの使い方を見直そう」「後期もよろしくね・がんばろうね集会をしよう」を議題として、学級目標の達成を目指した話し合いを積み重ねてきた。話し合いを重ねるごとに、理由を明確にして自分の考えを発表できる児童が増えるとともに、集団決定したことを忠実に守ろうとする児童、進んで周りに声を掛ける児童の姿が多く見られるようになった。また、自分の意見を聞いてもらえたり、反映されたりすることの嬉しさを徐々に味わえるようになってきている。しかし、自分の考えに自信をもてない、発言することが恥ずかしいなどの理由で、発表することに消極的な児童も何人かいる。

5月に実施した学級活動アンケートでは、話し合ってみんなで決めていくことに楽しさを感じている児童が多いことから、「協力性・協調性」「聴く力」「話し合う力」「実践する力」については80%以上、「話す力」については63.3%と自己評価が高かった。しかし、話し合いを重ねていくにつれて、自分の意見に固執しすぎて周囲の児童が困惑してしまったり話し合いが停滞したりし、思うように進まないことがあった。その結果、9月のアンケートでは、「協力性・協調性」については5%上がったものの、「聴く力」「話し合う力」「実践する力」「話す力」については5月のアンケート結果を大幅に下回った。学級目標を意識し、みんなで協力して物事をやり遂げようとする意識は高まってきているが、出された意見をまとめたり、みんなが納得できるように説明したりすることに難しさを感じている。これからの話し合い活動を通して、自分の意見に固執せず、異なる意見にも耳を傾けたり折り合いを付けたりしながら、自分もよくみんなもよい内容や工夫を考えられるようにしていきたい。自分の考えに自信をもてない児童には、学級活動ノートに励ましの言葉を入れ、自信をもって意見を発言できるようにしていきたい。

(2) 議題選定の理由

本議題は、来年度のクラス替えを前に、4年竹組で一緒に過ごしてきた仲間と、「全員で作品を作りたい」という児童の提案によるものである。これまで学級目標を意識して活動したり、話し合い活動を行ったりすることで、集団への所属感が高まった。「きらめきプロジェクトパート1」では、「学級のいろんな友達と関わりたい」という提案の基、「後期もよろしくね・がんばろう集会」を開いた。集会活動では一人一人の特技発表とプロジェクトアドベンチャーを行い、友達のよさを再発見したり、ゲームを通して協力することや相手のことを考えて行動することの大切さ気付くことができた。このような体験から、学級のよさや再発見した友達のよさをみんなで確かめ合うためにかるたを作り、たくさんの友達と関わり合って更にまとまりのある学級にしていきたいと、今回の議題に選定され、その後、全員に諮り決定された。

本時は、「かるたの内容はどうするか」「4竹や4竹の友達のよさがよりあられる工夫」の2点について話し合う。「かるたの内容はどうするか」では、提案理由から話し合う際の考える視点を「友達のよさを確かめられる」「4竹のよさがあられる」とする。活動内容については学級活動ノートに意見を書き、それを計画委員でまとめ、「出し合う」段階を事前に行っておく。意見を比べる際には、意見を分類・整理して決めやすくするため、座標軸を活用しよりよい活動内容を見出すために賛成意見や反対意見を述べ合う。説明したり質問したりする時間を設け、内容をしっかり理解することができるようにする。

本議題について話し合ったり集団決定したことを実践したりすることを通して、学級の歩みを振り返るとともに、一人一人のよさや自分たちの成長した点、みんなでがんばってきたことなどについて、互

いに認め合う態度を育てたい。また、互いの考えを尊重しながら協力して一つの物を作ることを通して、学級への所属感を更に高めるとともに、自分たちの力でよりよい学級をつくっていかうとする自治的能力や自主的・実践的な態度を育て、高学年になる意識を高めていきたい。

3 第3学年及び第4学年の評価規準

集団活動や生活への 関心・意欲・態度	集団の一員としての 思考・判断・表現	集団活動や生活についての 知識・理解
学級の生活上の問題に関心をもち、他の児童と協力して意欲的に集団活動に取り組もうとしている。	楽しい学級生活を作るために話し合い、自己の役割や集団としてのよりよい方法などについて考え、判断し、協力し合って実践している。	みんなで楽しい学級生活をつくることの大切さや、学級集団としての意見をまとめる話し合い活動の計画的な進め方などについて理解している。

4 事前の活動

【計画委員会と学級全員の活動】

日時	児童の活動 計 計画委員会 全 学級全員	指導上の留意点	目指す児童の姿 と評価方法
10月14日(金) 帰りの会	計 ・議題の選定をする。 (提案された議題) ①「4竹かるたを作ろう」 ②「後期もよろしくね・がんばろうね集会をしよう」		【関心・意欲・態度】 学級生活の充実と向上に関心をもち、計画委員会の活動や話し合いの準備などに意欲的に取り組もうとしている。 〈議題カード・学級活動ノート・観察〉
10月18日(火) 帰りの会	全 ・議題を決定する。	・計画委員会の提案を基に全員で決定する。	
10月20日(木) 朝の活動	計 ・提案理由を確認し、話し合いのめあてを決める。 ・活動計画を決定して、学級活動ノートを作成する。 ・学級活動コーナーに活動計画を掲示する。	・提案者の理由に沿って、話し合いのめあてを決められるように助言する。 ・学級全員が理解できるように説明の仕方を助言する。 ・決まっていることや話し合うことなどを明確にして、話し合いの見通しをもたせる。	【知識・理解】 計画委員会の役割や話し合い活動の準備の仕方など、計画的な進め方を理解している。 〈活動計画書・観察〉
10月21日(金) 朝の活動 休み時間	全 ・学級活動ノートに自分の考えを書く。	・決まっていることを全員が理解できるように、条件を一つ一つ確認する。 ・提案理由の大事な言葉や話し合いのめあてを意識しながら考えるよう、助言する。	
10月24日(月) 朝の活動 休み時間	計 ・全員の学級活動ノートに目を通し、活動計画書を	・司会、副司会が全員の意見を把握して、活動計画書を作成することができるよう、学級	

	作成する。 ・学級活動ノートをもとに意見カードを作成したり、議題設定までの経緯を説明するための資料を作成したりする。	活動ノートと一緒に確認する。
10月27日(木) 朝の活動	計 ・学級活動ノートから出た意見を掲示し、全体に知らせる。	・話し合いでは、それぞれの意見を比べ合うことから始められるように、事前に提案された意見を掲示し、自分の考えをもっておくことを伝える。 ・取り上げられなかった意見についても、その理由を説明できるように、説明の仕方を助言する。
11月2日(水) 帰りの会	全 ・学級活動ノートを受け取り、教師からの言葉や自分の考えを確認する。	・学級活動ノートに教師からの言葉を書き添えておき、話し合いに参加する意欲を高める。 ・提案理由や話し合いのめあて、自分の考えを確認しておくよう助言する。
11月8日(火) 放課後	計 ・話し合いの進め方を確認する。	・活動計画書で話し合いの流れを確認し、話し合いの見通しをもたせる。

5 本時の展開

(1) 本時のねらい

学級や友達のよさを確かめ合うことができる「4竹かるた」の内容や工夫を考えることができるようにする。

(3) 教師の指導計画

話合いの順序	指導上の留意点	目指す児童の姿と評価方法
<p>1 はじめの言葉</p> <p>2 計画委員の自己紹介</p> <p>3 議題の確認</p> <p>4 提案理由やめあて、決まっていることの確認</p> <p>5 話合い</p> <p>①かるたの内容はどうするか。</p> <p>②4竹や4竹の友達のよさがよりあられる工夫。</p> <p>③係分担はどうするか。</p> <p>6 決まったことの発表</p> <p>7 話合いの振り返り</p> <p>8 先生のお話</p> <p>9 終わりの言葉</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の役割についてのめあてを発表させ、役割を意識させる。 ・提案者の思いを全員が理解し、話合いの指標となるように指導し、めあてと連動させておく。 ・話合いの視点がそれないように、決まっていることを一つ一つ確認する。 ・提案理由を意識し、自分もよく相手もよいことで、自分たちでできることを考えていくよう助言する。 ・座標軸の4つの部屋の意味をとらえやすいように、項目や軸を色分けしたり表情を表したカードを貼ったりする。 ・発言者が偏らないよう助言するとともに、できるだけ多くの児童に指名するようにさせる。 ・自分の考えに固執せず、納得した上で考えを変えるなど、折り合いを付けることも必要であることについて助言する。 ・全員の考えを事前にまとめておき、計画委員から原案を提示するようにする。 ・話合いのめあてに対する振り返りや、友達か学んだことについて記入するよう助言する。 ・計画委員にねぎらいの言葉をかけたり意欲的に参加している児童を賞賛したりして、実践への見通しをもたせながら意欲を高める。 	<p>【関心・意欲・態度】 司会や記録などの自分の役割、話合いに意欲的に取り組もうとしている。 〈観察〉</p> <p>【思考・判断・実践】 学級や友達のよさを確かめ合うためにどんな内容にするかや工夫できることについて、理由を明確にして分かりやすく発言している。 〈観察・学級活動ノート〉</p>

6 事後の活動

日時	児童の活動	指導上の留意点	目指す児童の姿と評価方法
11月14日(月) 朝の活動 休み時間	<ul style="list-style-type: none"> 決まったことを学級会コーナーに掲示する。 係の役割分担をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ノート記録を生かし、分かりやすい言葉で掲示できるよう助言する。 	<p>【関心・意欲・態度】 作品作りの準備や作成に進んで取り組もうとしている。 〈観察〉</p> <p>【思考・判断・実践】 決定したことや自分の役割を考え、協力し合って準備や制作に取り組んでいる。 〈観察・振り返りカード〉</p>
11月18日(金) ～ 12月9日(金) 朝の活動 休み時間	<ul style="list-style-type: none"> 制作の準備 制作開始 	<ul style="list-style-type: none"> 決めたことの実践に向けて、友達と協力したり工夫したりして活動している児童を称賛する。 話合いで決まったことを大切にして実践するよう呼び掛ける。 実践について振り返り、学級目標の実現に向けてみんなで協力して活動することができたことを価値づけ、称賛する。 	
12月9日(金) 帰りの会	<ul style="list-style-type: none"> 活動の振り返り 	<ul style="list-style-type: none"> 実践においての振り返りでは学級会の話合いを生かした取組や工夫ができたかについて書くことを助言する。 	

7 板書計画

板書1 (黒板右 貼付板)

議題

四竹かるたを作ろう くきらめきプロジェクト パート2

話し合う日

十一月十一日 (金) 三時間目

提案理由

このメンバーになって二年目、四年生になってからはみんなが学級目標を意きして、それに向かってがんばってきました。十月に行った「後期もよろしくね・がんばろう集会」は、友達の新たな一面を知る機会になり、一人一人のよさを見つげることができました。そこで、さい発見した友達のよさや四竹のよさをみんなでたしかめ合うために「四竹かるた」を作りたいと思います、てい案しました。

決まっていること

- みんなで一つの「四竹かるた」を作る。
- グループ(六人×五グループ)で分たんして作り、読み札を考えるときはみんなで相談する。
- 作る期間：二週間(朝の活動・休み時間)
- できあがったものは教室の後ろにけいじし、授業参かん日におうちのみにみてもらう。
- 松組、梅組の友達にも見せる。
- かるたの内容は二〜三つくらい。
- 絵札はA4たて書きでラミネートをかける、読み札はA6の画用紙にかく。

板書2 (黒板)

話し合いのめあて

- 四竹や四竹の友達のよさをたしかめ合うことができる「四竹かるた」の内容や工夫を考えよう。
- 理由をはつきりさせて自分の考えを発表しよう。

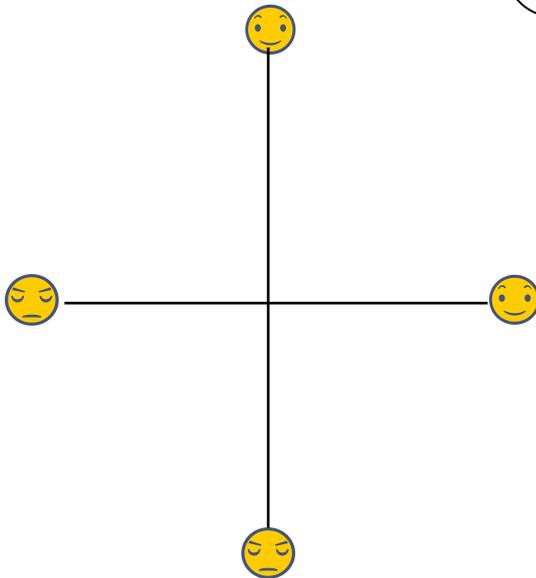
話し合うこと

①かるたの内容はどうするか。

四竹のよさがあらわれる

10:50

友達のよさをたしかめられる



- 行事の思い出
- 四竹のよさ
- 友達のとく意なこと
- 友達のながおえ
- 友達の口ぐせ
- 友達の好きな言葉
- 友達のしよう来のゆめ

11:02

②四竹や四竹の友達のよさがよりあらわれる工夫。

- ・読み札をならべると学級目標になるようにする。
- ・竹カラーを使う。
- ・学級目標を入れる。
- ・一人に一組の絵札と読み札ができるようにする。

11:20

③係はどうするか。(グループで分かれて作る)

- ・絵の係
- ・文字を書く係
- ・予定やその他の係

第5学年松組 学級活動（1）指導案

指導者 竹村 一郎
H28.11.11（2校時）

1 議題 「最高学年に向けて全校の手本になろう 5松プロジェクト」

2 議題について

(1) 児童の実態（男子12名、女子13名、計25名）

本学級の児童は、素直で明るく男女の仲も良い。5年生に進級して学級編制が行われ、新しい友人関係を築き、様々な学習活動に意欲的に取り組みながら、高学年らしい姿が見られるようになってきている。

これまでの学級活動では、学級目標の「みんな仲良く協力し合い・じっくり考え全力チャレンジ・笑顔満開5松」に向かい、男女が自然に協力し合いながら、意欲的に活動に取り組んでいる。話し合い活動では、4年生までの「話し合いの仕方」を基に、今年度は「思考ツール」も活用して集団決定の過程も意識させながら、学級の諸問題について話し合ってきた。その中で、学級活動の意味や計画委員の役割、学級会の進め方などについて学年・学校全体で共通理解を図ったことにより、話し合いから実践、振り返りまでの一連の流れは児童の中に定着してきている。その一方で、発表する児童の固定化や多様な意見を出し合えないなどの課題が見られたため、学級会ノートに自分の考えを書く際に、提案理由のどの部分に着目するか視点を与えることや、少数意見の理由をきちんと聞いて生かす方法を考えるようにすることなどを助言して、多くの児童から多様な意見を出し合えるようにしてきた。これまでの話し合いで決まったことの実践については、「自分達で決めたことは実践しよう・成功させよう」という気持ちが強く、意欲的に活動に取り組んでいる。また、活動後の振り返りをするようになったことにより、前回までの実践中にでた問題点の修正案が係から出され、次の話し合いに生かすことも増えてきている。

5年生では、高学年らしい自治的な集団になることを目指して、常に学級目標を意識した学級活動を行うことや「思考ツール」を活用した話し合いの中で「考える視点の明確化」と「目的意識の向上」を図ることに重点を置き活動してきた。その成果として、「学級活動アンケート（5月・9月）」で達成度をみると、聴く力（78.3%→81.3%）と話す力（68%→76%）、話し合う力（57.3%→66.7%）が大幅に向上した。一方、実践する力（82.7%→77.3%）と協力性・協調性（80%→77.3%）で数値の低下が表れ、事後の活動を充実させることに課題を残していることが分かった。そこで、これまでの活動を生かしながら、発表の根拠や理由をより明確にした話し合いを進めることで、互いの意見を尊重し合い、協力し合う気持ちと実践する意欲を高めていきたい。また、振り返りを基に問題点を修正する機会を設け、事後の活動をより充実させて最高学年に繋げていきたい。

(2) 議題選定の理由

本議題は、後期になり最高学年になることを意識し始めた児童の、「自分達は最高学年としてふさわしいだろうか」「全校のリーダーとしてお手本になれるだろうか」という自問から、現状を改善して学級目標にあるように、みんなが仲良く協力し、「全校の手本になるような、よい学級になろう」という児童の提案によるものである。他に、勤労感謝の日に関連付けた「お世話になっている人に感謝の気持ちを伝えよう」や諦めずに挑戦する気持ちを盛り上げるための「チャレンジ集会」などの提案もあったが、計画委員においては、「最高学年になるまで約4ヶ月しかないので、課題の克服が優先」という考えの基、今回の議題が選定され、その後、全員に諮り決定された。

本時は、「何に取り組むか」「どんな工夫ができるか」「係はどうするか」という3点について、互いの意見を尊重して協力し合いながら、計画して実践することを話し合う。話し合いでは、考えが練り合えるように、事前に計画委員が「座標軸」上に意見を集約させて提示し、それに対する自分の考えをもたせておきたい。工夫を考える場面では、思考ツールとして「ステップアップチャート」を活用し、自分の考えの変容や深化を確認できるようにし、集団決定までの過程を通して、「よりよい考えにしていく」という意識をもたせたい。

そして、その後の活動では、話し合いを生かして、自分の役割を自覚させるとともに、仲間と協力し合うことが必要であることを実感させて、最高学年に向けた自治能力の向上を目指した展開にしていきたい。

3 第5学年及び第6学年の評価規準

集団活動や生活への 関心・意欲・態度	集団の一員としての 思考・判断・実践	集団活動や生活についての 知識・理解
学級や学校の生活の充実と向上にかかわる問題に関心を持ち、他の児童と協力して自主的に集団活動に取り組もうとしている。	楽しく豊かな学級や学校の生活をつくるために話し合い、自己の役割や責任、集団としてのよりよい方法などについて考え、判断し、信頼し支え合って実践している。	みんなで楽しく豊かな学級や学校の生活をつくることの意義や、学級集団としての意見をまとめる話し合い活動の効率的な進め方などについて理解している。

4 事前の活動

【計画委員会と学級全員の活動】

日時	児童の活動 計画委員会 全学級全員	指導上の留意点	目指す児童の姿 と評価方法
10月14日(金) 放課後	計 ・議題を選定する。 ①「最高学年に向けて全校の手本になろう5松プロジェクト」 ②「お世話になっている人に感謝の気持ちを伝えよう」	・学級の実態にあった議題を選定するように助言する。	【関心・意欲・態度】 5松のよさについて真剣に考え、計画委員会の活動や話し合いの準備などに自主的に取り組もうとしている。 <議題カード・学級活動ノート・観察>
10月18日(火) 帰りの会	全 ・議題を決定する。	・計画委員会の提案を基に全員で決定する。	
10月19日(水) 朝の活動 ～ 10月21日(金) 朝の活動	計 全 ・提案理由を確認する。 ・話し合いのめあてを決める。 ・活動計画を決定して、学級活動ノートを作成する。 ・学級会コーナーに活動計画を掲示する。	・学級全員に提案の趣旨が伝わるように、分かりやすい提案理由となるよう助言する。 ・提案者の提案理由に沿って、話し合いのめあてを決める。 ・決まっていることや話し合うことなどを明確にして、話し合いの見通しをもたせる。	【知識・理解】 計画委員会の役割や話し合い活動の準備の仕方など、効率的な進め方を理解している。 <活動計画・学級活動ノート>
10月25日(火) 学活の時間	全 ・学級活動ノートに自分の考えを書く	・条件を共通理解させる。 ・提案理由の大事な言葉や、話し合いのめあてを意識しながら考えるように助言する。	
10月27日(木) 朝の活動 長休み	計 ・活動計画書を書く。 ・全員の学級活動ノートに目を通す。	・司会や副司会は、意見に目を通して一人一人の意見を把握して、活動計画書を作成する。 ・黒板、ノート係は意見カードを作成し、黒板貼付に備える。	
11月4日(金) 放課後	計 ・意見カードをホワイトボ	・意見カードを座標軸に整理しながら、話し合いの方向性につ	

	ードの座標軸に掲示して、全体に知らせる。	いて確認する。
11月7日(月) 帰りの会	全 ・ホワイトボードに掲示された座標軸を見て、意見の相関と自分の考えを確認する。	・話し合いでは、それぞれの意見を比べ合うことから始められるように、座標軸に貼られた意見を見て、自分の考えをもっておくことを伝える。
11月8日(火) 朝の活動 帰りの会	全 ・学級活動ノートを受け取り、教師からの言葉や自分の考えを確認する。	・配布前に教師からの励ましの言葉を書き添えておき話し合いに参加する意欲を高める。 ・提案理由や話し合いのめあて再確認しながら、自分の考えを確認するよう助言する。
11月10日(木) 放課後	計 ・話し合いの進行の仕方を確認する。	・全員の学級会ノートを確認して、準備したことをもとに話し合いの見通しをもたせる。

5 本時の展開

(1) 本時のねらい

みんなで協力しながら、よりよい学級になるための活動や工夫を考えることができるようにする。

(3) 教師の指導計画

話し合いの順序	指導上の留意点	目指す児童の姿と評価方法
<p>1 始めの言葉</p> <p>2 計画委員の自己紹介</p> <p>3 議題の確認</p> <p>4 提案理由やめあて、決まったことの確認</p> <p>5 話し合い</p> <p>①よりよい学級になるために何に取り組むか</p> <p>②どんな工夫をするか</p> <p>③係分担はどうするか</p> <p>6 決まったことの発表</p> <p>7 話し合いの振り返り</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の役割についてのめあてを発表させ、役割をしっかりと意識させる。 ・提案者の思いを全員が理解し、話し合いの指針となるように指導し、めあてと連動させておく。また、話し合いのときに意識させたいキーワードを確認しておく。 ・座標軸に表す意見は、あらかじめ計画委員で検討した結果を提示し、それを全体で検討するようにする。 ・根拠をはっきりさせて発表させ、聴く側も根拠に注意して聞くようにさせる。 ・自治的活動の範囲を超えそうなときは、必要に応じて助言する。 ・できるだけたくさんの方の考えを引き出すように指名することを助言する。 ・少数意見に対しても十分に耳を傾け、それを生かす工夫がないか考えたり、反対意見の真意をよく聞き、それらを生かす方法がないかを考えるように助言する。 ・他者の意見からの繋がりを常に意識し、自分の考えをさらに深められるよう適切な指導と助言を行うようにする。 ・自分の考えに固執せず、互いの考えに耳を傾けながら、無理なく公平に折り合いをつけさせていく。 ・ステップアップチャートを活用して、よりよい考えにまとめていく思考の手助けになるようにする。 ・全員の考えを事前にまとめておき、原案を提示するようにする。 ・話し合いのめあてに対する振り返りや友達から学んだことについて記入するように助言する。 ・提案理由を意識した発言や学級全体を考え 	<p>【関心・意欲・実践】 司会や記録の仕事，話し合いに積極的に取り組もうとしている。 〈観察〉</p> <p>【思考・判断・実践】 少数意見にも十分に耳を傾け，それを生かす方法はないか考えたり，反対意見をよく聞き，改善策を考たりして発言している。 〈観察・学級活動ノート〉</p>

8 先生の話	た建設的な発言を称賛する。 ・計画委員にねぎらいの言葉をかけ、実践への見通しをもたせながら意欲を高める。	
9 終わりの言葉		

6 事後の活動

日時	児童の活動	指導上の留意点	目指す児童の姿と評価方法
11月14日(月) 放課後	・決まったことを学級会コーナーに掲示する。 ・係の役割分担をする。	・ノート記録を生かし、分かりやすい言葉で掲示する。係分担も分かるようにする。	【関心・意欲・態度】 決定したことについて、自主的に準備や計画に取り組もうとしている。 〈観察〉
11月15日(火) ～ 11月30日(水)	・決まったことに取り組む。	・決めたことの実践に向けて、自分の役割を果たすとともに友達と協力したり、工夫したりして活動している児童を賞賛する。	【思考・判断・実践】 自他の役割、創意工夫などについて考え、信頼し支え合って実践している。 〈観察・振り返りカード〉
12月1日(木) 朝の活動	・振り返りカードに取り組んで思ったことを記録する。	・実践においての振り返りでは学級会での話合いを生かした取組や工夫ができたかについて書くことを助言する。	

議題

最高学年に向けて全校の手本になろう 5松プロジェクト

話し合う日

十一月十一日 (金) 二時間目

提案理由

私達は、約四ヶ月で最高学年になります。十月の「5松がんばりアンケート」では、全校の手本になるために、「がんばらなければいけないこと」がたくさんあることが分かりました。そこで、いまますぐ学級で取り組まなければならないことや、手本となるための工夫を話し合い、最高学年らしい学級をめざしたいと考えて提案しました。

決まっていること

- ① 何に取り組むかは、二つ決める。
- ② 学級の全員が協力して、よりよい学級をめざして取り組める内容にする。
- ③ 決めたことに取り組む期間は、十一月十五日から三十日までにする。全校のみんなに見てもらえるように知らせる。

どんな工夫をするか

- ・ 相手を意識してする。
- ・ 役割分担をはっきりさせる。
- ・ 声をかけ合う。
- ・ 振り返りを生かして改善策を考える。
- ・ 歌うときに場所を変える。
- ・ じょうずにできるこつを紹介する。

話し合いのめあて

- みんなで協力して学級をよりよくし、全校の手本になることを考えよう。
- 友達の見意のよさを生かして、話し合おう。

話し合うこと

① 何に取り組むか。

いまますぐ学級で取り組むこと

あいさつ

朝の会の歌

男女が協力する

5分前行動

無言清掃

廊下のくらし方

全校の手本になれる

② 手本にしてもらえるための工夫

まとめる

比べ合う

出し合う

9:51

9:29

9:17

③ 係分たんはどうするか。

第6学年竹組 学級活動（1）指導案

指導者 佐藤 洋子
H28. 11. 11（3校時）

1 議題 「卒業文集を作ろう～6竹 思い出のオリジナルページ～」

2 議題について

(1) 児童の実態（男子14名、女子13名、計27名）

本学級の児童は男女の仲がよく、休み時間は一緒に遊んだり当番や係の活動、グループ学習などを協力して頑張ったりしようとする気持ちをもっている。決められたことにはまじめに取り組み、最後までやり遂げようとする児童が多い。しかし、自分から率先して物事に取り組み仲間を引っ張っていこうとする児童は限られており、なかには興味や関心のないことは人任せにしてしまう児童もいる。

これまでの学級会では、学級目標の中の「積極的に挑戦」や「信頼される6竹」を強く意識し、月ごとの挑戦目標を決めて実践してきた。挑戦目標には、「給食の準備や片付けの時間を短くしよう（6月）」のように学級の問題点を改善する内容や「気持ちのよいあいさつを広げていこう（7月）」のように自分たちのよさを更に伸ばし、全校に広げる内容などが盛り込まれていた。その挑戦目標を達成しようとする活動を通して、自分や学級全体を見つめ直し、協力してよりよくしていこうという気持ちが強くなった。さらに、学校全体のことも考えようとするようになってきており、最高学年としての自覚の高まりが感じられる。また、「1年生と仲良くなろう」や「5年生に思いを伝えよう」など下級生とのよりよい関わりについても話し合い、交流してきた。学級会で話し合っただけで決めたことは実行しなければならないという思いをもって取り組んでおり、その振り返りからは達成感や充実感、新たな課題の気付きなど前向きな姿勢が感じられる。

学級活動についてのアンケートでは、話し合い活動を「いろいろな意見を聞くことができ楽しい」「みんなで学級のことを決めて行動することで学級がよくなっているのが分かる」などの理由から肯定的に捉えている児童が多い。一方、「説得力のある理由を言えない」「話し合いの中で、友達の意見を尊重して代案を出したりみんなで意見を出し合っただけで考えを高めたりする意見を言えない」と苦手意識をもっている児童もおり、話し合いが進んでいくと積極的に発言する児童だけに任せてしまいがちな場面も多く見られる。「少数意見の生かし方や反対意見の改善策を考えながらの話し合い」について特に難しいと感じている児童が5月のアンケートでは33.3%おり、話し合い活動での一番の課題であった。そこで、「比べ合う」「まとめる」段階で折り合いを付けるための具体的な考え方や伝え方を助言し、話し合いの経験を積んできた。9月のアンケートでは22.2%となり、少しずつではあるが改善されてきている。

(2) 議題選定の理由

卒業までの見通しをもち、自主的に活動できるようにしたいと考え、学年で3つの卒業プロジェクトチーム（感謝、思い出づくり、足跡）を立ち上げ、活動内容についての計画を立てた。その中の足跡チームから卒業文集に学級のページを盛り込む計画が出された。それを受け、「6竹の楽しい思い出が表せるページにしたい。」「6竹のよさが表れるようなページにしたい。」という児童の思いから本議題が提案された。卒業への意識が高まりつつあることや一人一人の思いを生かした卒業文集を作りたいという考えの基、今回の議題に選定され、その後全員に諮り決定された。

学級会では、話し合うこと①の「オリジナルページの内容」については、「比べ合う」段階から話し合いを行う。そこでは、提案理由や話し合いのめあてを基に考え、よりよいものを見付けられるようにするために座標軸を活用する。話し合うこと②の「内容をよりよくするための工夫」では、これまでの話し合い活動の課題を受け、少数意見を生かしたり改善策を考えながら話し合ったりすることができるようにするためにステップアップチャートを活用する。その際、出された意見から選ぶだけでなく、話し合いを通してよりよい考えに創り上げ、個の考えを全体の考えへと高めることが実感できるようにしたい。

本議題の指導に当たっては、まず学級全体でこれまでの生活を振り返る機会を設け、その歩みが思い出の一つ一つになるということ、その大切な思い出を残すための1つが卒業文集であることを理解させ、「6竹の仲間でも過ごした思い出が詰まったページを自分たちで作りたい」という思いを全員が強くもつようにさせたい。そして、「自分たちはこんな卒業文集を作りたい」というイメージや思いをもつことができるようにするためにこれまでの卒業文集を提示しておくようにする。自分たちの卒業文集を作ると

いう目標を共有し、卒業文集に対する互いの思いを大切にしながら話し合ったり一人一人が役割を分担して作成したりすることで、所属感や連帯感を高めるとともに、自分たちの力で成し遂げたという達成感や友達と協力することの楽しさを実感させていきたい。そして、自分たちのクラスのよいところを伸ばし、まとまりを強め、卒業に向けて一層学校生活を充実させていこうとする気持ちを高めていきたい。

3 第5学年及び第6学年の評価規準

集団活動や生活への 関心・意欲・態度	集団の一員としての 思考・判断・実践	集団活動や生活についての 知識・理解
学級や学校の生活の充実と向上にかかわる問題に関心を持ち、他の児童と協力して自主的に集団活動に取り組もうとしている。	楽しく豊かな学級や学校の生活をつくるために話し合い、自己の役割や責任、集団としてのよりよい方法などについて考え、判断し、信頼し支え合って実践している。	みんなで楽しく豊かな学級や学校の生活をつくることの意義や、学級集団としての意見をまとめる話し合い活動の効率的な進め方などについて理解している。

4 事前の活動

【計画委員会と学級全員の活動】

日時	児童の活動 計 計画委員会 全 学級全員	指導上の留意点	目指す児童の姿と 評価方法
10月21日(金) 帰りの会	計 ・議題を選定する。 ・提案者と打ち合わせをする。 ・役割分担をする。 (提案された議題) ①「6竹の思い出のページを作りたい」 ②「下級生や学校のためにクリーン作戦をしたい」	・議題選定の理由を学級全員が理解できるように説明の仕方を助言する。	【関心・意欲・態度】 6竹の思い出が表せ、6竹のよさが表れるオリジナルページを作ることに関心を持ち、計画委員会の活動や話し合いの準備などに自主的に取り組もうとしている。 〈議題カード・学級活動ノート・観察〉
10月24日(月) 帰りの会	全 ・議題を決定する。	・計画委員の提案を基に全員で決定し、文集作りへの意欲を高められるようにする。	【知識・理解】 計画委員会の役割や話し合い活動の準備の仕方など、効率的な進め方を理解している。 〈観察・活動計画書〉
10月25日(火) ～ 10月28日(金) 朝の活動	計 ・提案理由を確認する。 ・話し合いのめあてを決める。 ・活動計画を決定して、学級活動ノートを作成する。 ・学級会コーナーに活動計画を提示する。	・学級全員に提案の趣旨が伝わる分かりやすい提案理由になるように助言する。 ・提案者の提案理由に沿って、話し合いのめあてを決めるように助言する。 ・決まっていることや話し合うことなどを明確にして、話し合いの見通しをもたせる。	
10月31日(月) 朝の活動 休み時間	全 ・学級活動ノートに自分の意見を書く。	・決まっていることを全員が理解できるように、一つ一つ条件を確認する。	

		<ul style="list-style-type: none"> ・提案理由の大事な言葉や話合いのめあてを意識しながら考えるように助言する。
11月2日(水) ～ 11月4日(金) 朝の活動 休み時間	計 <ul style="list-style-type: none"> ・全員の学級活動ノートに目を通す。 ・活動計画書を書く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・提案理由やめあてに沿った意見かどうかを確認したり、意見を分類したりして話合いの流れを確認する。 ・集約した意見を話合いが行いやすい配置を工夫して板書計画を立てるようにする。
11月7日(月) ～ 11月9日(水) 朝の活動 休み時間	計 <ul style="list-style-type: none"> ・学級活動ノートから出た意見を掲示し、全体に知らせる。 全 <ul style="list-style-type: none"> ・掲示された意見を見て、意見の相関と自分の考えを確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・話合いでは、それぞれの意見を比べ合うことから始められるように、事前に意見を掲示し、自分の考えをもっておくことを伝える。 ・分からない意見に質問したり出ている意見を説明したりすることで、学級全体で意見の共通理解が図られるようにする。
11月10日(木) 帰りの会	全 <ul style="list-style-type: none"> ・学級活動ノートを受け取り、教師からの言葉や自分の考えを確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・配布前に教師からの励ましの言葉を書き添えておき、話合いに参加する意欲を高める。 ・提案理由や話合いのめあてを再度確認しながら、自分の考えを確認しておくよう助言する。
11月10日(木) 放課後	計 <ul style="list-style-type: none"> ・話合いの進行の仕方を確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・活動計画書や板書計画を見ながら、話合いの流れを確認し、話合いの見通しをもたせる。

5 本時の展開

(1) 本時のねらい

6竹の思い出が表せるページ，6竹のよさが表れるページにするための内容や工夫について考えることができるようにする。

(3) 教師の指導計画

話合いの順序	指導上の留意点	目指す児童の姿と評価方法
<p>1 始めの言葉</p> <p>2 計画委員の自己紹介</p> <p>3 議題の確認</p> <p>4 提案理由や話合いのめあて、決まっていることの確認</p> <p>5 話合い</p> <p>①オリジナルページの内容</p> <p>②内容をよりよくするための工夫</p> <p>③係はどうするか。</p> <p>6 決まったことの発表</p> <p>7 話合いの振り返り</p> <p>8 先生の話</p> <p>9 終わりの言葉</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の役割についてのめあてを発表させ、役割をしっかり意識させる。 ・提案者の思いを全員が理解し、話合いの指針になるように事前に指導する。 ・提案理由に沿っためあてになるよう事前に指導する。 ・話合いの視点がそれないように、決まっていることを一つ一つ確認する。 ・「比べ合う」段階から話合いを始めることができるように意見を学級活動コーナーに掲示し、質問を出し合い共通理解を図っておく。 ・座標軸を活用して「6竹の思い出が表せるもの」「6竹のよさが表れるもの」を3つくらい選べるようにする。 ・友達の見解とのつながりを意識し、自分の考えをさらに深められるよう適切な指導や助言を行う。 ・工夫について考えやすくするための視点を計画委員と一緒に考えて準備しておき、掲示する。 ・ステップアップチャートを活用し、考えを付け足したり改善したりして、よりよい考えにまとめていく思考の手助けになるようにする。 ・意見が出にくいときは、グループで話合いの時間をとるようにする。 ・少数意見も大切にし、納得した上で決定につなげていく。 ・全員の考えを事前にまとめておき、計画委員から原案を提示するようにする。 ・話合いのめあてに対する振り返りや友達から学んだことについて書くよう助言する。 ・意見のよさを生かそうとした発言やつながりのある発言、めあてに沿った発言などを取り上げて賞賛し、実践への意欲付けを行う。 	<p>【関心・意欲・態度】 計画委員としての役割を自覚し、集団決定のためのよりよい方法を考えながら、協力し合って会を進行している。 <観察></p> <p>【思考・判断・実践】 提案理由や話合いのめあてに沿って少数意見を生かす方法や改善策を考え、発表している。 <観察・学級活動ノート></p>

6 事後の活動

日時	児童の活動	指導上の留意点	目指す児童の姿と評価方法
11月14日(月) 朝の活動 休み時間 帰りの会	<ul style="list-style-type: none"> 決まったことを学級活動コーナーに掲示する。 係の役割分担をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ノート記録を生かし、必要な部分を補足し掲示する。 全員が役割を受けもち、一人一人が責任をもって実践できるようにする。 	<p>【<u>関心・意欲・態度</u>】 決定したことについて、自主的に準備や計画に取り組もうとしている。</p> <p>〈観察・学級活動ノート〉</p>
11月16日(水) ～ 12月6日(火) 朝の活動	<ul style="list-style-type: none"> 担当ごとに構想を練り、全体に知らせる。 担当ごとに準備し、6竹思い出のページを作る。 	<ul style="list-style-type: none"> 決めたことの実践に向けて、自分の役割を果たすとともに友達と協力して準備できるような声をかけ、協力したり工夫したりして活動している児童を賞賛する。 	<p>【<u>思考・判断・実践</u>】 自分や友達の役割、工夫などについて考え、信頼し支え合って実践している。</p> <p>〈観察・学級活動ノート〉</p>
12月7日(水) 帰りの会	<ul style="list-style-type: none"> 活動を振り返る。 	<ul style="list-style-type: none"> 実践についての振り返りでは学級会での話合いを生かした取組や工夫ができたかについて書くことを助言する。 	<p>〈観察・学級活動ノート〉</p>